○陸軍歩兵特務曹長井川官次郎は出來島町の人卅七年四月充員召集に應し第十一師團兵站部書記となり七月青泥窪に至り任曹長三十里堡後革鎮堡等に在る二ヶ月許九月留守第十一師團司令部付となり十二月任特務曹長卅八年一月再出征して柳樹屯に上陸し三月以降韮子峪馬群丹營磐等に轉戰し十月奉天附近に宿營し十一月十五日多度津に凱旋す廿一日召集解除となる勳六等單光旭日章一時金參百圓を下賜せらる

○陸軍少將木村有恒は富田浦町の人嘉永四年生る明治三年十二月大阪兵學寮青年舍に入り五年少尉六年中尉に累進し八年從七位に叙せられ十年三月廿日撰抜隊第二中隊長心得を以て鹿兒島逆徒征討として九州地方へ出張し十月凱旋し十一月大尉に任せらる功に依り叙勳五等賜双光旭日章年金百圓十三年一月叙正七位十七年任少佐六月叙從六位勳四等賜旭日小授章廿三年十月近衛歩兵第二聯隊第一大隊長となり廿五年三月叙正六位廿六年二月戰術學生として戸山學校に入學し四月歸隊廿七年八月歩兵中佐第三聯隊長を以て東京を發し十月清國花園河口に上陸し翌年五月平和克復に至るまで征戰に從事す廿七八年戰役の功を以て功四級金鵄勳章旭日中綬章の叙賜を拜し尋て占領地に駐屯し卅年六月歸還叙從五位任大佐卅四年五月任少將叙正五位卅六年臺灣守備混成第一旅團長となる卅七年十月基隆を發し門司に上陸し更に宇品を發して青泥窪に上陸す二月十四日近衛歩兵第一旅團を以て軍に臨み各地に轉戰して五月卅日叙勳二等賜瑞寶章十二月四日東京に凱旋し卅九年四月一日卅七八年戰役の功に依り功三級金鵄勳章勳二等旭日重光章の叙賜あり尋て從四位に叙せらる

○同砲兵大尉笹本菊太郎は福島町の人卅七年三月陸軍學生として東京帝國大學工科在學中動員下令に接し砲兵第四聯隊附として復隊し四月補充大隊中隊長となり五月野戰砲兵第四聯隊附として復隊し四月補充大隊中隊長となり平大石橋附近の戰鬪に參加し八月任大尉遼陽戰鬪に參加す十月沙河會戰に從事し叙正七位終に卅八年二月六日まで同地に對陣す尋て奉天會戰に參加し十月十日第四聯隊副官陸軍兵器本廠檢査官に轉し十五日陸軍技術審査部御用係となり十月廿六日宇品に凱旋す功五級金鵄勳章勳五等旭日双光章の叙賜あり

○陸軍一等軍醫古川武平は寺島町の人卅七年四月廿三日應召第十一師團第一野戰病院附となり五月廿七日暇家屯に上陸し廿八日丁家荘に於て兵站病院の勤務に從事し六月旅順方面鏡冠山附近の戰鬪に際し陵水河子に於て野戰病院の勤務に從事

し尋て同地舍營病院に轉し七月劍山附近老座山大白山の戰鬪に際し亦同野戰病院に勤務し八月旅順本防禦線攻撃に際しては山川柳大孤山北麓等に於て野戰病院の勤務に從事し十月十二日普通寺豫備病院附となり宇品を經て歸還し十一月四日普通寺豫備病院報告主任兼同院傳染病院長を命せられ廿八年二月松山聯隊區徵兵醫官となり六月普通寺衛戍病院附となり七月同上を免せられ高知病院附に補せらる

功に依り勳六等双光旭日章並金六百圓を賜ふ

○陸軍工兵中尉富永史朗は前川村の人廿年九月陸軍中央幼年學校に入り廿五年六月任工兵少尉第四大隊附となる廿七年二月廿八日大阪築港より乘船し韓國仁川に至り尋て盛大澳に上陸し五月金州城南山得利寺蓋平五臺山大石橋等の諸戰に參加し八月工兵中尉九月鞍山站首山堡遼陽等の諸戰を經て沙河會戰に參加す爾後李大人屯大臺高家子張莫堡の防禦工事に從事し廿八年三月奉天會戰に參加せり尋て昌圖西方工事に從事せり七月四日補充隊附に轉し宇品に凱旋す右戰役の功に依り功五級金鵄勳章勳六等單光旭日章の叙賜あり

○同中佐川人潔太郎は佳吉島村士族にして明治廿七八年の役既に勳功を立つ先是十九年八月士官學校に入り廿二年任工兵少尉廿四年砲工學校に入學し廿五年叙正八位廿六年進中尉砲工學校を卒業し叙從七位廿九年十一月任工兵大尉十二月叙正七位廿七年六月名古屋を發し宇品を經て戰地に赴かんとす十四日沖島附近に至るや敵艦に遂着し包圍攻撃を受く十六日急報艇司令として門司港に上陸し十八日實況報告の爲め上京す廿八日門司に歸還し七月一日再ひ同地を發して七日青泥窪に上陸し直に普蘭店に到りて任務に就けり廿八年六月宇品に歸還し七月十七日充員下令第十六師團參謀となり八月再門司を出發し大連に上陸し奉天以內の守備に任し鐵嶺を發し東八里庄に到着す先是七月任工兵中佐尋て九月叙正六位十月十六日平和克復し廿九年五月七日門司に凱旋す戰役の功に依り功四級金鵄勳章旭日小綬章の叙賜を拜して第十二師團に勤務せり

○陸軍步兵中尉渡邊喜一は佐古町平民なり中學を卒業の後廿三年八月士官候補生を命せられ十二月步兵第四十一聯隊に入り廿四年十二月陸軍士官學校に入る廿六年六月任少尉叙正八位廿七年五月第同聯隊第八中隊に屬して出征の途に上る二十日張家屯に上陸し進て曲家屯得利寺蓋平大石橋析木城等に轉戰し八月第八中隊小隊長を免せられ聯隊旗手となる遼陽沙河黑溝臺の諸戰に參加し廿八年二月任中尉聯隊旗手を免し第四中隊小隊長を命せらる奉天會戰に參加し三月叙從七位步兵第

九旅團副官に轉ず卅九年一月一日宇品に凱旋す戰功に依り功五級金鵄勳章勳六等單光旭日章の叙賜あり第五師團歩兵第四十一聯隊第四中隊に勤務す

○陸軍砲兵中尉山内治郎は下助任村の人卅七年四月充員召集に應し第十一師團彈藥大隊第三砲兵彈藥縱列に編入せられ六月出征して第三軍に屬せり劍山大白山等の戰闘に參加し傍ら糧食輸送を助く八月旅順本攻圍戰に參加し又本務の外築城材料糧食輸送等を助け以て開城の時に及へり卅八年二月鴨綠江軍に屬し清河城馬群丹撫順各地に轉戰し卅九年一月凱旋せり卅九年四月卅七八年戰役の功に依り勳六等單光旭日章金參百五拾圓の叙賜あり

○陸軍騎兵特務曹長若林鐵五郎は北山路町の人卅七年十一月騎兵第十一聯隊補充隊に應召し德島聯隊區司令部附となり卅八年十一月騎兵第十一聯隊補充隊に轉屬し任特務曹長尋て召集解除せらる功に依り青色桐葉章金貳百圓の叙賜あり

○同歩兵特務曹長貝原盛藏は助任町の人卅七年十一月臨時召集に應し歩兵第四十三聯隊補充大隊第五中隊に編入せられ十二月任特務曹長第十二中隊に屬し出征す瓢起屯に於て第九中隊第二小隊長となり蒼什附近に戰闘す四月廿六日より五月二日に至る七日間内に渾家の上流約六十間の架橋に從事し英額邊門附近牟魚嶺大石橋南山城子等に轉戰し卅九年一月多度津に凱旋す尋て召集解除せらる四月一日卅七八年戰役の功に依り勳六等單光旭日章及金四百圓の叙賜あり

○海軍一等厨宰加藥來藏は富田浦町士族にして卅七八年日清の役一等主厨を以て從軍し其戰役の功に依り勳八等瑞寶章金參拾五圓の叙賜を拜し卅三年八月軍艦嚴島乘組員を以て北清事變に從事し其年功に依り金五拾圓を賜ふ卅四年十一月任一等厨宰卅年五月勳七等に叙し瑞寶章を授け賜ふ卅七年一月聯合艦隊附屬敷設隊に入隊し同六日佐世保を發して戰役に服す卅八年四月水雷沈置船旅順丸に假乘し特別任務に從事す九月佐世保に歸還し十月現役解除に付退圍す四月一日卅七八年戰役の功に依り青色桐葉章及金參百五拾圓の叙賜あり

○陸軍砲兵少佐田村六郎は南佐古村の人卅七年二月近衛師團彈藥大隊長を以て廣島に衆中し三月韓國鎭南浦を經て北進し鴨綠江の戰闘に參與す尋て鳳凰城遼陽を過き樣子嶺附近の戰闘に參加す八月遼陽本防禦より各地に轉戰して沙河戰闘に參與す十一月野戰砲兵聯隊第二大隊長に轉し卅八年二月奉天戰に參與す參月に至り連戰第三軍と相對して敵の退路を扼す大山總司令官より師團に對し感狀を授與せらる尋て鐵嶺より追撃し百官屯に至りて滯在す四月後備第一師團後備野戰砲兵聯

○軍人功績履歷

隊第一大隊長に轉し興京附近に於て露軍の最左翼と對峙し偵察の爲め砲戰を交ふ
平和克復に及び廿九年一月一日神戸に凱旋す四月一日廿七八年戰役の功に依り功
四級金鵄勳章勳四等旭日小綬章を授けらる
○陸軍歩兵少佐鈴木幸次郎は住吉島村の人廿八年一月應召國民歩兵大隊附となり
二月第十一師團松山俘虜收容所委員を命せらる八月白方村俘虜警衛の爲め多度津
に分遣十一月復員に付解散廿七八年戰役の功に依り金八百圓を下賜せらる
○陸軍一等主計小出英允は德島町の人廿八年七月第十一師團第四野戰病院附を以
て善通寺に着し八月大連灣に上陸し前進して金州得利寺大石橋遼陽撫順蒼什等を
經て八家子に至り舍營病院を開設す十一月病に罹り後送せられ歩兵第四十四聯隊
補充大隊に編入せらる廿九年一月召集解除せらる戰役の功に依り勳四等旭日小綬
章及金四百圓の叙賜あり
○陸軍歩兵中尉穗積堯晴は富田浦町士族にして廿七年四月野戰歩兵第三聯隊に屬
して京を出發し五月猴兎石附近海岸に上陸し第二軍に編入せらる五月下旬金州
及南山戰圖に參加し追擊隊となり南關嶺を占領す六月第三軍に屬し營城子双臺溝
四字型高地等の戰圖に參加し八月中尉に任せらる同月下旬旅順要塞第一回總攻擊
に參加し九月又第二回攻擊に參加し砲彈傷を受け十月內地に歸還す廿九年四月廿
七八年戰役の功に依り功五級金鵄勳章勳六等單光旭日章の叙賜を拜す
○同工兵中尉小出廣太郎は西富田浦町士族にして工學得業士の稱號を得て身を敎
育界に委す廿七年六月充員召集に應す先是任陸軍工兵少尉叙正八位七月出征し十
一月任工兵中尉十二月叙從七位廿八年十一月凱旋し十二月召集解除せらる廿九年
四月戰役の功に依り勳六等單光旭日章金四百圓の叙賜あり
○陸軍砲兵少尉富村惠三は富田浦町の人夙に要塞砲兵幹部練習所に入り卒業の後
由良要塞砲兵附となれり廿七年五月勳員下令徒歩砲兵第一聯隊附として六月横須
賀を發し出征す八月第三軍に屬し梨嵐子附近の十二珊米加農砲臺に於て旅順背面
攻擊に從事し尋て各地の砲臺に於ける砲戰に參加す十一月任少尉十二月叙正八位
此月廿一日徒歩砲兵第一聯隊は二龍山攻擊の功に仍り第三軍司令官の感狀を受け
廿八年一月四日には滿州軍總司令官より第三軍に對して感狀を附與せられたり此
月獨立重砲兵旅團編成に際し本第一聯隊は之に屬す尋て又分屬ありて沙河奉天の
諸戰に從事し三月廿三日第四軍司令官の感狀を附與せらる廿九年三月凱旋し復員
解隊となれり戰役の功に依り功五級金鵄勳章勳六等單光旭日章の叙賜あり

○軍人功績履歷

○陸軍砲兵少尉高木大吉は富田浦町の人廿七八年の役既に戰功あり勳八等瑞寶章及金五拾圓の叙賜あり廿七年三月出征して第二軍戰闘序列に入り五月金州蓋平等の攻撃に參加し十月沙河戰に至る先是九月第四軍戰闘序列に編入せらる十一月任少尉廿八年一月叙正八位二月擧天附近の戰闘に參加し三月罹病第六師團第三野戰病院に入り後送せられ四月全治退院す十一月勳六等瑞寶章の叙賜あり廿九年三月野戰砲兵第十九聯隊に屬し四月韓國咸興に着任す此月一日戰功に依り功五級金鵄勳章勳五等雙光旭日章の叙賜を拜す

○同仁木守夫は寺島町の人廿七年四月充員召集に應し野戰砲兵第十一聯隊に入り彈藥大隊に編入せられ六月出征して老座山大白山大孤山等に轉戰す八月十二日病を以て後送せられ九月退院第十一聯隊補充大隊に編入せらる廿八年四月任少尉五月勳七等瑞寶章の叙賜あり六月臨時學生として教育總監部に召集せられ八月歸隊す叙正八位十月留守師團臨時軍馬檢疫委員を命せられ廿九年一月同上を免せらる四月廿三日召集解除勳六等單光旭日章金貳百五拾圓の叙賜あり

○陸軍三等主計岡部悌夫は富田浦町の人初歩兵として第十二聯隊に入る廿七年四月留守第十一師團經理部に屬し內地戰役勤務に服す時に一等計手たり廿八年二月東京陸軍兵器支廠主計職務取扱を命せらるる尋て任三等主計三月叙正八位廿九年三月歩兵第六十聯隊附に轉す四月勳六等單光旭日章の叙賜を拜す

○陸軍歩兵曹長澤要三は前川村の人廿八年八月滿州軍總兵站監部附屬第二手押輕便鐵道班に屬し擧天省昌圖府に至り廿八年八月小塔子へ分遣九月十六日に至り休戰となる廿九年一月召集解除せられ四月戰役の功に依り勳七等青色桐葉章及金參百圓の叙賜を拜す

○陸軍歩兵軍曹長濱將夫は富田浦町の人廿七年八月第十一師團後備歩兵第十二聯隊に屬して出征す鞍山站首山堡遼陽三塊石山等に轉戰し十月任軍曹廿八年二月奉天附近の戰闘に參加し三月二日同地に於て負傷し善通寺豫備病院に入る四月退院歩兵第十二聯隊補充大隊に屬して八月再出征す十一月多度津に凱旋し尋て召集解除せらる廿九年四月功六級金鵄勳章青色桐葉章の叙賜あり

○海軍機關中佐田村宮太は德島町の人廿七八年の役既に葛城比叡千代田海門等の諸艦に轉乘して從軍し戰功に依り勳六等單光旭日章年金八拾四圓の叙賜を拜す廿七年二月磐手分隊長を以て佐世保より旅順口に進發し九日露國艦隊と戰ふ三月六日浦攅斯德軍港を砲撃し爾來屢交戰に從事す廿八年一月本職を免し海軍機關術練

習所教官兼分隊長に補せらる廿九年九月任海軍機關中佐先是四月功四級金鵄勳章旭日小綬章の叙賜あり

○海軍中尉和田實は南佐古村士族にして三十七年二月軍艦浪華に乘組和田大佐(賢助)の部下に屬して出征し九日八尾島沖海戰に參加し敵艦ワリヤーグ、コレーツ等に傷害を與へズンガリーを自滅せしむ三月十日旅順口港外に於て又敵艦ノーウヰツク、バーヤン等と對抗し尋て南三山島に於ける建築物砲撃に參加す四月十六日根據地を發し第二艦隊に屬して浦盬斯德方面威嚇に從事し五月四日以降對州海峽哨戒に從事す七月一日特別任務を帶び朝鮮東岸に至り歸航の途次海碁に際し浦盬艦隊に對州海峽に出會し極力追撃せしも及ばさりき廿四日浦盬艦隊太平洋中に現れ來りしの報に接し出働索敵せしも會せす廿九日歸港す八月十四日蔚山沖海戰に從事す此役リウリツク他二艦は我がために撃沈若くは大破を與へられたり當日砲術長從屬として彈着看測の任務に當る十九日遁入敵艦處分のため上海に向ふ九月四日歸航十日任少尉十月十日叙正八位三十八年四月對州海峽哨戒の任を解かれ訓練に從事す十五日第一艦隊に編入せらる五月廿七日日本海々戰に參加し波羅的艦隊を撃破す航海長に從屬して敵艦距離測定に從事す廿八日敵の敗殘艦隊を追撃し尋てドミトリー、ドンスコイを追撃して自沈せしむ廿九日對州海峽の哨戒に任し密輸船の監視に從事す六月遁竄敵艦捜索の爲め上海方面に向ふ十五日遁竄敵艦三隻馬尼剌に遁入せるの報に接し遂に歸航す八月任中尉九月叙從七位十月十六日講和談判結了に付横須賀に向ふ廿三日凱旋す廿九年四月戰役の功に依り勳六等旭日章及金四百圓の叙賜あり

○陸軍機關兵曹西村繁吉は德島市の人廿七年二月七日應召佐世保に參着し九日海兵團教員となる廿八年五月馬公要港に轉す六月又佐世保鎭守府に轉し九月一日召集解除せらる戰役の功に依り勳六等雙光旭日章及金貳百圓の叙賜あり

○陸軍砲兵中尉岡本政助は德島市の人廿七年二月對馬要塞地區副官を命せられ廿八年二月任中尉五月廿七日より三十日に至る日本海々戰に參加し十月復員下令地區副官を免せらる勳六等旭日單光章の叙賜あり

○陸軍步兵大尉安部久馬次郎は富田浦町士族にして廿七年七月一日より向ふ三年間國民軍編入志願を許可せられ廿八年二月一日第一國民兵召集に應し步兵第四十三聯隊に到着し卽日第十一師團臨時國民步兵大隊第四中隊長を命せらる十三日九龍衛戍及盬谷村俘虜衛兵勤務に服し十月廿三日臨時國民兵復員を命せらる十一月

九日解除せらる戰役の功に依り金八百圓を賜ふ正七位勳四等元の如し

○陸軍歩兵大尉宇野美算は富田浦町の人明治七年七月一日より向ふ三ヶ年間國民軍へ編入を志願して許可せらる十一月廿五日應召歩兵第四十三聯隊補充大隊に入り十二月六日充員召集に應し後備歩兵第五十九聯隊に入り第八中隊長を命せらる爾後轉命十許回明治八年十一月四日召集解除せらる明治九年四月一日明治七八年戰役の功に依り勳四等旭日小綬章及金參百圓の叙賜あり

○陸軍輜重輸卒安田利一は助任町の人明治七年十二月應召輜重兵第十一大隊補充隊に編入せられ明治八年三月後備歩兵第二十二聯隊第一大隊に補充として入隊し出征戰務に服す十一月白濱港に凱旋す明治九年四月一日明治七八年戰役の功に依り勳八等瑞寶章及金八拾圓の叙賜あり

○陸軍歩兵中尉谷源四郎は富田浦町の人明治廿年十二月一年志願兵を以て第十一師團歩兵第十二聯隊に入り翌年十二月滿期退營す明治七年四月應召野戰歩兵第七中隊に屬し小隊長を以て五月暇家屯に上陸し小平島鷄冠山各附近の敵情偵察に從事し尋て双頂山老座山に戰ふ八月八九両日大孤山に戰ひ第三軍司令官の聯隊感狀を受く爾後守備或は戰闘に從事し十一月十二日に至り突撃中隊長となり東鷄冠山中腹散兵壕に突入して爆藥戰遂行中負傷のため善通寺に後送せらる明治八年七月再出征し八月四日大連に着し進みて心台子蒙古大屯に到り滿州軍最左翼に在りて第一線動務に服し屢將校斥候の任務に服す明治九年一月脚氣病の爲め内地に後送せられ尋て解散歸鄉し四月功五級金鵄勳章勳六等旭日章の叙賜あり

○同大尉鈴木萬員は明治七年六月後備歩兵第三十九聯隊第二大隊に編入せられ大隊副官を以て姫路屯營を出發し安東縣に上陸す康家堡子新開嶺東方流河甜水站等の守備任務に服し八月末日第一軍豫備隊に編入せらる十月八日より十三日に亘り本溪湖附近に於て左の感狀を受く

感狀　後備歩兵第三十九聯隊聯隊副官陸軍歩兵中尉　鈴木萬員

明治廿七年十月八日ヨリ十三日ニ亘ル本溪湖ノ東北名山嶺附近ノ戰闘中聯隊副官トシテ砲煙彈雨ノ中ヲ馳驅シテ命令及報告ヲ傳達シ九日聯隊長負傷シ殊ニ十一日ニ至リ前面ノ敵ハ我ニ十數倍トナリ聯隊長代理亦重傷シ且ツ將校殆ド盡ク死傷スルニ至ルヤ後備歩兵第二十九聯隊ノ第二第四中隊後備歩兵第四聯隊ノ第七中隊及近衛後備歩兵第一聯隊ノ第三中隊歩兵第十四聯隊第八中隊ノ二個小隊殘餘ノ諸隊ヲ合シテ之ヲ指揮シ苦戰奮闘數回敵ノ突入ヲ受クルモ屈セズ忍耐持久六日ノ久シキニ亘リ遂ニ敵ヲシテ潰退セシメタリ其動作ハ實ニ軍人ノ模範ト爲スニ足ルモノト認メ本職ハ此ニ感狀ヲ授ク

明治三十七年十月十三日　第一軍司令官男爵　黒木爲禎

十二月第十二師團に屬し廿八年二月大子河支隊に編入せられ奉天附近の戰闘に參

○軍人功績履歴

加し各地に轉戰して鐵嶺占領に至る爾後各所に駐屯し十一月宇品に凱旋し卅九年三月第三十九聯隊副官に補せらる四月功四級金鵄勳章勳五等雙光旭日章の叙賜あり

○陸軍歩兵中尉佐野恒は佐古町の人卅七年六月應召して後備歩兵第二十二聯隊第八中隊小隊長に補せられ第二軍に屬して柳樹屯に上陸し北進して海上の東南毛祁屯に至り總豫備として駐屯す八月鞍山站の戰鬪に參加し尊て首山堡遼陽沙河奉天の諸戰に從事す先是四月任中尉五月叙從七位卅九年四月一日戰功に依り勳六等旭日章並金四百圓の叙賜あり

名東郡

○陸軍歩兵大尉圓藤作藏は上八万村平民にして卅七年九月野戰歩兵第十一旅團副官を以て出征し旅順要塞第二回第三回總攻擊に參加し尊て十二月東鷄冠山北砲臺二龍山松樹山各砲臺の攻擊牽制に參加して年を終へ卅八年一月一日H砲臺及QL MN砲臺占領戰に參與し尊て鴨綠江軍に編入せられて北進鳳凰城清河城馬群丹營磐等に轉戰し卅九年一月拳天より松山に凱旋す先是叙正七位卅七八年戰役の功に依り功五級金鵄勳章勳四等の叙賜あり

○同騎兵少尉坂井清五郎は右同村に付省畧す以下同卅七年五月特務曹長を以て出征し張家屯に上陸して第二軍に屬し曲家站の戰鬪を首として大石橋沙河附近黒溝臺附近の各地に轉戰し卅八年一月小台子に於て凍傷を患ひ內地に後送せらる二月任少尉第十三聯隊附となり四月叙正八位卅九年二月復員完結同聯隊に編入せらる右同上に依り功六級金鵄勳章勳六等單光旭日章の叙賜あり

○陸軍歩兵大尉吉本岩五郎は卅七年十月將に征途に就かむとするに際し疾病に罹り旭川豫備病院に入院中終に平和克復の時期に際し戰務に服せすして止み又先是叙正七位卅七八年戰役の功に依り勳五等雙光旭日章の叙賜あり

○同中尉蔭山勢は沖州村の人卅七年八月出征して柳樹屯に上陸し海城守備隊司令として分遣せられ十一月沙河小哨司令服務中暗夜敵の小部隊夜襲し來りしを以て火を放ちて之を擊退す十二月任中尉瓦家堡子に於て病に罹り第十師團第一野戰病院に入り各地の病院を經て善通寺豫備病院に收容せられしは卅八年一月廿六日なり二月叙從七位同二十日退院す四月留守第十一師團第二臨時動務隊に在て內地の戰務に從事し爾後轉隊二回十月召集を解除せらる卅七八年戰役の功に依り勳六等單光旭日章の叙賜あり

○陸軍歩兵中尉黒田周一は國府村士族にして廿七年五月出征し攻大澤に上陸して頭道溝の前哨を勤務す爾來各地に轉戰し終に北進して大石頭溝に至る廿八年九月休戰の命を受け廿九年一月多度津に凱旋す先是叙正七位右同上に依り功五級金鵄勳章勳六等單光旭日章の叙賜あり

○陸軍歩兵少佐渡瀬爲三郎は齋津村の人廿七年十月多度津を發して大連に上陸し第四十三聯隊中隊長を以て東鷄冠山東南砲臺に於て戰鬪に從事し尋て一戸堡望臺舊國廓附近設備偵察に從事し大隊長代理を勤務す十二月東鷄冠山北砲臺二龍山砲臺及盤蠋の戰鬪に從事して廿八年一月二日に及ぶ同月廿四日清河附近の戰鬪中左胸部貫通銃劍の爲入院治療す四月二日第四十三聯隊補充大隊付となり七月第六十二聯隊中隊長を以て再征戰に從事し十月清河城を守備し八月鐵嶺東北方小分水に於て第四軍總豫備となり廿九年二月遼陽を守備す四月凱旋し五月召集解除せらる先是叙從七位廿七八年戰役の功に依り功五級金鵄勳章勳四等瑞寶章の叙賜あり

○同特務曹長非上作藏は廿七年五月出征し六月頭道溝に於て守備戰に從事し尋て黄泥川劍山太白山大孤山の戰鬪に參加し八月十二日病に罹り內地に後送せらる十一月六日退院四日第四十三聯隊補充大隊に編入せらる十二月任曹長累進特務曹長

に進む十一月召集解除せらる右同上に依り勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○同豐田甚之進は廿八年一月出征して柳樹屯に上陸し鴨綠江軍に編入せられ奉天撫順各附近の戰鬪に參加し三月任特務曹長四月王家大堡附近第一線に在りて防禦工事に從事し自五月至十月軍の總豫備隊となり永陵附近に駐軍し十一月多度津に凱旋す叙賜右同上

○陸軍砲兵中尉山本虎一は新居村平民にして廿七年四月充員召集に應し歩兵第四十三聯隊に編入せられ椿泊沿岸監視哨長を命せらる十一月九日同監視哨一時閉鎖に付歸團して野戰砲兵第十一聯隊補充大隊付となる廿八年二月任中尉五月又椿泊海岸監視哨を勤務し六月同哨一時閉鎖の爲め前聯隊に歸還し七月後備混成第十一師團彈藥大隊副官に轉す八月出征し十一月多度津に凱旋す十二月召集解除せらる先是叙從七位廿七八年戰役の功に依り勳六等單光旭日章の叙賜あり

○同大尉三木朝次は加茂名村平民にして廿七年四月野戰砲兵第十三聯隊第六中隊第一小隊長を以て東京を出發し五月猴兎石に上陸して金州南山附近の戰鬪に參加し爾後各地に轉戰し十二月任大尉廿八年一月黑溝臺に戰ひ二月奉天會戰に參加す九月野戰砲兵第十三聯隊第六中隊長仰付けられ廿九年二月屯營に凱旋す先是叙正

七位右同上に依り功五級金鵄勳章勳五等雙光旭日章の叙賜あり

○陸軍輜重兵大尉祖川致一は廿七年四月第十一師團馬廠長を以て應召戰務に服す七月黃泥川大上屯に至り八月旅順第一回總攻擊に參加して猶樹溝に至る十月第二回同上攻擊に參加し屢ば糧秣輸送に從事し十一月又第三回同上攻擊に參加す廿八年一月十三日鴨綠江軍に編入せられて城廠に至り糧秣輸送に從事す此より七月中旬に至るまで北進して各地の輸送事務に服せり六月任大尉八月叙正七位九月內地に凱旋す廿九年二月輜重兵第十一大隊付に補せらる叙賜右同上

○陸軍步兵特務曹長小角榮五は廿七年七月出征して柳樹屯に上陸し遼陽沙河等の戰鬪に參加し十月西溝附近の戰鬪に際し顏面銃創を受け遼陽兵站病院に入り同月廿四日事故退院し十月任特務曹長廿八年三月孝天會戰に參加し四月酒保委員を命ぜられ十一月凱旋し十二月召集解除せらる廿九年四月一日廿七八年戰役の功に依り功六級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○陸軍步兵大尉中內啓二は八万村士族にして廿七年三月九龜聯隊區副官に補せられ內地戰役勤務に服し廿八年一月出征して鴨綠江軍に編入せられ各地の守備或は戰鬪に從事す十月孝天を發し十一月多度津に凱旋し十二月本職に復歸す先是正七位右同上に依り功五級金鵄勳章勳五等雙光旭日章の叙賜あり

○同中尉三木惠吉は廿七年八月野戰隊補充として靑泥窪に上陸し八月第十二聯隊第四中隊長として大孤山の守備に任せらる八月旅順攻圍軍に參加し九月六日東鷄冠山砲臺に於て作業隊掩護服務中打撲傷の爲め遂に普通寺豫備病院に後送せられ同月廿一日事故退院す兵器委員德島聯隊區副官等の轉免あり廿八年二月任中尉三月叙從七位爾後內地の勤務に服す廿九年五月功七級金鵄勳章勳六等單光旭日章の叙賜あり

○陸軍砲兵少尉橋本文三は廿七年二月警急配備下令以來由萬要塞砲兵聯隊付を以て深山第一第二砲臺及ヶ島砲臺等の守備に從事し廿八年五月勳八等瑞寶章の叙賜を拜し九月任少尉十月叙正八位廿九年二月復員下令四月一日勳七等に叙せらる

○同步兵少尉仁木齊は廿七年七月出征して遼陽附近の戰鬪に參加し九月任特務曹長十月三塊石山揚城塞西溝爾餘諸戰に參加し廿八年三月四日後三道崗子附近に於て疾病の爲め普通寺豫備病院に後送せらる四月叙正八位同月廿日事故退院歸て內地に勤務す十一月勳七等瑞寶章の叙賜あり廿九年一月召集解除せらる四月一日功六級金鵄勳章勳六等單光旭日章を賜ふ

○軍人功績概略

○海軍上等機關兵曹椎野秀太郎は八万村平民にして卅七年二月六日佐世保を發して征戰に赴く旅順口閉塞に從事すること數次五月三日第三次閉塞隊員收容に從事して感狀を贈與せらる卅八年十一月現役滿期免官後功七級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○陸軍騎兵特務曹長市原榮吉は卅七年四月より卅八年八月に至るまで內地の事務に服し同月五日多度津を發して大連に上陸し鐵道事務に從事す卅九年一月病に罹り關東總督大連病院に入院し遂に善通寺豫備病院に轉送せらる二月召集解除後叙賜同上

○同立山亞太郎は三十七年五月出征して盛大濱張家屯に上陸し幾くもなく病に罹り大連兵站病院より內地に後送せらる三十八年三月再出征し韓國梨花面に上陸し北進して奉額城爾餘各地の偵察に從事し以て六月に及べり以下記事なし後叙賜同上

○陸軍步兵軍曹窪田滑左衛門は佐那河內村平民以下同村同籍は省畧す他皆之に倣ふにして卅七年五月出征し旅順總攻擊より鴨綠江軍に轉して北進す各所に轉戰して屢々殊勳を奏し三十九年二月召集解除せらる功六級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○同伍長佐藤喜八は卅七年六月後備步兵第四十三聯隊第四中隊に入り七月出征し卅八年三月負傷し內地に後送せらる八月負傷に依り兵役を免せらる戰功に依り功七級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○同上等兵佐野福五郎は卅五年十二月現役兵を以て步兵第四十三聯隊第十一中隊に編入卅七年五月出征し卅九年一月二十八日召集解除せらる戰功に依り功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同日下次平は卅七年四月步兵第四十三聯隊第十中隊に編入五月出征し卅九年一月凱旋し尋て召集解除せらる戰功に依り同上の叙賜あり

○同一等卒涉龍藏は卅七年四月步兵第四十三聯隊に編入せらる七月出征し十月負傷し內地に後送せらる卅八年一月再出征し十二月又負傷內地に後送せらる六月退院し尋て召集解除せらる戰功に依り同上の叙賜あり

○同青木政太は現役を以て步兵第四十三聯隊第二中隊に編入せられ卅七年五月出征し卅九年一月凱旋す十一月現役滿期す戰功に依り同上の叙賜あり

○同內藤長藏は卅七年四月同聯隊に編入五月出征し八月負傷に依り內地後送せら

れ卅八年一月再出征し十一月凱旋の後召集解除せらる戰功に依り同上の叙賜あり

○陸軍歩兵上等兵佐藤守男は加茂名村平民にして卅七年四月歩兵第四十三聯隊第六中隊に屬して出征し旅順奉天等各所に轉戰して卅九年一月凱旋す戰功に依り同上の叙賜あり

○同一等卒増田小次郎は卅七年五月歩兵第四十三聯隊第八中隊に屬して出征し旅順攻圍戰圍四回に及び卅八年一月望臺にて決死隊の任務を負ひ二月鉢巻山附近にて負傷し内地に後送せらる戰功に依り同上の叙賜あり

○同上等兵鈴木勝太郎は廿七年五月内地を出發して旅順攻圍軍に屬す十一月望臺附近に於て負傷し善通寺豫備病院に入り三十八年二月退院再出征し十月凱旋す同上の叙賜あり

○同後藤竹五郎は卅七年五月歩兵第四十三聯隊第六中隊に屬して出征し旅順攻圍軍を經て奉天方面に進軍中卅八年七月脚氣病に罹り内地に後送せられ不日にして退院し補充大隊第二中隊に轉し十一月召集解除せらる戰功に依り同上の叙賜あり

○陸軍砲兵軍曹大江仁三郎は國府村平民にして野戰砲兵第十一聯隊に屬して卅七年五月張家屯に上陸し以來數十回の戰圍に參加し戰功に依り同上の叙賜あり

○同歩兵軍曹美馬市太郎は後備歩兵第四十三聯隊第五中隊に屬して卅七年十月三塊石山の攻撃より奉天會戰に至るまで常に第一線勤務に從事し卅八年三月三道岡子攻撃の際負傷す後戰功に依り功七級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○同上等兵美馬貞吉は卅七年八月小孤山攻撃に際し鐵條網を破壞の爲め決死隊を募るや率先之に加はり確實に任務を遂行す翌日同所突撃の際負傷し卅八年八月に至り治癒し再出征す後功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同鎌田市太郎は歩兵第四十三聯隊第八中隊に屬して卅七年七月廿六日より廿八日に亘る大白山攻撃に參加し決死隊に加名して先頭に突撃し軍司令官より部隊感狀を賜はる其後決死隊に加ること二回戰圍に參加すること二十餘回に及び卅八年三月馬群丹附近烏帽子山の戰圍に負傷す戰功に依り同上の叙賜あり

○陸軍騎兵上等兵富永伊勢右衛門は二ケ年餘の從軍中特筆すへきは卅七年十二月將校斥候長に從ひ大澗附近に於て遂河右岸に移り新民廳北方より遥く敵の背後に出て新基子停車場附近に至り敵の背後連絡線の情況を視察し雙臺子附近に於て敵の騎兵を脫し卅八年一月凱旋す奥軍司令官より感狀を授與せらる同上の叙賜あり

○同歩兵軍曹香川宇太郎は浙居村平民にして卅七年七月後備歩兵第四十三聯隊に

屬して出征し首山堡に於て負傷し內地に後送せられ十二月再出征し清河城馬群丹等各所に轉戰せり戰功に依り功七級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○陸軍工兵軍曹井原彌七は卅七年五月現役兵として工兵第十一大隊に屬し旅順攻圍軍に參加し十月第二回旅順攻擊の際右膝關節及左大腿貫通銃創にて野戰病院に入り十一月內地に後送せられ卅八年五月退院兵役を免せらる叙賜同上

○同歩兵伍長南條虎吉は卅七年五月出征して旅順攻圍軍に加はり各所に奮戰其後鴨綠江軍に參加せり卅八年二月鉢卷山攻擊に加はりて負傷し十二月兵役免除となり戰功に依り叙賜同上

○同上等兵原前武四郎は卅七年五月出征して六月劍山の戰鬪を始とし旅順要塞戰に參加し望臺附近に於て負傷內地に後送せられ卅八年五月再出征し六月南山城子附近等各所に勇戰す卅九年一月召集解除せらる功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同一等卒管澤高助は卅七年五月內地を出發して旅順攻圍軍に加はり各所に轉戰奮鬪せり卅九年四月叙賜同上

○同上等兵北野俊太郎は卅七年四月豫備充員を以て五月內地を出發して旅順攻圍

軍に屬し各所に轉戰し十一月第三回旅順總攻擊後脚氣病に罹りて內地に後送せられ卅八年八月再度補充の爲め從軍し十一月凱旋召集解除せらる戰功に依り卅九年四月同上の叙賜あり

○同一等卒井上關右衛門は卅七年七月出征して鞍山站附近の戰鬪を始め首山堡楊城塞西溝附近奉天附近等に轉戰し卅八年十一月凱旋す卅九年四月同上の叙賜あり

○同上等兵久米半次郎は卅五年現役にして歩兵第四十三聯隊に編入卅七年五月屯營を出發して長家屯に上陸し劍山、小孤山、北砲臺二龍山等に轉戰し遂に負傷し兵役を免せらる戰功に依り同上の叙賜あり

○同軍曹由良種太郎は第四十三聯隊第二中隊に屬して出征し鞍山站首山堡、遼陽、金家崖子、拉木屯、沙河、運河の戰鬪に參加し戰功に依り功七級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○同早淵守之助は第二十二聯隊第一中隊に屬して出征し旅順、馬群丹、撫順の諸戰に參加す戰功に依り同上の叙賜あり

○同伍長曾良利三郎は第四十三聯隊第十一中隊に屬して出征し黃泥川大上屯、猪圈子溝、大白山、小孤山望臺二龍山、清河城、馬群丹、旅順等に轉戰し戰功に依り同上の叙賜

あり

○陸軍歩兵上等兵河上嘉太次は関歴同上功七級金鵄勲章勲八等白色桐葉章の叙賜あり

○同吉本利平は第四十三聯隊第四中隊に屬して出征し劍山大白山旅順馬群丹撫順八家子等の各所に轉戰し戰功に依り叙賜同上

○同近藤善太郎は歩兵第十二聯隊第八中隊に屬して出征し鞍山站首山堡遼陽三塊石山奉天等の各所に轉戰し決死隊を志願せしこと數回戰功に依り同上の叙賜あり

○同一等卒出口米藏は戰歷叙賜同上

○同速水政治は第四十三聯隊第六中隊に屬して出征し大白山小孤山旅順奉天等各所の戰闘に參加し功に依り同上の叙賜あり

○同青木武平は第四十三聯隊第七中隊に屬して出征し盤廠旅順馬家城子敎兵盞什二火羅間英額城板子店の各所に轉戰し功に依り同上の叙賜あり

○同長尾源藏は第四十三聯隊第八中隊に屬して出征し頭道溝猪圈子溝黄泥川大上子大白山旅順奉天英額城等に轉戰し功に依り同上の叙賜あり

○同上等兵佐々木安太郎は第四十三聯隊第十一中隊に屬して出征し旅順攻撃奉天會戰清家城馬群丹の戰闘に參加し功に依り同上の叙賜あり

○同工兵一等卒大栗智榮は戰歷同上にして同上の叙賜あり

○同歩兵一等卒前田官五郎は第四十三聯隊第四中隊に屬して出征し盤廠旅順奉天馬家城子敎兵盞英額城の各戰に參與し功に依り同上の叙賜あり

○同丸山俊太郎は第四十三聯隊第七中隊に屬して出征し頭道溝猪圈子溝劍山大白山馬家城子英額城板子店の戰闘に參加し功に依り同上の叙賜あり

○同曹長中川安次郎は南井上村平民にして卅七年三月韓國鎭南浦に上陸し鴨綠江鳳凰城の戰闘より平和克復に至る迄數十回に及ぶ戰功に依り功七級金鵄勲章勲七等靑色桐葉章の叙賜あり

○同上等兵宮川源平は卅七年五月旅順攻圍軍に屬し劍山大白山小孤山等の各所に轉戰し十月雙子山奇襲には決死隊の一員と爲り師團長の賞詞を與へらる旅順陷落後は北進して馬群丹英額城等に轉戰し卅九年一月凱旋す功七級金鵄勲章勲八等白色桐葉章の叙賜あり

○同軍曹野口喜右衛門は卅七年四月充員を以て第四十三聯隊第七中隊に編入五月出征して戰歷同上の功に依り功七級金鵄勲章勲七等靑色桐葉章の叙賜あり

○陸軍騎兵上等兵藏本万藏は齋津村平民にして旅順總攻撃遼陽沙河奉天老圖令子附近の各戰鬪に參加す功に依り功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同歩兵上等兵秋月辰五郎は頭道溝猪圈子溝黄泥川大上屯大白山小孤山の各戰鬪に參加し功に依り同上の叙賜あり

○同小林新吉は猪圈子溝劍山大白山廓家溝小孤山旅順總攻撃一戸堡壘小高營子馬群丹荅什八家子小白銀河附近の各所に轉戰し功に依り同上の叙賜あり

○同工兵軍曹大和甚太郎は旅順總攻撃盤龍山砲臺の戰鬪に負傷し再出征して奉天滑河城馬群丹撫順に於て戰鬪し營盤渾河荅什英額城の附近に於て架橋作業防禦工事に從事し戰功に依り功七級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○同上等兵張榮太郎は小孤山の戰鬪中負傷す第四回旅順總攻撃の際東鷄冠山北砲臺に於て戰鬪に從事し旅順要塞整理作業に從事せり功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同歩兵上等兵湊喜治郎は頭道溝猪圈子溝劍山大白山小孤山の各所に於て戰鬪負傷し二龍山望台哈叭滑河城ファンヤン嶺救兵台東北高地撫順荅什二火羅間英額城孤家子東方高地英額邊門板子廟の各所に轉戰す同上の叙賜あり

○同一等卒山本芳太郎は三塊石山揚城寨西溝長嶺子奉天の各所に轉戰す叙賜同上

○同張由太郎は鷄冠山劍山大白山小孤山旅順總攻撃望台滑家城馬群丹撫順城大石頭勾銀河年魚嶺分水嶺典柳川六官港小白銀河等の各所に於て戰鬪す叙賜同上

○同服彦太郎は猪圈子溝劍山大白山小孤山盤廠南方高地一戸砲台東鷄冠山北砲台哈叭嶺馬家滑河城ファンヤン嶺救兵台撫順城老圍嶺子二火羅間英額城孤家子東方高地英額邊門板子廟の各地に轉戰し功に依り同上の叙賜あり

○同伍長庄野芳太郎は前同村士族にして猪圈子溝劍山大白山小孤山盤廠南方高地一戸砲台東鷄冠山北方台望台の各所に於て戰鬪す望台にて負傷せり功七級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○同軍曹大津市右衛門は前同村平民にして卅七年五月出征六月黄泥川大上屯附近の戰鬪を始め旅順攻圍軍に屬し屢々殊勳を奏し軍司令官より感狀を賜はり更に北進し馬群丹附近の戰鬪に際し負傷す英額邊門小白銀河南山城子大石頭溝附近の各所に轉戰し功に依り功六級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○海軍上等機關兵曹篠原儀三郎は加茂村士族にして現役中正七位に叙せらる旅順港日本海の大戰鬪の功に依り功七級金鵄勳章勳六等單光旭日章の叙賜あり目下驅

逐艦夕雾に勤務す

○陸軍歩兵特務曹長高木喜三郎は前同村平民にして現役中旅順攻圍軍より北進し各所に轉戰し功に依り功七級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○同軍曹山本五平は卅七年四月充員を以て第四十三聯隊第七中隊に編入五月出征し旅順攻圍軍に屬して北進し蓋什二火羅間英額城附近等各所に戰圍從事せり功に依り同上の叙賜あり

○同赤澤兵次郎は卅七年四月充員を以て五月出征し六月劍山附近の戰圍を始め各所に轉戰し小孤山に於て負傷内地に後送せらる卅八年五月再出征し年魚嶺小白銀河大石頭滑南山城子等に奮圍せり功に依り同上の叙賜あり

○同上等兵篠原由太郎は前同村士族にして卅七年六月充員を以て後備歩兵第十二聯隊第三中隊に編入八月出征し鞍山站附近首山堡遼陽三塊石山奉天附近等の各所の戰圍に參加す卅八年十一月凱旋し同上の叙賜あり

○吉成卯平は卅七年五月出征し金州の守備より進んで猪圈子滑附近及劍山大白山小孤山の戰圍に參與し十月二子山奇襲隊にて突進中負傷し内地に後送せられ善通寺豫備病院に轉し卅八年六月退院して補充隊に入る卅九年一月戰功に依り功七級

金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同一等卒山本喜平は廿七八年の役功に依り勳八等瑞寶章を賜はり卅七年六月充員召集として後備歩兵第四十三聯隊に編入七月出征して鞍山站附近首山堡遼陽三塊石山長嶺子哈家堡煙台孤家子奉天の各所に於て戰圍卅八年十一月召集解除せらる功に依り功七級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○同沖津源逸は前同村士族にして卅七年八月補充召集に應し第四十三聯隊第二中隊に編入八月旅順攻圍軍に屬して各所に轉戰し又北進して馬群丹附近年魚嶺南山城子大石頭勾等に戰圍す功に依り功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同上等兵山西善次郎は卅七年四月充員を以て四十三聯隊第九中隊に編入五月劍山附近及大白山小孤山王家屯旅順本防禦線東鷄冠山望台等の戰圍に參加す卅八年一月疾に依り内地に後送せらる十月治癒し第四十三聯隊補充隊へ編入す戰功に依り同上の叙賜あり

○同一等卒木村巖は臨時召集に應し卅七年七月第四十三聯隊に編入八月補充として屯營を出發し旅順本防禦線北砲台二龍山等の戰圍に參加し望臺に於て胸部貫通銃創を蒙り内地に後送せられ卅八年三月退院して補充隊に入る卅九年一月召集解

除せらる戰功に依り同上の叙賜あり

○陸軍歩兵上等兵濱口傳藏は北井上村平民にして卅八年一月遼臺戰闘中傳令勤務に從事し二月滑河城附近の戰闘中中隊長某左胸部負傷の際危急を救ひコマンヤヤ ン嶺馬祥丹附近等の決死斥候となり八月上官の命なる書翰を携帶して軍曹某斥候長に隨行し敵地に臨み任務を完ふし功に依り同上の叙賜あり

○同山下賢二郎は卅七年六月劍山戰闘の際斥候の任務を帶ひて敵地に臨み地雷を捜査し一二を發見し又旅團附の傳令の任務をも帶ひ八月小孤山戰闘に際し決死隊員となり又斥候となりて歸途中負傷す同上の叙賜あり

○同岡山惣次郎は卅七年七月劍山附近の戰闘中斥候の任務を完ふす卅八年一月遼臺攻撃中多く敵器を分取し又摺鉢山戰闘には決死隊に選抜せられ山頂にて敵の白旗を得たり戰功に依り同上の叙賜あり

○同軍曹岡山滑太郎は出征以來各所に轉戰し時に分隊長代理を勤めたり旅順開城後は特別任務を帶ひて憲兵隊に加はり補充兵の職務に從事し戰功に依り功七級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○同椎野大吉は卅七年六月より卅九年一月に至る間旅順要塞及北滿州の各地に十數回の戰闘に參與す功に依り同上の叙賜あり

○同杉本源兵衛は前同村士族にして卅七年六月より卅八年十一月に至る間旅順各方面及北滿州の各地十數回の戰闘に參與す功に依り同上の叙賜あり

○同竹内秀太郎は前同村平民にして卅七年八月より卅八年二月に至るの間旅順各方面の攻圍軍に參與し殊に北砲臺攻撃十數日間決死斥候に服せり同上の叙賜あり

○同伍長阿部多市郎は卅七年六月より卅八年十一月に至る間旅順要塞及北滿州各地に十數回の戰闘に參與す功に依り同上の叙賜あり

○同庄野類次郎は前同村士族にして卅七年五月より卅九年に至る間旅順要塞及滿州各地數十回の戰闘に參加す功に依り同上の叙賜あり

○同上等兵矢田万次郎は卅七年五月より卅九年一月に至る間旅順攻圍軍並に其他十數回の戰闘に參加し同上の叙賜あり

○同惠本孫之亟は卅七年五月より卅九年一月に至る間旅順攻圍軍並に北滿州各地に於て十數回の戰闘に參加し功に依り功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同軍曹山本幸吉は卅七年五月より卅九年一月に至る間旅順攻圍軍並に北滿州各

地に於て十數回の戰鬪に參加す功七級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○陸軍步兵伍長林兵藏は前同に依り功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同軍曹渡邊利八は沖の洲村平民にして廿七年十一月出征して劍山の戰鬪より旅順攻圍軍に屬して北進し鉢卷山より各地に轉戰廿九年一月凱旋し功に依り功七級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○同砲兵軍曹三木文司は前同村士族にして廿七年五月出征して劍山東南方附近の戰鬪に際し負傷內地に後送せられ善通寺豫備病院に入り廿八年八月再出征す廿九年一月凱旋召集解除せらる同上の叙賜あり

○同步兵軍曹永井善正は同上にして廿七年四月出征して金州南山得利寺蓋平首山堡沙河奉天等各所の戰鬪に參加し廿八年十二月陣地出發凱旋す戰功に依り同上の叙賜あり

○陸軍三等軍醫武市薛は北新居村平民にして廿七年十月豫備見習醫官として步兵第四十三聯隊善通寺豫備病院に勤務す廿八年二月任三等軍醫三月從軍大連に上陸す四月叙正八位廿九年三月青森に凱旋して召集解除勳六等に叙せらる

勝浦郡

○陸軍砲兵少佐富永榮藏は勝占村大字大原浦村の人廿七年六月野戰砲兵第六聯隊段列長を以て長崎港より三關廟に到り七月進みて蓋平附近の戰鬪に參加し尋て大石橋海城鞍山站首山堡遼陽沙河等に轉戰し十一月野戰砲兵第三聯隊大隊長となり任少佐十二月第一旅團彈藥大隊長となり廿八年三月奉天附近の戰鬪に參加し五月第十二聯隊補充大隊長となり五月門司に歸還す八月第十二師團第七兵站部司令官となり十月後備混成第四旅團彈藥大隊長に轉し十月再門司を發し大連に上陸す十一月兵庫に凱旋す勳員下令現に從六位勳五等砲兵少佐たり

○海軍上等兵曹長太田增吉は前同村大字論田村士族にして廿三年十月吳鎭守府海兵團に入り廿四年十二月四等水兵を以て軍艦大和に乘組となり廿六年三月三等水兵に進む廿七年七月二等水兵を以て征淸の軍に從ひ二十八年二月長崎に凱旋し一等水兵に進む廿六年十一月叙勳七等賜瑞寶章廿七年一月十八日聯合艦隊附屬敷設隊に入り二月六日佐世保を發し艦隊根據地水雷敷設事業に從事す四月假裝砲艦紋龍丸乘組を志願し同月十二日夜陰に乘じ旅順口に接近して機械水雷を沈置し十六日又志願して水雷母艦日光丸に乘組み廿九日浦鹽斯德港口に機械水雷を沈置す五月上等兵曹に進む六月橫須賀敷設隊に轉し東京港口防備に從事す十月津輕海峽に

出張す卅八年一月十二日假裝砲艦紋龍丸に對し東郷聯合艦隊司令長官より授與せられし感狀を頒與せらる六月函館臨時敗設隊附を命せらる卅九年四月卅七八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章勳六等單光旭日章の叙賜を拜し佐世保海軍工廠造兵部に勤務す

○陸軍歩兵中尉三村增藤は勝占村大字方上村士族なり卅七年六月後備歩兵第十一師團第四十三聯隊に召集せられ同聯隊第一大隊下士敎育官を命せらる八月出征して柳樹屯に上陸し設營隊を以て大石橋に先發す尋て道路偵察の爲め二臺子三臺子四臺子を經て宿營地に歸隊す廿七日鞍山站首山堡附近の戰鬪に參加し卅一日に至り右顳顬部骨折貫通銃創を受け第三師團第二野戰病院に收容せらる十月廣島豫備病院に入院し十二月善通寺豫備病院に入院す卅八年五月事故退院し同日前聯隊補充大隊第二中隊附となり七月四日創傷再發して又善通寺豫備病院に入り十二月退役となる功に依り功五級金鵄勳章勳六等の叙賜あり

○同大尉高瀨源吉は廿七年十二月士官候補生を以て歩兵第十一聯隊に入り廿八年七月士官學校に入り廿九年十二月見習士官に進む卅年六月任少尉十月正八位卅二年八月臺灣守備歩兵第五大隊附となり十一月任中尉十二月叙從七位卅七年五月第四十二聯隊附を以て宇品を經て張家屯に上陸し尋て金州南山附近の戰鬪に參加し大尉に進む七月蓋平附近の攻擊に參加す叙正七位大石橋折木城等に戰鬪し八月下旬より九月に亘り遼陽方面の戰鬪に從事し尋て十月歪頭山附近に戰ふ卅八年一月黑溝臺附近に在り三月奉天戰鬪に參加す偶脚氣症に罹り遂に廣島豫備病院に入院す四月退院六月再大連に至り前聯隊に入る七月昌圖附近に在陣し數回戰務の爲め敵軍に接す十月十六日講和十二月同地を發し宇品に凱旋す戰功に依り功五級金鵄勳章勳五等雙光旭日章の叙賜あり

○陸軍歩兵特務曹長福本文藏は勝占村大字大原村平民にして卅七年十一月補充召集に應し歩兵第二聯隊補充大隊に編入せられ卅八年一月任特務曹長歩兵第三聯隊に屬し横濱を發して大連灣に上陸せしは三月三日なり爾來戰務に從事せしが八月病に罹り三家子舍營病院に入り遂に大連灣より宇品に歸還し九月東京陸軍豫備病院に入り十一月歸京療養を許可せられ十二月復隊卅九年一月七日召集を解除せらる四月一日戰功に依り勳七等青色桐葉章及金百五拾圓を下賜せらる

○陸軍二等軍醫日比野勉は勝占村大字大谷村士族にして卅七年四月充員召集に應し歩兵第四十三聯隊第一大隊に編入せられ五月盛大浜に上陸し尋て旅順歪頭山劍

山大白山山川柳小孤山一戸堡臺臺等の諸戰地に屆して勤務に服し十二月第三軍總豫備隊となる一月より三月に至るの間鳳凰城清河城馬群丹撫順英額城方面に在り卅九年一月十七日多度津港に凱旋す

○陸軍二等軍醫大栗聞一は生比奈村大字沼江村の人卅七年四月充員應召し第十一師團第二糧食縱列に編入せられ六月戰地に向ふ糧食輸送又は他部隊患者の診斷に從事す九月胸氣兼白內障に罹り青泥窪兵站病院に入り遂に善通寺豫備病院に入る任二等軍醫十月事故退院善通寺豫備病院附となる十一月叙從七位卅八年五月宜閑守隊附醫務室兼掌を命せられ尊て台北衛戍病院に在りて內地戰役勤務に從事す

○陸軍步兵特務曹長平岡大次郎は多賀良村平民にして卅七年六月充員應召し步兵第四十三聯隊第七中隊に入り八月柳樹屯に上陸し較山站首山堡遼陽沙河長嶺子附近の戰鬪に參加し十月後備第四十三聯隊第八中隊附となり十月任曹長十二月特務曹長に進む卅八年三月三道崗子附近の戰鬪に於て負傷し遂に廣島病院に轉入す尊て又善通寺豫備病院に入り事故退院後第四十三聯隊補充大隊附となり十一月召集解除せらる卅九年四月一日卅七八年の戰功に依り功七級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜を拜し別に恩給法に依り給助金百五拾圓を給せらる

○陸軍步兵中尉佐藤豐は勝浦郡の人卅七年四月後備步兵第十二聯隊補充大隊に編入八月中尉聯隊旗手を以て從軍し柳樹屯に上陸後十月沙河會戰に至るまで各地に戰鬪し同月十五日負傷す卅四日叙從七位卅八年二月奉天附近に於て又負傷す三月末日第十二聯隊副官となり五月後備第十一旅團副官となる十一月多度津に凱旋す

○陸軍三等軍醫山川庫藏は棚野村大字坂本村の人卅七年五月豫備役見習醫官となり七月輜重兵第十一大隊補充中隊附醫官代用勤務を命せられ九月任三等軍醫出征大連灣に上陸し前進戰務に從ふ十一月叙正八位一戸堡壘に至り攻正作業に參加し卅八年九月英額城方面に至り尊て青臺子宿營地に於て消毒班附となる卅九年一月多度津に凱旋し卅一日に至り召集解除となる

○同二等軍醫長木義男は高鉾村大字正木の人卅七年四月應召第十一師團軍醫部に入り五月同師團第二野戰病院附となり九月罹病善通寺豫備病院に入り全癒の後轉して臺灣恒春病院附となる卅八年四月二等軍醫に進み從七位に叙せらる

○陸軍騎兵大尉益田眞一は勝占村大字西須賀の人卅七年三月出征して韓國鎭南浦に上陸し騎兵第二聯隊に屆して各地に轉戰し十月十三日沙河會戰に際し步兵第十五旅團に屆し命令傳達の際左上腕貫通銃創を被り營口より宇品廣島を經て仙臺豫

備病院に入院し十二月退院騎兵第二聯隊補充隊定員に編入せられ卅八年四月騎兵大尉に任し五月正七位に叙せらる七月青森を發して樺太第一アルコワに出征し內藤支隊に屬しアレキサンドロフを占領し尋てノオミハイロフスコエ及同東方高地ルイコフ、タウヲン、オノールヅーエ等に轉戰或は守備となる十月轉して韓國咸興を守備す卅九年十二月騎兵第十七聯隊副官となる功を以て功五級金鵄勳章勳五等雙光旭日章の叙賜を拜す

○陸軍三等主計大澤儀之亟は小松島村の人現役三等主計正八位勳六等たり卅八年五月出征し遼陽兵站監部附滿洲軍倉庫附關東陸軍倉庫附等を以て卅九年十月に至るの間戰務に從事し十二月第十一師團經理部に凱旋す

○內藤喜代次は前同村の人卅七年七月第十一師團臨時衛生隊附となり出征し各地の戰闘に參加し卅八年九月正八位に叙せらる卅九年一月復員下令に接せり

○陸軍砲兵少佐姫田與吉は小松島村大字田野村平民なり日淸の役既に從軍せり卅七年二月動員下令と同時に戰時職務を以て士官學校より仙臺野戰砲兵第二聯隊第六中隊長に轉して出征し韓國鎭南浦に上陸し尋て鴨綠江摩天嶺樣子嶺附近の各地に轉戰せり其樣子嶺戰闘中負傷して後送せらる傷癒るに及ひて再ひ士官學校に復歸す卅八年三月少佐に任せらる從六位に進む五月近衛野戰砲兵聯隊第一大隊長として再出征し未た戰闘に際會せさるの前平和克復して凱旋せり卅七八年戰役の功に依り功五級金鵄勳章勳四等旭日小綬章の叙賜あり

○陸軍二等軍醫湯淺健藏は小松島村平民にして卅七年二月任三等軍醫四月叙正八位充員召集に應して歩兵第四十四聯隊第二大隊附を命せられ五月出征す六月第三軍司令部護衛として分遣せられ歪頭山附近に至る尋て劍山附近の戰闘に參加し七月五日進んて敵兵を擊攘せんとするの際敵の砲彈爆發し咄嗟落馬して右胸及臀部を打撲し人事不省中第一野戰病院に後送せらる八月普通寺豫備病院に入り廿四日事故退院二ケ月間の療養休暇を得て讃州津田町轉地療養所に靜養す卅七年九月前大隊附を免せられ普通寺豫備病院附となり第十一師團津田町轉地療養所附となり十月第一分院附となり酒保委員衛生委員を命せられ轉免願次卅八年八月任二等軍醫九月似島檢疫所に轉し十月叙從七位卅九年四月九日臨時陸軍檢疫似島檢疫所附を免せられ四月一日戰功に依り勳六等旭日章金參百五拾圓の叙賜あり

○陸軍砲兵少尉高野只七は小松島村平民なり卅七年七月臨時召集に應して野戰砲兵第十一聯聯補充大隊に編入せられ九月任少尉十一月叙正八位卅八年六月射撃學

校に入り八月解散歸隊卅九年一月野戰砲兵第十一聯隊補充大隊復員を命せられ同月召集解除せらる卅七八年戰役の功に依り勳六等旭日章弐百五拾圓の叙賜あり

○陸軍歩兵少尉松浦九兵衛は小松島村士族にして卅六年十二月一年志願兵を以て歩兵第四十三聯隊に入り卅七年十二月臨時召集に應して前聯隊補充大隊第一中隊に編入せらる任軍曹豫備役見習士官を命せらる卅八年四月出征安東縣に上陸し五月英額城孤家子大石頭勾の戰鬪に參加し六月任少尉七月叙正八位九月大石頭勾に於て加答兒性黄疸症に罹り廣島豫備病院に後送せらる尋て善通寺豫備病院に移る十一月召集解隊となり卅九年四月一日卅七八年戰役の功に依り勳六等旭日章金弐百五拾圓の叙賜あり

○陸軍歩兵少尉島田雅雄は小松島村大字田浦村平民にして卅七年六月充員召集に應し七月後備歩兵第四十三聯隊第三中隊一小隊長を以て出征し柳樹屯に上陸し鞍山站遼陽首山堡等に轉戰して負傷し沙河鎭第三師團第一野戰病院に入り後送善通寺豫備病院に入院せしは九月廿日にして廿八日事故退院し前聯隊補充大隊第四中隊附を命せられ十月召集解除となる勳六等旭日章金四百圓の叙賜あり

○陸軍二等軍醫内藤直太郎は同村士族にして卅六年十二月一年志願兵を以て歩兵第四十三聯隊に入り卅七年四月歩兵一等卒となり軍醫生を申附らる五月任見習醫官六月任三等軍醫八月出征す叙正八位遼陽三塊石山奉天等の諸戰に參加し十月任二等軍醫十一月多度津に凱旋し召集解除となり叙從七位卅九年四月一日勳六等旭日章金四百圓の叙賜あり

○陸軍歩兵中尉蔑原行次郎は小松島村大字金磯新田村平民にして卅七年四月充員召集に應し第十一師團衛生隊に編入五月出征して張家屯に上陸し七月亂泥橋附近の戰鬪に參與したるを首として老座山大白山大孤山旅順第一第二回總攻撃東鷄冠山北砲臺攻撃戰に參加し卅八年一月賽馬集に轉し二月馬群丹猿頭溝大石頭勾四盤子各附近の戰鬪に參加し五月任中尉七月叙從七位八月第一中隊長となり卅九年一月廿七日多度津に凱旋し尋て召集解除となり四月一日卅七八年戰役の功に依り功五級金鵄勳章勳六等旭日章の叙賜を拜す

○陸軍二等主計西野嘉右衛門は小松島村士族にして卅七年四月充員召集に應して歩兵第四十三聯隊に入り五月出征して擾大澤に上陸し劍山大白山小孤山及旅順總攻撃其他の諸戰に參加せしこと畧同前卅八年六月任二等主計七月叙從七位卅九年一月多度津に凱旋し尋て召集解除となり功に依り勳六等旭日章金四百圓の叙賜あ

り

○陸軍歩兵少尉井内磯三郎は前同村平民にして卅七年五月歩兵第四十三聯隊第二中隊に屬して盤大灣に上陸し六月地形偵察のため鷄冠山老敦山雙頂山小平島附近に前進して又戰鬪に參加せり六月劔山に戰ひ尋て雙頂山に前哨中隊となり以て敵の襲撃を挫く同月廿七日大白山東方高地夜襲戰に際し右足部貫通銃創を受け廣島豫備病院に後送入院す卅八年七月增設歩兵第五十四聯隊に屬し再出征し大連灣に至り第三軍に編入せらる後平和克復に依り守備に服す先是叙正八位

○同歩兵特務曹長富松幸平は小松島村大字中郷村平民にして應召出征同前なり卅八年二月鴨綠江軍に屬して哈叭嶺附近の戰鬪に參加し九月板子廟附近の攻撃戰に參加す先是卅七年八月十二日大白山の戰鬪に際し乃木大將の部隊感狀を頒與せられ同年同月十八日大白山夜襲の戰功に依り師團長の賞詞を受く卅七年十二月任曹長卅八年三月十七日任特務曹長同月奉天會戰中二月廿二日哈叭嶺附近戰鬪の功に依り師團長より賞詞を受く戰務に勤めたるや知るへなり卅九年一月多度津に凱旋し二月召集解除となり四月一日戰役の功に依り功六級金鵄勳章勳六等旭日章の叙賜あり

歩兵第四十三聯隊第八中隊陸軍歩兵曹長　富松幸平

明治三十七年七月廿七日所屬隊大白山ヲ攻撃スルニ當リ敵ハ天嶮ニ據リ加フルニ堅固ナル防禦工事ヲ施シ頑強ニ抵抗シ攻略頗フル困難ナリシヲ以テ同夜之ヲ夜襲スルコトヽナレリ是ニ於テ軍曹ハ其夜襲隊ノ先頭ニアリテ猛烈ナル敵ノ銃砲火ヲ冒シテ嶮崖ヲ攀ヂ敵壘ニ突入シ以テ該山ノ占領ヲ容易ナラシメタルノミナラス同夜數回ノ逆襲ニ際シテモ果戰シテ能ク之ヲ防止セリ其動作勇敢ニシテ功績著大ナリト認ム仍テ賞詞ヲ授與ス

明治三十七年八月一日

第十一師團長陸軍中將正四位勳二等功四級　鮫島重雄

歩兵第四十三聯隊第五中隊陸軍歩兵曹長　富松幸平

明治卅八年二月廿二日所屬大隊哈叭嶺附近ノ守備中敵ノ歩騎兵來襲スルヤ曹長外五名ハ敵ノ占據セル高地頂ニ向ヒ猛火ヲ冒シテ巧ニ前進シ該所ノ敵ヲ撃退シテ陣地ヲ奪取シ續テ其左右高地ニ在ル敵ニ向ヒ縱背射ヲ加ヘ遂ニ其敵モ亦敵退スルノ止ムヲ得サルニ至ラシメタリ其他動作勇敢ニシテ功績著大ナリト認ム仍テ賞詞ヲ授與ス

第十一師團長陸軍中將正四位勳二等功四級　鮫島重雄

○同市原善藏は小松島村平民にして卅七年七月臨時應召し歩兵第四十三聯隊補充大隊に編入せられ八月出征して靑泥窪に上陸し同聯隊第十一中隊に屬して旅順要塞攻圍線守備兵となり十一月任曹長第十二聯隊に轉す卅八年二月淸河城附近攻撃戰に參與し尋てフマンヂヤン救兵台馬群丹各附近に轉戰し三月任特務曹長四月より八月に至る蒼什英額城門年魚嶺大石頭溝曲柳川大日越等の戰鬪又は守備に服し卅九年一月多度津に凱旋し二月召集解隊となる四月一日卅七八年戰役の功に依り

功七級金鵄勲章勲七等旭日章の叙賜あり

○海軍上等筆記和田春藏は小松島村大字中田村の人明治廿七八年戰役の功に依り勲八等白色桐葉章金五拾圓の叙賜を拜し仍て軍艦松島に乘組米西事件戰況視察居留民保護の爲め佐世保を發し馬尼剌香港臺灣等を回航し九月十五日佐世保に歸着す廿三年六月十一日より十一月一日まで北淸事變に關する職務に從事し尋て勲七等瑞寶章の叙賜あり廿六年九月軍艦三笠に乘組み韓國鎭海灣を回航して伊万里灣に歸着し廿七年二月六日又佐世保を發して旅順に向ふ九日旅順口港外に於て砲臺及要塞攻撃に從事す同月廿五日又同前且第一回閉塞隊掩護に從事す三月十五日略同前五月三日第三回閉塞隊掩護に從事し五日旅順直接封鎖に從事す六日より九日に至る第三軍の盛大演に上陸するを掩護し六月下旬旅順の封鎖を衝破せんとする敵艦隊に對して威嚇行動に從事し八月中旬同海面に於ける敵艦隊と交戰し尋て圍島方面に於ける旅順封鎖に從事して十二月下旬に及へり同月廿五日修理の爲め吳港に回航し廿八年二月廿一日佐世保より戰地に向ふ同廿一日戰地に於て警備に從事して五月に及へり同月廿七八日日本海に於て露國第二第三艦隊との交戰に從事し六月廿九日三笠艦は退航の命に接し七月三日舞

鶴水雷敢設隊に入隊し港口水雷防禦に從事せり廿九年一月廿一日舞鶴海兵團に入團し二月二日海軍上等筆記に任せられ服役延期停止四月一日廿七八年戰役の功に依り功七級金鵄勲章青色桐葉章の叙賜を拜す

○海軍主計少監關根福祿は小松島村の人軍艦和泉主計長たり廿七年二月六日艦長池中海軍少佐の部下に屬して出征す朝鮮海峽の警戒浦鹽艦隊の牽制陸軍輸送の掩護等に從事し尋て敵艦マンヂユール號事件に關し上海方面に行動す四月臨時第三艦隊司令官上村海軍中將の指揮の下に屬して浦鹽斯德方面の敵を威嚇し同港口に於て機械水雷沈置に從事す此他數回の戰闘に遭逢す十一月叙從六位廿八年一月任主計少監三月山東丸日進丸主計長兼任に轉す五月叙勲四等授瑞寶章廿九年四月戰役の功に依り旭日小綬章並金貳千圓の叙賜あり八月馬公要港部主計長に補せらる

○陸軍砲兵輜卒山中善平は高鉾村大字傍示村の人廿八年三月上旬第十一師團彈藥隊に屬して偉大の功績を奏せし旨を以て部隊感狀を頒ち與へらる

○陸軍砲兵一等卒岩本石藏は福原村の人亦同上の感狀を受けたり

○陸軍歩兵二等卒坪井彌助は同村の人歩兵第四十三聯隊第一大隊に屬して出征し廿八年四月三日附鴨綠江軍司令官の感狀を頒ち與へらる

○陸軍歩兵上等兵寺谷梅吉は棚野村の人卅七年八月歩兵第四十三聯隊野戦隊に屬して出征し尋て第一中隊に轉し一戸堡壘附近の戰鬪に參加し轉戰卅八年三月二日鉢卷山附近追擊戰の際負傷善通寺豫備病院に療養し四月廿二日退院し卅八年六月第三中隊に入り卅九年一月現役滿期す卅八年四月三日附鴨綠江軍司令官の感狀を頒與せらる

○同一等卒中西常吉は同聯隊第八中隊に屬して卅七年六月頭道溝附近の戰に參加せしを首とし十月廿七日望臺北麓に於て負傷す八月十九日付第三軍司令官の部隊感狀を有せり

○同砲兵輜卒石本軍平は卅七年五月第十一師團彈藥大隊第一砲兵彈藥縱列に屬して出征し卅八年四月三日附鴨綠江軍司令官の部隊感狀を有せり

○同輜重輜卒澁内佐平は卅七年六月輜重兵第十一大隊に屬して出征し戰地に於て糧秣輸送に從事す艱難危險至らさる所なかりし卅八年四月三日附鴨綠江軍司令官の部隊感狀を頒ち與へらる卅九年一月多度津に凱旋し尋て解隊

○陸軍歩兵上等兵新居梅太郎は歩兵第四十三聯隊に屬して征戰の途に上りしは卅七年五月なり各地に轉戰し七月四日鎭山の戰鬪中負傷して内地に後送せらる療養六十日間にして卅八年一月再出征す第二中隊に屬す二月北進して傳家樓子西北高地鉢卷山攻擊戰に參加し遂に進みて歡喜嶺年魚嶺小白銀河方面に至る十一月田千戸に駐屯す卅九年一月詫間灣に凱旋し尋て現役滿期せり先是卅八年四月三日附鴨綠江軍司令官の第十一師團歩兵第四十三聯隊第一大隊に授與せし感狀を頒ち與へらる

○同砲兵輜卒森下和三郎は卅七年六月出征す卅八年四月三日鴨綠江軍司令官の第十一師團彈藥大隊に與へられし感狀を頒與せらる卅九年一月解隊

○同歩兵上等兵桂木次三郎同二等卒中原勝藏は共に棚野村の人第四十三聯隊に屬して出征す手帳紛失の爲め其戰歷を知るに由なしと蓋各部隊感狀を頒與せられしとぞ

○同上等兵江口文助は勝占村の人歩兵第四十三聯隊に屬して出征し卅七年八月鞍山站附近の戰鬪を首として各地に轉戰す卅八年一月第三軍より鴨綠江軍に轉し四月三日附鴨綠江軍司令官の第四十三聯隊第一大隊に與へたる感狀を頒ち與へらる卅九年一月多度津に凱旋し尋て召集解除せらる

○同一等卒藤本茂一郎は戰歷略前に同し卅八年三月十九日病に罹り入院終に善通

寺豫備病院に後送せらる八月再出征す感狀預與前に同し凱旋召集解除亦同

○陸軍輜重輸卒庄野房吉は廿七年七月第十一師團第一補助輸卒隊に編入せられて出征す大孤山大東溝等を經て安東縣に到り兵站勤務に服し尋て湯山城鳳凰城雪裡站等を經て四道溝に着し第二師團後備工兵第一中隊に附屬し輕便鐵道布設工事同經返防禦工事電信建築班等の任務に服し終に南孤山に至り道路改築架橋工事糧秣輸送等の任務に從事す廿九年二月善通寺に凱旋し尋て解隊となる

○同寺澤忠二は廿八年二月第十一大隊補充中隊に屬して出征す四月三日附鴨綠江軍司令官の輜重兵第十一大隊(馬廠欵)に授けたる感狀を預與せらる廿九年一月多度津に凱旋し尋て解隊

○同森崎龜太郎は戰歷及感狀の預與前に同し凱旋解隊亦同上

○陸軍步兵曹長林菊太郎は勝占村大字大谷村の人廿七年六月第十一師團第四兵站司令部に屬して從軍し廿八年九月二道河子に於て軍司令官より兵站司令部に與へられたる感狀を預與せらる廿九年二月善通寺に凱旋し尋て解隊せらる

○陸軍砲兵伍長松原眞七は廿七年六月第十一師團彈藥大隊に屬して從軍し終に鴨綠江軍に編入せられて各地に轉戰す鴨綠江軍司令官の第十一師團彈藥大隊に授けられし感狀を預與せらる其感狀八等は廿七八年戰役の功に依りて授與せられしものなり凱旋解除前同期

○同輜卒鶴羽久吉は同村の人戰歷及感狀の預與凱旋解除前に同し

○陸軍步兵一等卒長尾陸次は勝占村の人廿七年五月第四十三聯隊第八中隊に屬して從軍し七月郭家滯附近に於て負傷し遂に善通寺豫備病院に入る廿八年一月事故退院し同聯隊補充大隊第二中隊に編入せらる然るに負傷の個所未治癒せさるを以て二月一日又入院す九月十八日召集解除せらる

○陸軍輜重輸卒竹內安次郎は勝占村の人廿七年十月出征して任務に從事す

賞狀

右者渡清以來六ケ月以上一日モ怠ラス寒暑ニ耐ヘ勤務ニ奮勵シタルハ他ノ模範タリ依テ茲ニ賞狀ヲ附與ス

明治三十八年十月廿一日

第十一師團第六補助輸卒隊長　神原京治

輜重輸卒　竹內安次郎

以て其戰務に勵精したるを見るべきなり廿八年十二月多度津に凱旋し召集解除

○陸軍砲兵輜卒水口武吉は同村の人廿七年五月從軍して鈸山附近の戰鬪に參加し八月旅順要塞第一回攻擊に參與す十月十四日脚氣病にて入院し十一月廿二日退院野戰砲兵第十一聯隊補充大隊に編入せられ遂に第十一師團彈藥大隊に轉す亦褒狀を得たる者慨氣眞に稱するに足る

○軍人功績履歴

褒　狀

陸軍砲兵輸卒　水口武吉

右者明治卅七年五月廿一日出征軍ニ編入セラレ爾來各地ニ轉戰シ其功績著大ナリシニ一朝病覺ニ侵サレ内地ヘ後送同年十一月廿二日退院當大隊ヘ編入已來未タ全癒ニ至ラスト雖モ卒先希望シテ再ビ今回ノ出征ニ加ハレリ其行動實ニ軍人ノ模範トスルニ足ル依テ茲ニ褒狀ヲ授與ス

明治三十八年二月廿七日　野戰砲兵第十一聯隊補充大隊長陸軍砲兵少佐從六位勳五等　森本瀧一

卅九年一月多度津に凱旋し尋て召集解除せらる

○陸軍輜重輸卒平井甚五郎は小松島村の人卅七年十二月輜重兵第十一大隊補充中隊に編入せられ卅八年一月出征し六月一日附後備第一師團長坂井陸軍中將の部隊賞狀を頒與せらる卅九年二月召集解除

○同濱淵安太郎は戰歷畧同上卅八年四月三日附鴨綠江軍司令官川村陸軍大將の部隊感狀を頒與せらる

○陸軍歩兵一等卒廣田利三郎は卅七年四月應召出征し旅順攻圍軍に屬して戰役に服す卅八年八月十九日附第三軍司令官乃木陸軍大將の感狀歩兵第四十三聯隊第二大隊(第六第七中隊員)に與へられしものを頒與せらる

○同上等兵庄野虎太郎同上而して卅七年七月廿七日大白山附近戰鬪の際負傷して内地に後送せられ十一月召集解除せらる

○同伊澤豐太郎は卅七年五月第四十三聯隊第二中隊に屬して出征し旅順攻圍戰に參加し尋て鴨綠江軍に屬して戰鬪に從事す卅八年四月三日附鴨綠江軍司令官川村陸軍大將の感狀を頒與せらる卅九年一月召集を解除せらる卅九年四月一日功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○陸軍歩兵軍曹森内定吉は卅七年五月出征し各地に轉戰して卅八年一月八日に至り脚氣病の爲め内地に後送せらる後功七級金鵄勳章勳七等の叙賜あり

賞　詞

歩兵第四十三聯隊陸軍歩兵伍長　森内定吉

明治卅八年一月一日旅順要塞望臺攻撃ニ際シ突撃部隊ハ該高地嶺頂ニ接スル敵ノ散兵壕ニ達シ猛烈ナル敵ノ爆藥ノ爲メ苦戰セシ時ニ當リ伍長ハ右突撃部隊ニ屬シアリシカ工兵第八大隊軍曹以下三名ト共ニ不屈不撓後方ヨリ急送セル爆藥ヲ投擲シ以テ突撃部隊ノ同山嶺頂占領ヲ容易ナラシメ其功績著大ナリ仍テ賞詞ヲ授與ス

明治卅八年一月十五日　第十一師團長陸軍中將正四位勳二等功四級　鮫島重雄

○陸軍輜重輸卒奥原石藏は卅八年二月出征して戰務に服し卅九年二月召集解除せらる從軍中左の賞狀を授與せられたり

賞　狀

輸卒　奥原石藏

右之者當司令部ヘ派遣中傳令ノ任ニ當リ終始一日ノ如ク能ク奮勵セシ事ヲ確認ス仍テ此證ヲ附與ス

明治三十九年一月十九日　第三師團第十二司令官陸軍砲兵中佐從五位勳四等　左乙女英武

○軍人功績履歴

○陸軍工兵軍曹仁木守二は卅七年五月出征し旅順要塞攻撃戰に參加し連戰連鬪東鷄冠山北砲臺攻撃の際決死隊に加盟して負傷し内地に後送せらる十二月伍長に進み卅八年四月任軍曹工兵第十四聯隊第一中隊に轉し七月再出征し三月現役滿期す左の賞狀を授與せらる

工兵第十四大隊第一中隊陸軍工兵軍曹　仁木守二

日露ノ軍ニ從ヒ終始敵ノ砲火ノ下ニ奮鬪シ屢々殊勳ヲ樹テ其功績最モ顯著ナリ以來工兵第十四大隊ニ編入サレ之カ教育ノ任ニ當リ方正ナル行狀ト威嚴ト常ニ能ク部下ヲ制シ優等學術ヲ以テ能ク兵卒ノ訓導ニ足レリ其再出征スルヤ大ニ中隊長ヲ補佐シ眞ニ軍人ノ本分ヲ盡セリ依テ賞狀ヲ授與ス

明治三十九年三月十四日　工兵第十四大隊長陸軍工兵中佐正六位勲五等　木村平太郎

○同歩兵二等卒山中辨一は福原村の人出征中第十一師團歩兵第四十三聯隊第一大隊に與へられたる明治卅八年四月三日附鴨綠江軍司令官川村大將の感狀を頒與せらる

○同一等卒上平芳藏は出征し左の褒詞を授與せらる

褒詞

歩兵第四十三聯隊陸軍歩兵一等卒　上平芳藏

卿ハ明治三十七八年戰役ニ際シ同三十八年三月出征從軍中隊ニ編入以來滿洲ノ野ニ國土ト戰ヒツヽ各所ノ堅陣ヲ拔キ強敵ヲ攘ヒ終ニ　皇軍ノ　威ヲ四表ニ發揚スルヲ得タリ由テ茲ニ其光輝アル功勲ヲ表旌ス

明治卅九年一月廿四日　歩兵第四十三聯隊第七中隊長陸軍歩兵大尉正七位　野口　矯

○陸軍騎兵軍曹鈴江槇太郎は小松島村平民(以下同樣に付省く)にして卅八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章等の叙賜あり

○同松下傳七は同上に依り功六級金鵄勳章勳七等の叙賜あり

○陸軍歩兵上等兵福島甚太郎は同上に依り功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり

○同飛梅友吉は同上に依り功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり

○同軍曹鶴田善藏は同上に依り功七級金鵄勳章勳七等の叙賜あり

○同上等兵土橋松太郎は同上に依り功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり

○同軍曹山形政助は同上に依り功七級金鵄勳章勳七等の叙賜あり

○同上等兵小泉兼太郎は同上に依り功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり

○同一等卒照本種七は同上に依り同上の叙賜あり

○同朝田傳次郎は同上に依り同上の叙賜あり

○同平井兵吉は同上に依り同上の叙賜あり

○陸軍工兵二等卒原田官藏は同上に依り同上の叙賜あり

○同一等卒豐田龜吉は同上に依り同上の叙賜あり

○陸軍歩兵一等卒平井國太郎は同上に依り同上の叙賜あり

○陸軍歩兵一等卒小野孫太郎は同上に依り同上の叙賜あり
○同田中德太郎は同上に依り同上の叙賜あり
○陸軍工兵上等兵奥津保秀は同上に依り同上の叙賜あり
○陸軍歩兵上等兵喜多宇三郎は同上に依り同上の叙賜あり
○海軍一等兵曹上田幾藏は同上に依り功七級金鵄勳章勳七等の叙賜あり
○陸軍騎兵曹長先山榮治は同上に依り同上の叙賜あり
○陸軍歩兵軍曹井上信夫は勝占村士族にして同上に依り同上の叙賜あり
○同山内駒吉は勝占村平民(以下同様に付省く)にして同上に依り同上の叙賜あり
○陸軍歩兵上等兵堤德太郎は同上に依り功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり
○同軍曹井上伊代次は勝占村士族にして同上に依り功七級金鵄勳章勳七等の叙賜あり
○同上等兵井關秀次は勝占村士族にして同上に依り功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり
○同軍曹高木槇太は同上に依り功六級金鵄勳章勳八等の叙賜あり
○陸軍一等看護長高田一二は同上に依り功七級金鵄勳章勳七等の叙賜あり
○陸軍歩兵伍長生田一男は同上に依り同上の叙賜あり
○同原田房太郎は同上に依り同上の叙賜あり
○同上等兵山岡幾太郎は同上に依り功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり
○同軍曹舟越重男は多家良村平民(以下同様に付省く)にして同上に依り功七級金鵄勳章勳七等の叙賜あり
○同上等兵吉本次平は同上に依り功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり
○同黒田喜代次は同上に依り同上の叙賜あり
○陸軍工兵軍曹舟越時夫は同上に依り功七級金鵄勳章勳七等の叙賜あり
○陸軍歩兵上等兵澤野亞五は同上に依り功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり
○陸軍騎兵上等兵吉岡馬八は生比奈村平民(以下同様に付省く)にして同上に依り同上の叙賜あり
○陸軍砲兵上等兵西野麻太郎は同上に依り同上の叙賜あり
○陸軍歩兵一等卒前田秋藏は同上に依り同上の叙賜あり
○同軍曹濱田瀨平は棚野村平民(以下同様に付省く)にして同上に依り功七級金鵄勳章勳七等の叙賜あり

○陸軍歩兵軍曹谷伊作は同上に依り同上の叙賜あり
○同荒川喜平は同上により同上の叙賜あり
○同上等兵田村歡平は同上に依り功七級金鵄勲章勲八等の叙賜あり
○同吉野徳蔵は同上に依り同上の叙賜あり
○同池田兵八は同上に依り同上の叙賜あり
○同一等卒中岡松右衛門は同上に依り同上の叙賜あり
○同等兵山口和平は同上に依り同上の叙賜あり
○同上稼勢勇蔵は同上に依り同上の叙賜あり
○同伍長菖蒲常太郎は高鉾村平民(以下同様に付省く)にして同上に依り功七級金鵄勲章勲七等の叙賜あり
○陸軍工兵上等兵青木鶴太郎は同上に依り功七級金鵄勲章勲八等の叙賜あり
○陸軍砲兵曹長横石荒太郎は同上に依り功七級金鵄勲章勲七等の叙賜あり
○陸軍歩兵伍長補平柳助は福原村平民にして同上に依り同上の叙賜あり
○陸軍歩兵上等兵竹房貞太郎は同上に依り功七級金鵄勲章勲八等の叙賜あり

那賀郡

○陸軍歩兵少尉岡部眞平は橘浦村の人卅七年九月補充召集に應して歩兵第四十三聯隊に入り十二月任少尉卅年一月出征柳樹屯に上陸す叙正八位二月奉天の會戦に參加し三月以後總豫備隊となり撫順附近に駐軍し四月王家堡附近に於て第一線支線支援隊に屬し五月より十月に至るまて又總豫備隊となり永陵附近に駐軍し平和克復に及ひ十一月を以て多度津に凱旋す
○同玉田半五郎は那賀郡の人卅六年志願兵を以て歩兵第四十三聯隊に入り卅七年十二月任見習士官補充大隊に屬す卅八年二月出征柳樹屯に上陸す奉天附近の追撃戦に參加し遂に昌圖方面に追撃して駐ること十餘ヶ月六月任少尉七月叙正八位十月二十一日善通寺に凱旋す
○陸軍歩兵特務曹長西本久米吉は延野村の人卅七年四月充員召集に應し歩兵第四十三聯隊に入り八月野戦隊補充員を以て出征す十二月任曹長卅八年一月鴨綠江軍に編入せらる三月任特務曹長第八中隊より第七中隊に轉す先是卅七年四月第四中隊に屬し九月第五中隊に轉し十二月第八中隊に轉し終に第七中隊に屬して卅九年一月に至り召集解隊となる功に依り功七級金鵄勲章勲七等に叙せらる
○陸軍歩兵少尉沼佐惣次郎は福井村平民にして初教導團に入り卅七八年の役既に

一等軍曹を以て從軍せり卅七年十月特務曹長を以て第一師團に屬し出征す十一月任少尉寺兒溝北方高地の戰鬪に參加し尋て第四中隊長代理となる十二月叙正八位卅八年一月旅順陷落せしを以て北進金州海城沙河等を經て劉二堡林字泡波林子劉密荒高力屯弓匠屯三臺子等の戰鬪に參加し竟に三臺子に於て負傷せしは三月八日なりき四月後送せられて大連灣を出發し宇品に歸還す八月步兵第一聯補充大隊第五中隊附となり同月末本職を免せられ横濱聯隊區司令附にに復したり廿七八年戰役の後其功に依り勳八等白色桐葉章金壹百圓を賜はり卅五年十一月叙勳七等賜瑞寶章卅八年十一月叙勳六等賜瑞寶章

○陸軍步兵中尉佐々木要は平島村の人卅七年九月臨時召集に應し步兵第十二聯隊補充大隊に入り十月第二十二聯隊補充員として出征し東鷄冠山北砲臺攻撃戰に從事すること月餘十一月同地に於て負傷し內地豫備病院に後送せらる卅八年二月再第二十二聯隊補充員として豫州高濱港を發して出征す四月任中尉五月叙從七位八月病を以て又內地豫備病院へ後送九月退院十一月召集解除となれり

○陸軍步兵少尉山田喜一は平島村の人卅七年七月臨時召集に應し步兵第四十三聯隊補充大隊に編入せられ九月出征大連灣に上陸す任少尉十一月叙正八位十月以後旅順第二第三回總攻撃に參加し尋て一戸堡壘正攻作業に從事し卅八年一月望臺にて戰鬪せり二月より九月に至る奉天馬群丹英額城等の各地に轉戰し卅九年一月多度津に凱旋し同月末日召集解除せらる

○同三等軍醫孟崎次郎は同村平民にして卅七年九月補充召集に應し步兵第四十三聯隊補充大隊に入り卅八年一月任陸軍三等軍醫二月出征し卅九年一月詫間灣に上陸し尋て召集解除せらる

○陸軍步兵中尉伊勢圀治郎は中野村の人初一年志願兵を以て第四十三聯隊に入り卅七年二月任少尉四月叙正八位九月同聯隊第五中隊に屬して出征し旅順要塞小孤山守備となり轉戰松樹山砲臺占領戰に參加せしは十二月十八日なり卅八年一月望臺攻撃參加の際負傷第一野戰病院に收容せられ遂に轉して普通寺豫備病院に入る二月事故退院七月廿日步兵第二十二聯隊附となり再出征す八月任中尉第四軍豫備隊として小紅石に駐軍し十月大石橋を守備す叙從七位卅九年一月壓臺を守備す三月多度津に凱旋す四月召集解除せらる

○同伊勢謙吉は同村の人一年志願兵を以て步兵第四十三聯隊に入り卅七年七月軍曹を以て補充大隊に入隊す九月出征大孤山前守備となり任少尉十月第二回旅順總

攻撃に參加す十一月叙正八位旅順本防禦線内東鷄冠山助攻に參加し尋て一戸堡壘に二百三高地に戰ひ十二月十一日一戸砲臺四砲陣地改築中腹部貫通銃創を受け後送善通寺豫備病院に入る三月事故退院卅九年一月六日召集解除せらる

○陸軍步兵中尉加藤安三は桑野村平民にして初一年志願兵として步兵第十二聯隊に入り卅二年二月任少尉四月叙正八位卅七年四月臨時召集に應し第十一師團臨時衛生隊附となり同隊編成委員兼馬匹受領委員となる八月柳樹屯に上陸し遼陽附近戰鬪に參加す九月任中尉十一月叙從七位卅八年三月奉天附近饅頭山附近に戰ひて負傷せしは三月三日なり廣島病院に後送せられ尋て善通寺病院に轉す廿二日事故退院十一月召集解除卅九年二月給助金貳百貳拾五圓を給せらる

○同工藤秀雄は那賀郡の人卅七年四月廿日臨時召集に應し步兵第十二聯隊に入り即日充員召集に應し第十一師團衛生隊に編入せらる五月出征張家屯に上陸し第二軍兵站監部に屬す六月第十一師團に復歸し劍山老座山旅順第一回總攻撃盤廠南方高地占領戰旅順第二回總攻撃等に參加し十一月に至り病を以て第二野戰病院に入院し十二月善通寺豫備病院に轉す卅八年二月退院步兵第十二聯隊補充大隊に屬し尋て第四十三聯隊補充大隊に轉す三月任中尉四月叙從七位十一月召集解除せらる

○陸軍三等軍醫田中榮一郎は那賀郡の人卅七年十二月一年志願兵を以て步兵第四十三聯隊に入り四月醫官見習を命せられ善通寺豫備病院第三分院附となる五月任三等軍醫步兵第四十三聯隊附となる七月叙正八位九月臨時陸軍撿疫部似島撿疫所附となり六月に至り右免せらる

○陸軍步兵中尉湊喜平は那賀郡の人初士官候補生を以て步兵第十二聯隊に入り卅七年三月任少尉五月叙正八位七月出征して南尖灣に上陸し第四軍に屬す七月柝木城攻撃軍に從ひ前進峪峪高地を占領す七月卅日同地附近地形偵察の任務遂行中左大腿貫通銃創を受け病院に入る八月廿二日治癒退院又戰線に列す遼陽の戰鬪に參加し九月三日に至り遼陽城南門占領に垂なるの時又左上膊貫通銃創を受け後送姫路豫備病院に療養す後廣島豫備病院に轉し六月事故退院步兵第二十聯隊補充隊附となり同月卅日任中尉八月叙從七位福知山俘虜收容所附を命せられ卅九年一月同所閉鎖に付復隊す四月に至り傷病の爲め服役に堪へす依願退役す

○陸軍三等軍醫仁宇弓之助は椿村の人卅七年九月補充召集に應し步兵第四十三聯隊に入り九月豫備役見習醫官として善通寺豫備病院附となり十二月第十一師團第二野戰病院附上級勤務を命せられ出征し青泥窪に上陸す卅八年一月旅順望臺の戰

關に參與す任三等軍醫二月叙正八位奉天附近馬群丹等各地の戰役に從ひ卅九年一月詫間港に凱旋し尋て召集解除せらる

○陸軍二等獸醫賀島政基は那賀郡の人卅七年四月充員召集に應し歩兵第十旅團司令部に編入せられ五月高濱港を發し長家屯に上陸す亂泥橋附近大白山龍頭山大孤山等各地の戰役に從ひ八月旅順第一回攻撃戰に參加し九月脚氣病に罹り青泥窪兵站病院に入り遂に營通寺豫備病院に後送せらる同廿六日任二等獸醫十月事故退院騎兵第六聯隊補充中隊附となる十一月叙從七位卅八年六月留守第十一師團獸醫部々員に轉し卅九年一月復員下令尋て召集解除せらる

○陸軍歩兵大尉原源次郎は長生村平民にして初德島中學校を卒業し山口高等學校に入れり廿九年十二月一年志願兵として歩兵第二十二聯隊に入る卅七年四月十九日動員下令六月歩兵第四十三聯隊補充大隊副官となり十二月任大尉卅八年三月叙正七位命免數回卅九年三月歩兵第四十三聯隊附となれり四月一日卅七八年戰役の功に依り勳五等雙光旭日章金五百圓の叙賜あり

○陸軍法官部長心得河内貞藏は富岡村平民なり廿六年十二月一年志願兵として歩兵第十二聯隊第二中隊に入り廿八年五月任少尉豫備役となる十一月叙正八位卅三年六月野戰第五師團法官部々員となりを發して太沽に上陸し進みて北京に至る十月宇品に歸還す留守第五師團法官部附となり廿四年十月叙勳六等十二月從七位卅七年四月留守第十一師團法官部長となり七月第十六師團理事に轉し八月門司を發して大連灣に上陸し卅九年四月第十六師團法官部長心得に轉す

○陸軍輜重兵少尉鈴木一二は那賀郡の人卅七年七月三日第十三師團第二糧食縱列附として横濱を出發し同廿五日樺太島第一アルコフに上陸し翌日ルイコフ附近の戰闘に參加し八月輜重兵第十三大隊副官となり九月五日アレキサンドロフを解纜し八日青森に上陸し十月三日仙臺に凱旋す卅九年一月復員輜重兵第二大隊附となる

○陸軍工兵上等工長大久保清吉は富岡町大字石塚村平民にして卅七年二月由良要塞警急配備下令卽日要塞司令官指揮下に屬し由良要塞防禦田倉崎堡壘建築工事主任官兼加太砲臺建築主任官として工事急施を遂行し四月任務を完了して歸廳す五月第二臨時築城團編成下令同團附として留守第三師團へ配屬尋て人馬係を命せらる六月名古屋を發し出征の途に就く此行不幸其乘艦佐渡丸は玄海灘に於て敵艦の

爲め包圍攻撃を受けたり今其顛末を記すれば次の如し

明治卅七年六月十五日出征ノ途中支海灘ニ於テ敵艦隊ニ包圍セラレタル際輸送指揮官ヨリ各自自由ノ行動ヲ採リ避難ノ方法ヲ講スベキ旨下命アリタレドモ既ニ敵ノ重圍ニ陷入リ殊ニ洋中ノ事ナレハ翼ナキ身ノ爭テ生ヲ全フスルヲ得ンヤ徒ラニ煩死センヨリハ寧ロ沈着死ヲ決スルニ若カスト思惟セシヲ以其旨所屬長官ニ明言シテ本船ニ止リ各將校ト共ニ運命ヲ本船ト共ニスルコトヽシ其後非戰鬪員避難ニ資スル爲メ端艇ノ卸シ方ヲ指揮シ混亂騷擾ノ間ニアルモ爲シ得ル限リ避難者ニ助力シテ避難セシメタリ其後本船ハ敵ノ水雷二發ヲ左右両船ヨリ機關部ニ受ケ破壞口ヨリ噴入スル潮水ハ百瀑ノ一時ニ落ツルガ如シ此ヨリ船内ノ騷擾ト混亂ハ一層甚タシキヲ加ヘ加之ナラス天候ハ暴風雨トナリ其光景轉タ慘澹ナ極ム浩ル混亂騷擾瀕死ノ場合ト雖身ハ人馬掛テフ職ニアルヲ以可及的團員ノ消息ヲ詳カニスルノ職責アルヲ以混亂騷擾ノ間ヲ奔走シテ團員ノ避難セシモノト本船ニ殘留スル者トヲ調ベテ筆記シ又四五個ノ浮游物ニ團長以下ノ官姓名ヲ列記シ避難ノ概況、日時、場所等ヲ附記シテ海中ニ投シ航船ニ拾ハルヽカ將タ陸岸ニ漂着シテ其消息ノ傳ハランコトヲ密カニ祈レリ其後敵艦隊ハ本船ノ沈沒ハ到底免カレサルモノト確認セシニヤ一艦ヲシテ本船ヲ監視セシメ他ハ北方指シテ引揚ゲタリ間モナク殘艦モ亦本船ヲ一周シテ引揚ゲタリ此ニ及テ一同初志ヲ翻シ活路ヲ求ムルコトニ一決シ各將校ト共ニ殘留セル工夫人夫ヲ指揮シテ各船窓ヲ閉ヂ其他本船ノ救護及筏ノ急造ニ盡瘁シタレドモ天候ハ益々險惡トナリ如何トモスル能ハス運ヲ天ニ任セテ漂流スルコトヽセリ翌十六日本船ハ水船トナリ沖ノ島附近ニ漂流中將校會議ニ於テ本船ノ命數モ今後十時間ヲ待タサルベシ故ニ無爲ニ其死ヲ待タンヨリハ一將校ヲシテ遭難ノ顛末ヲ報告シ出來得ベクンハ救助船派遣ノ請求ヲ爲サント一決シ急艇ヲ派遣スルコトヽナリタレトモ船員ハ遭難ノ當初一團トナリ避難セシ後ナルニ因リ之レカ漕手ヲ得ルニ困シ殘留ノ下士卒ヨリ漕手ヲ撰拔スルコトヽナリ小官ハ其撰ニ當リ下士判任文官傭人等十四名ト共ニ川人少佐ニ從ヒ端艦ニ乘組ミ午前七時本船ヲ發シ艇中ニ在リテ左手ニ舵柄ヲ掌リ右手ニ帆尻綱ヲ握リ繰帆ナナシ各漕手ヲ指揮督勵シテ漕撓ヲナサシメ帆走ト漕撓ヲ併用シ六十又餘海里ノ狂瀾怒濤ヲ凌キ全日午後六時六連島ニ着シ同所軍望樓ニ至リ川人少佐ノ口授ニ依リ電文ヲ認メ大本營參謀本部ヘ本船遭難ノ概況及現時本船ハ沖ノ島附近ニ漂流シツヽアル旨打電シ又佐世保吳両鎭守府司令長官及運輸通信部長並ニ門司碇泊所司令官等ニ救助船派遣ヲ電請シ其任務ヲ遂行セリ

六月十七日ヨリ卅日マデ門司ニ於テ遭難人馬貨物ノ受領其他團ノ復舊事務ニ從事ス此月廿日附佐渡丸遭難ノ際各官ノ執リタル行動ハ最　御滿足ニ思召サルヽ旨參謀總長ヨリ傳達セラル七月一日門司出港五日大連ニ上陸シ九日任務地ニ到着ス十一日ヨリ八月二日マデ金州半島防禦線附近ヲ巡回ス尋テ各種ノ任務ヲ遂行シ以テ卅八年十二月ニ至リ宇品ニ凱旋ス

卅九年四月一日卅七八年戰役の功に依り勳六等單光旭日章金參百圓の叙賜あり十月叙從七位

○陸軍二等軍醫有持哲造は新野村平民にして卅七年四月充員召集に應し歩兵第四十三聯隊に入り五月出征す九月善通寺豫備病院附となり多度津に歸還す任二等軍醫十一月叙從七位此月より翌卅九年四月にて臨時陸軍檢疫部似島檢疫所に在りて内地戰役勤務に從事し尋て其勤務を免せらる

○陸軍歩兵一等卒島田眞七は延野村の人卅七年五月歩兵第四十三聯隊第三中隊に屬し詫間灣より出征し張家屯に上陸し蔡家屯兵站監部守備たること月餘六月下旬歪頭山猪圈子溝附近の戰鬪に參加し尋て劔山の各戰に或は斥候として或は攻撃隊として交戰し八月八日小孤山の攻撃に際し同地東方高地に在る敵の機關砲に向ふて一齋射撃を爲し終に彼を撃退して大隊の前進を容易ならしめ渡邊大隊長より其證明を受く十月旅順本防禦線攻圍軍に從ひ十一月廿六日要塞第三回總攻撃の際一

戸砲臺より望遠突撃遂行中負傷第二野戦病院に入り竟に内地に後送せらる廿八年四月善通寺豫備病院を退き第三中隊に編入せられ後第五中隊に轉し十二月兵役免除せられ廿九年四月功七級勲八等に叙せらる

○陸軍歩兵一等卒中林藏は同村の人亦小孤山に於て負傷し第三野戦病院より丸龍第四分院に後送せらる十一月再出征し野戦隊第三中隊に編入せられ旅順陥落の際を經て成河城附近の戦闘に參加し廿八年二月廿日又負傷第十一師團野戦病院より同師團豫備病院に轉す九月兵役を免除せらる

○陸軍歩兵上等兵小森常七は同村の人廿七年四月充員召集に應し歩兵第四十三聯隊第二中隊に屬して各地に轉戦し竟に英額城に至る廿九年一月凱旋して詫間灣に上陸す尋て召集解除せられ四月一日功七級勲八等に叙せらる

○海軍三等兵曹戸田才藏は軍艦富士乗組員として廿七年二月六日佐世保軍港を出發し各海戦に從事す廿八年六月十三日夜特別任務を帶び艦載水雷艇を以て旅順口港外器械水雷沈置に從事せり廿八年十月東京灣に凱旋す廿九年四月功に依り功七級金鵄勲章勲八等白色桐葉章の叙賜あり

○同霜田嘉五郎は桑野村の人廿七年二月韓國仁川港警備より轉して從軍せしは同

九日のことなり軍艦千代田乗組み仁川沖の戦闘を首とし旅順口封鎖敵艦追撃日本海海戦等を經て廿八年七月沿海州インペレートルスカヤ灣敵情視察等に從事したり廿九年四月功に依り功七級金鵄勲章勲七等青色桐葉章の叙賜あり

○陸軍歩兵一等卒江本米一は同村の人廿七年五月第四十三聯隊第十二中隊に屬して出征し各地に轉戦して八月七日小孤山頂上に於て敵の逆襲を受けし際脛部貫通銃創を受け第一野戦病院より善通寺豫備病院に後送せらる廿八年七月除隊即時退院して歸郷す

○陸軍歩兵伍長九山九平は桑野村の人廿七年五月一等卒を以て從軍し廿八年一月上等兵に進み劍山小孤山清河城各地に轉戦し廿九年九月伍長に進みたり廿九年十月六日廿七八年戦役の功に依り功七級金鵄勲章勲八等白色桐葉章の叙賜あり

○同少尉大屋宇三郎は羽ノ浦村の人明治廿七八年の役内地勲務の功に依り金弐拾五圓を賜ふ廿七年五月出征して劍山太白山小孤山等に戦ひ八月歩兵第四十三聯隊第八中隊小隊長代理を命せられ第一回旅順要塞總攻撃に參加し九月任特務曹長十月第二回旅順要塞總攻撃に參加す尋て病に罹り龍頭定立病院より遂に善通寺豫備病院に轉す十一月叙勲八等授端寶章十二月事故退院し士官勤務を命せらる廿八年

三月再出征し任少尉七月叙正八位先是四月英額城方面に連戰し卅九年一月多度津に凱旋す尋て臺灣守備歩兵第五大隊附に補せらる四月一日卅七八年戰役の功に依り功六級金鵄勳章勳六等青色桐葉章の叙賜あり

○陸軍歩兵特務曹長生野喜太郎は同村の人卅七年六月充員召集に應し後備歩兵第四十三聯隊第二中隊に編入せられ八月出征す首山堡遼陽附近沙河會戰等に參加し十月任曹長十一月瓦家堡子孤家子等に戰ひて卅八年二月に及へり三月奉天附近の戰闘中小隊長代理及中隊の指揮を執る任特務曹長十一月多度津に凱旋す勳八等端寶章の叙賜あり十二月召集解除卅九年四月功六級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

附記奉天會戰ニ際シ生野特務曹長ノ遭遇セシ經歴談ハ以テ當時ノ軍狀ヲ想像スルニ足ルモノ有レバ爰ニ其要ヲ摘記セン明治卅八年三月一日奉天會戰ノ將サニ開始セラレントスルニ當リテ生野特務曹長ハ小隊長代理ヲ以テ二日ノ未明前進ヲ起シ饅頭山東北方散兵壕ニ據リ後三道崗子ノ敵ニ對シ命令ヲ待テリ然ルニ敵亦倔強我陣地ニ向フテ砲彈ヲ注下スル頗フル頻繁爲メニ早クモ死傷者ヲ出スニ逢ヘリ午後六時三十分ニ至リ前進命令ハ下レリ衆踴躍散兵壕ヲ跳躍シ突進奮前ス夜色暗黑飛霧縮約咫尺ヲ辨セス加フルニ凍冷膚ヲ劈キ敵彈四散ヲ以テス九時後備歩兵第十二聯隊第二大隊長ノ需ニ依リ當中隊ハ孤立前進同隊ノ救援ニ赴カサルヲ得ス此時敵ノ發砲激烈ヲ極メ我死傷甚タ多ク一歩又一歩死傷相踵クニ至リシモ猛進同隊ノ左翼ニ在リテ奮戰セリ此ノ間ニ同隊ハ漸ク後方ニ退キツヽ傷者ノ運搬ニ從事セリ而シテ敵ハ堅固ノ堡壘ニ據リ機關砲大小砲ヲ亂射シテ我中隊ニ擬セリ難闘苦戰殆ド其極ニ達ス十一時左斜方ニ當リ怪ムヘキ音響ヲ聞ケリト報スル者アリ即チ上等兵福島甚太郎一等卒諏訪熊太ヲ率ヒテ偵察セシニ圖ラサリキ敵ノ一部隊約二百名許ハ醜雪夜暗ヲ利用シ匍匐潛カニ我左翼ヲ襲ハントスルナリ乃チ靜肅我小隊ノ方向ヲ變換シ約卅分ヲ經過シテ彼レノ接近シ來ルヲ測リ不意ニ連發射擊ヲ爲シタレハ竟ニ多大ノ損害ヲ被ラシメテ潰走セシメ又此夜十二時頃ニ至リ第十二聯隊ハ全ク傷者ノ運搬ヲ終レリトノ報ニ接シ我中隊ハ舊位置ニ復セリ此夜ノ死傷實ニ五十四名ニ達シ中隊全員ノ約四分一ニ當リシハ慘憺ト謂フベキナリ明レバ三月三日叭及袋ニ土砂ヲ充シテ掩堡ニ代用ス中隊長德武大尉小隊長奥田少尉前後相尋テ負傷シ下士以下ノ死傷亦多シ翌四日板東少尉ハ中隊長代理廣藤特務曹長ハ小隊長トシテ彈雨ヲ冒シテ來着セリ翌五日午後二時前進ノ命令アリ生野特務曹長亦部下ヲ督シテ前進ス一望開展據ルベキノ地物ナシ敵ハ例ノ機關砲ヲ亂發ス我軍死屍ヲ堡壘ニ代ヘテ戰闘セリ慘狀想フベキナリ中小隊長及下士以下ノ死傷續出セシモ幸ニ生野特務曹長ト武澤佐藤二伍長及兵卒六十餘名ハ無事ナルヲ得シモ雨注ノ亂丸豈微少ダニ無キヲ得ンヤ然レトモ勇奮殘兵ヲ指揮シテ第二中隊ヲ危險地ヨリ收容シ以テ日沒ニ至レリ午後八時第五中隊ト交代シテ畫間ノ位置ニ歸ル武澤佐藤二伍長及阿部上等兵各小隊ヲ指揮シ生野特務曹長中隊ヲ指揮セリ八日午前三時敵退却ノ兆アリ直ニ追擊シテ曉天ナマコ形山ヲ占領シ十時抹子山ニ達ス桑林子ヲ占領シテ掩堡ヲ急造スルノ際馬車ヲ驅リテ我側方ヲ横斷スルモノ有ルヲ見ル之ニ射擊ヲ加ヘシモ命中セス即武澤伍長ヲ率ヒテ疾走彼ニ進及シ漸ク其一人ヲ捕ヘタリ此レ敵ノ砲兵下士ナリト此夜又異狀ナク唯彼我斥候ノ出沒セルト敵方ノ村落類ニ放火シテ天ヲ焦スヲ見ルノミ翌九日午前六時警急集合ノ號音ト共ニ前進ノ途ニ上リ行クコト十數町敵彈ヲ冒シテ渾河ノ左岸ニ達ス頭上ニハ敵彈ノ雨下スルアリ脚底ニハ堅氷ヲ履ミテ漸ク沙上ニ俯伏對戰ス時恰大風ノ起ルニ會シテ砂石ヲ捲クノ風伯ハ日光ヲ鎖シ晝尚暗黑僅ニ砲聲ヲ聞キテ敵ノ所在ヲ知ルアルノミ茲ニ最意外ノ故障ヲ感シタルハ我兵ノ小銃沙塵ニ觸レシノ甚シキヲ以テ機關ノ部分廢軋開閉ニ便ナラス全ク其用ヲ失ヘルヲ以テ空シク劍ヲ裝シテ横臥俯伏敵彈ノ下ニ曝露スルノ止ムヲ得サルニ遭逢セリ於此乎死傷續出シ武澤佐藤ノ二伍長モ遂ニ死傷シ中隊中下士以上剩ス所ハ只生野特務曹長ノミトナリ他ハ悉ク死傷者ノ數ニ入リタリ午後四時命令ニ依リ左岸ニ復歸シ腰官屯ニ來リ命令ヲ待ツ此夜十一時中隊ハ第十二聯隊應援ノ命アリ夜暗ニ乘シ敵彈ヲ冒シテ再右岸ニ行カントス氷上通過ノ際中隊ノ全部壞氷中ニ陷リ冷水腰部ヲ沒シ漸ク聯隊ノ地點ニ達シ遂ニ其右翼ニ延張シテ敵ノ角面堡ニ對シ射擊ヲ開始ス然レドモ前ニ壞氷中ニ陷リタル濕潤ハ寒冽ノ爲メ腰邊ヲ凍冷シテ恰モ板製ノ裳ヲ着スルノ看ヲ爲シ全身遂ニ感覺ヲ失ヘル者アリ凍傷死傷相繼ヲ顯ハレ擔荷ノ運搬意ノ如クナル能ハサルヲ以テ輕傷者ト雖往々死沒ヲ免レザル者アル

ニ至ル加府ナラス銃器ノ機關部凍結シテ彈丸ノ充塡自在ナ尖フ則チ交互ニ銃器ノ手入ヲ爲シツヽ舊闘數時間ニ及ヘリ之ヲ須臾シテ彈丸ハ既ニ發射シ盡シタルモ補充彈丸ヲ受ルニ由ナク漸ク隣隊ニ請ヒテ些少ノ分配ヲ受ケタリ十日午前三時頃旅團長ノ命令ナリトテ第十二聯隊長ヨリノ命ニ曰ク當夜志氣漸々沮喪セシノ疑アリ小隊長以上ニ指揮刀ノ所分ヲ許スト嗚呼開戰以來既ニ幾十回ノ激戰ヲ經タリト雖未タ曾テ此ノ如キ嚴命ノ下リシコト無シ而シテ我隊中此嚴命ニ處セラルベキ者一人モ無キハ我隊ノ幸ニシテ最モ名譽ト爲ス所ナリト生野特務曹長ハ大聲疾呼シタリシカハ志氣大ニ振ヒ拂曉ニハ前面ノ角面堡ヲ奪取シ全線前進進擊シテ魚鱗堡ニ至リ日沒ノ爲メ前哨ヲ張リテ警戒ス此夜敵兵ノ奉天ニ在リテ遁竄シ得サリシ者ニシテ當隊ニ降來リシ者約三千餘人翌十一日當中隊ハ進城方面ノ偵察ヲ遂ケ復命シテ奉天ノ戰役ヲ了レリ

○陸軍三等軍醫武市榮は羽ノ浦村の人卅八年八月見習醫官として第十師團第十聯隊補充大隊に入り十月任三等軍醫姫路豫備病院附となる十一月安東縣に至り臨時測圖部附として滿韓各地に出張し衛生視察及患者施療に從事す卅九年三月第十師團へ復員姫路豫備病院附となり尋て歩兵第四十八聯隊附に移り四月一日戰役の功に依り金百圓を賜ふ

○同鈴江豐は同村の人卅八年五月陸軍三等軍醫を以て野戰砲兵第十一聯隊附となり內地に於て戰務に從事す七月叙正八位九月臨時陸軍檢疫部似島檢疫所附に轉ず卅九年二月青森に出張し同所に於て第八師團凱旋隊の檢疫に從事す四月戰役の功に依り勳六等瑞寶章及金貳百圓を賜ふ

○陸軍砲兵大尉新納巖は那賀郡の人卅七年八月第九師團野戰砲兵第九聯隊補充大隊附となり十月叙正八位卅八年七月第十三師團機關砲隊長を以て出征南部上陸隊に屬し掩護隊に編入せられ青森港を出帆す七月南部樺太メレヤに上陸しダリネー附近に戰鬪す尋て北部上陸軍に加はりボロアレトマリー港より乘船して北部樺太アルコワに上陸しアレキサンドロフ、コルサコフスコエ、ノーミハロフスコエ東方高地に戰ひ十二月青森に凱旋す

○同中尉豐田周吉は坂野村の人卅七年六月充員召集に應し第十一師團第三補助輸卒隊長として着隊し七月第一軍兵站部に屬し詫間灣より出征す安東縣に上陸し湯山城鳳凰城の各地に糧食輸送兵站道路の修補等を兼任す十二月任砲兵中尉卅八年一月鴨綠江兵站部に轉屬す叙從七位二月連山關を出發し賽馬集に至る彈藥糧秣輸送に從事す四月遼東守備軍に編入五月兵站部に轉屬す十月通遼堡に至り兵站道路改修鐵道護線等に從事す卅九年二月多度津に凱旋す三月十五日召集解除せられ四月一日戰功に依り勳五等双光旭日章金四百圓の叙賜あり

○陸軍二等軍醫園田鶴太郎は那賀郡の人德島中學を卒業し第三高等學校醫學部を卒業せしは卅一年九月なり尋て一年志願兵となり卅二年十二月現役滿期豫備役に

編入せらる卅四年三月任陸軍三等軍醫六月叙正八位卅七年四月充員召集に應し第十一師團衛生隊に編入せられ五月出征す九月任二等軍醫十一月叙從七位先是七月亂泥橋東方高地より黄泥川大下屯西方高地に亘る敵軍逆襲防禦戰老座山大白山小孤山第一回第二回旅順總攻擊戰爾餘數ケ所の各戰鬪に際し戰務に從事し卅八年一月旅順捕虜病患者救護として老虎尾海軍患者收療所幷に新市街海軍病院に於て監督醫官の勤務に服し二月渾河城馬群丹南方高地戰鬪に從ひ卅九年一月凱旋し二月召集解除せらる功五級金鵄勳章勳六等單光旭日章の叙賜あり

○陸軍歩兵特務曹長玉田勝吉は坂野村の人卅七年四月以降内地に於て戰役事務に服す卅九年一月充員召集解除せらる先是卅八年五月叙勳七等授瑞寶章卅九年四月一日卅七八年戰役の功に依り青色桐葉章金四百圓の叙賜あり

○同少尉岩瀨猪六は今津浦村の人卅七年四月充員召集に應し歩兵第四十三聯隊に入り九月同聯隊補充員として出征す任少尉十一月叙正八位卅八年五月叙勳六等瑞寶章を賜ふ六月病の爲め内地に還送せられ十一月に至り召集解除せらる

○陸軍三等軍醫近藤綾次郎は浙野村の人卅七年九月見習醫官を志願し卅八年二月任三等軍醫三月叙正八位此月出征して柳樹屯に上陸し卅九年一月多度津に凱旋す

○同歩兵曹長大宮傳右衛門は中野島村の人卅七年七月後備歩兵第四十三聯隊第五中隊に屬して出征し鞍山站奉天附近の戰鬪に參加せしもの數回卅八年三月任曹長十二月召集解除せらる功七級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○同軍曹坂本丈平は同村の人卅七年五月出征し頭道溝の戰鬪を首として各地に轉戰す卅八年一月任伍長八月任軍曹戰功に依り功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり

○陸軍歩兵上等兵大川文右衛門は中野島村の人卅七年五月出征し黄泥川大上屯等の諸戰を首とし各地の戰鬪を經て卅九年一月多度津に凱旋す四月一日卅七八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章白色桐葉章の叙賜あり

○同大川巳代吉は前同村の人歩兵第四十三聯隊に屬して戰歿同上卅八年二月馬群丹に於て負傷す卅九年一月召集解除戰功に依り功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同松田伴吉は同村の人戰歿略同上卅九年十一月現役歸休叙賜亦同上

○同大西伊藏は同村の人卅七年五月充員召集に應し歩兵第四十三聯隊に入り五月出征し十一月望臺戰鬪の際負傷す召集解除戰功の叙賜亦同上

○陸軍歩兵一等卒羽田幾太郎は同村の人召集解除戰功の叙賜同上

○陸軍歩兵一等卒佐野廣藏は同村の人卅七年五月出征し卅八年一月召集解除せらる卅九年一月再歩兵第四十三聯隊第二中隊に入る卅九年一月召集解除せらる叙賜同上

○同軍曹大前芳太郎は大野村平民にして卅七年六月歩兵第四十三聯隊第九中隊に屬し出征し劍山大白山小孤山等の戰鬪及守備に參加し同年八月八日小孤山に於て左脅部盲管砲創を受く卅九年三月現役滿期す先是勳八等功七級に叙せらる

○同伍長河井德太郎は同村の人卅七年七月充員召集に應し歩兵第四十三聯隊第二中隊に屬して出征し大白山小孤山第三回旅順總攻擊傳家樓子西北附近等の各地に戰鬪す終に卅八年二月に及へり三月伍長卅九年一月召集解除せらる先是功七級勳七等に叙せらる

○同小田嘉吉は同村の人歷閱記事同上

○陸軍歩兵一等卒天羽鶴吉は同村の人卅七年六月歩兵第四十三聯隊第六中隊に屬して出征し六月劍山戰鬪の際右肩胛部に負傷す卅八年一月再戰役に服し望臺滿河城救兵臺等の諸戰に參加し卅九年一月召集解除せらる先是既に勳八等功七級の叙賜を拜す

○陸軍歩兵曹長淺川泰助は加茂谷村の人卅七年七月充員召集に應し歩兵第四十三聯隊第五中隊に屬して出征し黃泥川大上屯大白山小孤山東鷄冠山望臺等の諸戰に參加し卅八年二月より三月中旬まで救兵臺馬群丹撫順等の戰役に從ふ任曹長其小孤山攻擊に當り卅七年八月八日斥候偵察の動作勇敢にして功績著大なるの故を以て師團長の賞詞を受く卅九年一月召集解除せらる是より先き勳八等功七級金鵄勳章の叙勳を拜せり

○陸軍歩兵伍長中川秋藏は同村の人卅七年六月出征す戰歷略同前九月十九日負傷して龍頭定立病院に入り遂に善通寺豫備病院に後送せらる十一月全治退院十二月前聯隊第一中隊に入り尋て第五中隊に復す卅八年二月三月の交哈叭岑滿河城救兵臺馬群丹撫順等に轉戰し卅九年一月に至り召集解除せらる是より先き功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり

○同佐々嘉太郎は同村の人亦同聯隊第十一中隊に編入せられて出征す戰歷略同前而して前後二回負傷せり一は卅七年八月九日望臺戰鬪中負傷し青泥窪兵站病院に入り後大阪善通寺の兩豫備病院に轉し九月十八日に至り事故退院す十月同聯隊第八中隊に入り出征せり二は卅八年三月三日馬群丹の戰鬪中又負傷して第一野戰病院に入り後安東縣より後送せられ廣島豫備病院に轉入し尋て善通寺豫備病院に轉

す卅九年二月傷痍の爲め兵役免除せられて遂に退院せり先是既に功七級金鵄勳章勳八等の叙賜を拜せり

○陸軍歩兵上等兵佐々欣太郎は同村の人卅七年六月豫備役より召集せられて第四十三聯隊第二中隊に入り出征す戰歷同前卅七年八月八日小孤山に於て負傷し第三野戰病院青泥窪兵站病院等を經て遂に善通寺豫備病院に轉送せらる九月退院十一月又第六中隊に屬して出征し卅八年二月より三月に亘り馬群丹撫順等の戰闘に參加す卅九年一月現役滿期せり先是功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり

○同一等卒龜島國藏は同村の人卅七年四月充員召集に應し同聯隊第八中隊に入り七月出征す大白山攻撃の際負傷竟に善通寺豫備病院に入院す卅八年五月に至り傷痍の爲め兵役を免除せらる先是叙賜同前

○陸軍歩兵曹長近藤民五郎は長生村の人卅七年四月歩兵第四十三聯隊第一中隊に編入せられて從軍す歪頭山附近の偵察戰闘等に參加し七月第三中隊に轉す前後二回負傷せり第一回は八月八日小孤山の戰闘に於て第二回は十一月廿六日一戸堡壘の戰闘に於てなり然れとも旅順の攻撃小高力三道河子三龍峪大石頭等の諸戰に參加して卅八年五月に至るまて戰役に從事せり卅九年二月召集解除せらる

○同軍曹中村爲吉は同村の人卅七年六月召集に應し同聯隊後備第二大隊第五中隊に編入せらる七月出征す八月鞍山站の戰闘を首として卅八年三月十二日奉天附近の戰闘に至るまて各地に轉戰せり卅八年十一月召集解除せらる先是既に功七級金鵄勳章勳七等の叙賜を拜せり

○同上等兵仁木久吉は同村の人卅七年五月現役を以て從軍す劍山附近の戰闘より卅八年四月大狐頭溝附近の戰闘に至るまて或は攻撃或は防禦戰に參加せり卅九年一月召集を解除せらる先是叙賜同前

○同橘勝藏は橘浦村の人卅七年四月應召同聯隊第四中隊に編入せられ五月下旬戰地に着す六月猪圈子溝附近の戰闘を初とし八月七日より九日に至る三日間小孤山の戰闘中我軍勝利を得んとする瞬間負傷の爲め戰線を退き遂に善通寺豫備病院に後送せらる治癒の後再出征す卅九年八月召集解除せらる是より先き卅七年七月廿六日以後二日間旅順要塞前進防禦攻撃に際して軍司令官より部隊感狀を頒たれ又功七級金鵄勳章勳七等の叙賜あり

○陸軍歩兵一等卒後藤津彌太は同村の人卅七年五月現役を以て第四十三聯隊に屬して出征す盤大溝に上陸し直に頭道溝守備兵となる七月廿六日より廿八日に亘る

旅順要塞前進防禦の功に依り部隊感狀を受けしこと前者に同し廿八年三月十五日鮫島中將の賞詞を受く前後戰鬪に參加せしこと十七回廿九年十一月召集解除せらる功六級金鵄勳章勳八等の叙賜を拜せしこと六回廿八年十一月召集解除せらる功七級勳八等の叙賜あり

○陸軍步兵一等卒島尾市太郎は同村平民にして廿七年六月應召し八月出征す首山堡の戰鬪に參加し尋て戰鬪に從事せしこと前者に同し

○同金山崎藏亦同村平民にして廿七年八月出征し十一月二十六日一戶堡壘附近の戰鬪中負傷第一野戰病院に入り廿八年一月又步兵第四十三聯隊補充大隊第二中隊に編入せられ尋て第一中隊に轉す廿九年一月召集解除せらる叙賜前に同し

○陸軍步兵伍長湯淺島太郎は相生村の人廿七年四月召集に應し五月出征し八月九日小孤山に於て負傷し善通寺豫備病院に在ること月餘十一月第四十三聯隊第十二中隊に復歸し再出征して青泥窪に上陸し戰役に服す廿九年一月多度津に凱旋す是より先き功七級金鵄勳章勳七等の賜叙あり

○同上等兵川平周五郎は相生村の人召集出發同前廿八年三月三日負傷し野戰病院廣島善通寺兩豫備病院に療養し廿九年一月第四十三聯隊補充大隊に編入せられ尋て召集解除せらる先是功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり

○陸軍步兵特務曹長野村慶藏は大野村の人廿八年一月第十一師團臨時團民步兵大隊に編入せられ二月松山衛戍及俘虜警衛に從事し十一月召集解隊せらる

○陸軍步兵上等兵吉岡貢は今津村の人廿七年五月出征し步兵第四十三聯隊に屬し大白山小孤山等に戰ふ十一月脚氣症にて內地に後送せられ廿八年再出征し三月七日負傷四月內地に後送せらる八月傷痍の爲め兵役を免除せらる

○同藤本忠次郎は同村の人同聯隊第八中隊に屬して出征し廿八年八月十七日大白山の攻撃廿八年五月廿日ファンヤン嶺の攻撃等決死隊に入りて突進或は偵察に從事す而して廿七年七月下旬旅順要塞前進防禦攻撃には部隊感狀を附與せらる廿九年一月現役滿期す

○同手塚佳一は同村の人戰歷略同上廿七年七月八日小孤山に於て負傷し內地に後送せらるゝて再出征し廿八年三月二日馬群丹突撃の際師團長の部隊賞詞を受く廿九年一月召集解除せらる

○海軍造船大技師磯崎滑吉は那賀郡の人廿七年一月出師準備に際し海軍病院船假裝砲艦運送船其他特に船舶の艤裝工事及艦船艇の修理改造に從事す五月關東州大

窖口口に沈沒せる軍艦宮古の兵器引揚及船體檢査の命を受け戰地に出張せり宮古沈沒位置附近の布設機械水雷の搜索引揚を行ひ又宮古の兵器引揚船體の檢査に從事の傍ら其附近に沈沒せる水雷艇及擱礁せる水雷艇の兵器及附屬品引揚及大連工作場占領後の工場及機械の整理に從事す七月任海軍大技士吳海軍工廠造船部々員に補せらる九月歸廠し軍艦筑波生駒、安藝の建造等に從事し卅八年五月海軍兵學校運用術教官に兼補せらる卅九年三月兼職を免せる

○陸軍砲兵伍長大建豐作は相生村の人卅七年五月出征して上等兵に進み卅九年一月多度津に凱旋し伍長に進む先是功七級金鵄勳章勳八等の叙賜を拜す

○同歩兵軍曹濱田信太郎は平島村の人卅七年五月歩兵第四十三聯隊第一中隊に屬して出征す八月四日小孤山の戰鬪中前額盲管及大腿貫通銃創を受け療養日を經再戰務に從事す卅七年八月廿日附第十一師團長より左の賞詞を受く

歩兵第四十三聯隊第一中隊陸軍歩兵上等兵　濱田信太郎

明治三十七年八月八日所屬隊水孤山攻撃ニ際シ上等兵ハ村井中尉ノ指揮スル突撃隊ニ屬シ工兵ト共ニ猛烈ナル銃砲火ヲ冒シテ勇往邁進シ鐵條網ヲ切斷シ頑強ニ抵抗セル敵ヲ擊攘シテ卒先敵壘ニ突入シ奮戰格鬪同山ノ占領ニ與テ大ニ力アリ其動作勇敢ニシテ功績著大ナリト認ム仍テ賞詞ヲ授與ス

明治三十七年八月二十日　第十一師團長陸軍中將正四位勳二等功四級　鮫島重雄

卅九年四月一日卅七八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章勳七等の叙賜あり是れより先一月廿九日現役滿期す

○陸軍歩兵上等兵福川安平は中島浦村の人卅七年五月出征し各地に轉戰して卅九年一月に及へり歸隊後召集解除せらる功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり

○同佐藤玄吾は同村の人卅七年五月歩兵第四十三聯隊第八中隊に屬して出征す八月三日大白山攻撃の際決死隊に編入せられ敵陣に突入して任務を達成したる爲め第三軍司令官より感狀を授與せられたりと而して其狀文逸せり卅九年一月召集解除せらる同上の功に依り功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり

○同熊川島藏は同村の人同聯隊第十二中隊に屬して出征す卅七年六月劔山の戰鬪を首として各地に轉戰す卅九年一月召集解除せらる叙賜前に同し

○同吉田喜十は同村の人同聯隊九中隊に屬して出征し卅七年八月四日小孤山に於て決死隊に加入し左足膝を負傷す療養幾月卅八年十一月第三中隊に尋て第七中隊に編入せらる卅九年一月解隊卅七八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜を拜す

○同吉田龜三郎は同村の人卅七年八月同聯隊第二中隊に屬して出征し鞍山站首山堡遼陽其他各地に轉戰し卅八年十二月召集解除せらる叙賜同上

○陸軍砲兵軍曹川田源太郎は平島村平民にして廿七年五月野戦砲兵第十一聯隊第二中隊に屬し中隊炊事係を以て従軍し炊爨事務に従事せり廿八年一月軍の北進に當り中隊長の傳令勤務に服し尋て他隊との連絡勤務に服せしも常に炊爨事務と相兼ねたり廿九年一月解隊同月廿七八年戦役の功に依り功七級金鵄勲章勲八等の叙賜あり

○陸軍歩兵伍長青木豊藏は同村平民にして廿七年八月出征して鞍山站の戦闘に参加し尋て附餘の諸戦を歴閲し廿八年三月奉天附近の戦闘に従事せり十一月十八日多度津に凱旋す廿二日召集解除せらる廿七八年戦役の功に依り功七級金鵄勲章勲七等青色桐葉章の叙賜あり

○同上等兵花木良策は宮濱村の人廿七年五月歩兵第四十三聯隊第三中隊に屬して出征し八月八日小孤山附近の戦闘中右肘關節腰軟部に各貫通銃創を受け柳樹屯野戦病院より普通寺豫備病院に轉す廿八年八月全治退院す廿九年一月召集解除せられ四月一日功七級金鵄勲章勲八等白色桐葉章の叙賜を拜す

○同吉川淺吉は同村の人同聯隊第十一中隊に屬して出征す八月九日小孤山に於て負傷す閲歴畧同上叙賜亦同上

○同中西新八亦同村の人にして廿七年五月より廿八年一月に至るまて戦務に服し廿九年一月召集解除せらる四月一日叙賜同上

○陸軍歩兵軍曹森田政市は亦同村の人戦歴畧同上功七級勲七等の叙賜を拜す

○同一等卒南谷源藏は福井村の人廿七年六月歩兵第四十三聯隊第三中隊に屬して出征し八月廿一日首山堡に於て負傷す閲歴畧同上功七級勲八等の叙賜を拜す

○同軍曹野村萬吉は同村の人にして同聯隊第一中隊に屬して廿七年八月より廿八年六月に至るまて戦務に服す廿九年四月一日功七級勲七等の叙賜を拜す

○同伍長四宮濤吉は亦同村の人同聯隊第九中隊に屬して廿七年八月より廿八年三月に至るまて戦務に服し廿九年一月復員解隊四月一日叙賜同上

○同軍曹中富熊太郎は富岡町の人同聯隊に屬し戦歴畧同上廿九年一月召集解除四月一日叙賜同上

○陸軍工兵上等兵大野眞一は同町の人廿七年十二月工兵第十一大隊に屬して出征す廿八年三月二日五百牛泉西北高地に於て負傷入院九月廿二日全治退院十月召集解散四月一日功七級勲八等の叙賜を拜す

○陸軍歩兵上等兵寺内佐藏は亦同町の人廿七年六月より十二月に至るまて戦務に

服し卅九年二月現役滿期四月一日叙賜同上
○陸軍歩兵一等卒上原源藏は同町の人卅七年四月歩兵第四十三聯隊に屬し戰歿
同上卅九年一月召集解除四月一日叙賜同上
○同伍長大西新七は坂野村の人卅七年八月同聯隊第七中隊に屬して出征す十月旅
順本防禦線線攻撃を首として各地に轉戰す卅九年一月召集解除四月一日功七級勳
七等の叙賜を拜す
○陸軍工兵一等卒丸岡辨吉は同村の人卅七年七月工兵第十一大隊に屬して十月旅
順攻圍軍に參加し同月負傷入院卅八年七月韓國咸興軍用通信所付となり卅九年四
月迄韓國駐劄電信隊勤務四月召集解除功七級勳八等の叙賜を拜す
○陸軍歩兵一等卒紀本喜平は同村の人歩兵第四十三聯隊第四中隊に屬して出征し
卅八年三月奉天附近の戰鬪中左胸部盲管砲創を受く十一月負傷に依り兵役免除叙
賜同上
○同上等兵田中金五郎は同村の人卅七年六月同聯隊第三中隊に屬して出征し卅八
年三月負傷入院四月退院十一月召集解除叙賜同上
○同松本嘉次郎は同村の人卅七年四月同聯隊第四中隊に屬して出征し四月より戰
務に服し八月小孤山附近の戰鬪中負傷入院十月退院再征第一中隊に屬し十二月よ
り卅八年五月に至るまで戰務に服す卅九年一月召集解除四月一日叙賜同上
○陸軍歩兵一等卒淺石谷藏は同村の人卅七年九月同聯隊補充大隊第二中隊に屬し
て十一月より卅八年二月に至るまで戰務に服し三月馬群丹附近に於て負傷六月同
聯隊第一中隊に轉入八月後備同聯隊第二中隊に編入せらる十一月召集解除叙賜同
上
○同上等兵杉本譽助は同村の人卅七年六月出征し鷄冠山の戰鬪を首として連戰卅
八年一月一日望臺の戰鬪に至り負傷入院せり四月再歩兵第四十三聯隊補充大隊第
二中隊に屬して又戰務に從事す八月三日大石溝附近の戰鬪を最終となし卅九年十
一月歸休す功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり
○同大野新助は同村の人卅七年七月出征し劍山附近の戰鬪に參與し八月九日小孤
山に於て負傷入院九月退院補充大隊第二中隊に轉隊再出征歩兵第四十三聯隊第十
中隊に屬して出征し卅八年二月清河城附近に戰ふ尋て英額城附近の戰鬪に參加せ
しを最終とす以下前に同し
○陸軍歩兵伍長島居峰吉は坂野村の人卅七年六月歩兵第四十三聯隊第十二中隊に

屬して出征し八月九日小孤山に於て負傷し入院月餘廿八年四月又出征し大石頭勾
附近の戰鬪を最終とす廿九年十一月歸休す功七級金鵄勳章勳七等の叙賜あり
○陸軍歩兵一等卒山田吉五郎は同村の人戰歷畧同前廿八年一月廿九日入院十月歸
休す四月一日廿七八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章勳八等の叙賜を拜す
○陸軍歩兵軍曹鳴瀧伊三郎は坂野村の人廿七年六月出征し八月八日小孤山に於て
負傷し治療若干日十月又大孤山前西南高地に於て負傷す廿九年十一月歸休せり先
是功七級金鵄勳章勳七等の叙賜を拜す
○同武藏嘉藏は同村の人戰歷畧同前廿七年六月廿六日劍山戰鬪中負傷入院月餘に
して再戰鬪に從事す廿八年四月四日部隊感狀を頒與せらる廿九年一月廿五日召集
解除せられ四月一日叙賜同上
○同工兵上等兵川瀨慶次郎は坂野村の人廿七年五月工兵第十一大隊補充中隊に屬
して出征し八月八日小孤山に於て負傷す廿八年八月二十日鮫島師團長の賞詞を受
けしこと別記の如し後ち戰功に依り功七級金鵄勳章勳八等の叙賜を拜す
○同歩兵曹長磯賀久太郎は鴛敷村平民にして後備歩兵第四十三聯隊第六中隊に屬
して征途に就き廿七年八月廿日より首山堡に交戰し爾後各地に轉戰して廿八年十
一月十八日凱旋するに至れり功七級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり
○同伍長造道宇作は同村の人出征畧同時期十一月廿二日脚氣病に罹り第五野戰病
院に入り廿八年十二月召集解除せらる功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あ
り
○同歩兵一等卒關山半次郎は同村平民にして廿七年五月出征し大小孤山等の戰鬪
に參加せしも無事なるを得たりしが十一月廿四日旅順要塞第三回總攻擊の際一戸
堡壘に於て負傷す廿九年十一月歸休す叙賜前に同し
○同工兵上等兵福島種吉は同上にして戰歷畧同上廿七年十月二日第十一師團長の
賞詞を受けしこと別記の如し廿日負傷後送廿八年一月再出征二月廿八日又負傷せ
り廿九年一月多度津に凱旋す十六日召集解除せらる叙賜同前
○同歩兵一等卒手東利和藏は鴛敷村平民にして歩兵第四十三聯隊第八中隊に屬し
て廿七年五月出征し八月十九日部隊感狀を受く尋て連戰廿八年二月十七日に至り
賽馬集に於て負傷入院す四月再出征す廿九年一月召集解除せらる叙賜同前
○同神野雀太郎は栢村の人歩兵第四十三聯隊第二大隊に屬して出征し廿七年八月
十九日第三軍司令官の部隊感狀を頒ち與へらる

○陸軍輜重輸卒伊勢由藏は同村の人輜重兵第十一大隊に屬して出征し卅八年四月三日鴨綠江軍司令官の感狀を頒ち與へらる

○同撫養幸藏は同村の人卅八年六月一日後備第一師團長の賞狀を受くること左の如し

第十一師團兵站糧食縱列　撫養幸藏

右者當師團ニ配屬セラレ明治三十八年二月廿六日下夾河ニ於テ師團ニ追及以來三月三日ニ至ル間日々師團ノ糧秣輸送ニ任シ沍寒ヲ冒シテ峻路嶮坂ヲ有スル十數里ノ行程ヲ往復セシノミナラス屢寢食ヲ廢シ非常ノ熱心ト勉勵トヲ以テ晝夜兼行能ク其任務ヲ盡シ師團ノ給養ヲシテ遺憾ナカラシメタリ其功績偉大ナリトス依テ茲ニ賞狀ヲ附與ス

明治三十八年六月一日　後備第一師團長陸軍中將正四位勲二等功四級　坂井重季

○陸軍歩兵一等卒久米長次郎は椿村の人褒詞を受けしこと左の如し

歩兵第四十三聯隊第七中隊陸軍歩兵一等卒　久米長次郎

鄕ハ明治三十七八年戰役ニ際シ同年三十八年三月出征從軍中隊入以來滿洲ノ野ニ風土ト戰ヒツヽ各所ノ堅陣ヲ拔キ強敵ヲ攘ヒ終ニ皇軍ノ武威ヲ四表ニ發揚スルヲ得タリ由テ茲ニ其光輝アル功勲ヲ表旌ス

明治三十九年一月廿四日　歩兵第四十三聯隊第七中隊長陸軍歩兵大尉正七位　野口矯

○陸軍歩兵特務曹長篠野德太郎は見能林村平民にして歩兵第四十三聯隊第十一中隊に屬して出征し卅七年八月七日小孤山に於て負傷し九月十四日まて入院即日同聯隊補充隊附となれり戰功に依り功七級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○同一等卒瀬戸菊藏は荅島村の人卅七年九月出征し卅八年一月一日望臺の戰鬪に參加し廿四日多度津に凱旋す卅九年一月召集解除せらる功七級勳八等の叙賜あり

○同土本久吉は見能林村の人卅七年五月出征し七月二日劔山附近に戰鬪して負傷す療養期月補充大隊に編入せらる卅八年一月鴨綠江軍に轉隊す卅九年一月召集解除せらる叙賜同前

○陸軍工兵上等兵福永本次は同村の人卅七年五月出征し爾後旅順攻擊東鷄冠山爆破作業等に從事し以て卅九年一月詫間港に凱旋するに至る先是卅七年十月廿九日第三軍司令官の感狀を授與せらる戰功に依り功六級勳八等の叙賜あり

○陸軍工兵軍曹上田伊三郎は見能林平民にして卅七年五月工兵十一大隊に屬して出征し第一回第四回旅順總攻擊に參加し卅九年一月多度津に凱旋す功七級金鵄勳章勳七等の叙賜あり

○陸軍歩兵一等卒山下半吉は同村の人卅七年七月後備歩兵第四十三聯隊第二中隊に屬して出征し鞍山站首山堡等の戰鬪に參加して決死隊に加名す卅八年三月五日奉天會戰の際負傷して善通寺豫備病院に入り四月五日退院し補充大隊第二中隊に編入せられ七月召集解除せらる功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり

○陸軍歩兵上等兵打樋楠太郎は同村平民にして廿七年五月同聯隊第十二中隊に屬して出征し八月八日小孤山戰鬪の際決死隊に參加し尋て旅順第一回より第三回の總攻撃東鷄冠山望臺の諸戰に從事し廿八年四月七日馬群丹戰鬪中決死隊に加名して終に負傷し善通寺豫備病院に後送せらる十月兵役免除戰功に依り叙賜同前

○同增田增吉は同村の人同聯隊第一中隊に屬して同年月出征し歪頭山劍山小孤山等に轉戰せり小孤山八月八日の戰鬪には敵の右翼機關砲二門の正面射撃は頗る猛烈なりしも終に之を撃退し尋て雙子山に於て下士斥候に從事せしとき敵艦よりの砲撃亦激甚にして四名の戰友中生還せし者二名翌九日は敵の逆襲を受け我中隊の殘兵僅に五十名なりしも亦其一員として生存せり廿八年一月鴨綠江軍に轉し九月曲柳線の戰鬪に參加せり廿九年一月召集を解除せらる叙賜同前

○陸軍歩兵伍長福原宮次郎は見能林村平民にして同聯隊第二中隊に屬す廿七年五月出征し廿八年三月五日馬群丹に於て負傷し善通寺豫備病院に後送せられ四月廿三日退院す七月補充大隊第三中隊に編入せらる廿九年一月復員召集解除せらる功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり

○同上等兵福壽吉平は同村の人後備歩兵第十二聯隊第一中隊に編入せられ廿七年八月柳樹屯に上陸し十月十四日三塊石山附近紅菜山戰鬪の際突撃隊に加はり先登敵の陣地を占領して日章旗を樹立せり廿八年三月二日奉天附近戰鬪中負傷して野戰病院に入り終に善通寺豫備病院に後送せらる十二月召集解除せらる叙賜同前

○陸軍歩兵軍曹土井安太郎は同村の人後備歩兵第四十三聯隊第七中隊に屬して出征し廿七年八月廿一日首山堡西南高地に構造せる鐵條網破壞決死隊に參加せしを首として廿八年三月奉天附近の戰鬪に從事中同月二日歩兵第十二聯隊第二大隊長の負傷せるや繃帶を施し後方に護送せしめ以て同十一日に至るまで此の方面の戰鬪に從事し十一月多度津に凱旋す尋て召集解除せらる功七級勳七等の叙賜を拜す

○同曹長原秀三郎は同村の人後備歩兵第四十三聯隊第六中隊に屬して出征す廿七年八月五日柳樹屯に上陸し廿一日首山堡に戰鬪し分隊長として突撃隊に參加す四十七名中死傷を免れし者十二名十月三塊石山楊城寨及西溝に轉戰し第二大隊書記として傳令勤務に服せしが翌十三日大隊長及副官同時に負傷せしを以て應急手當を施し時恰敵と接近し頗る危險なりしかば又臨機の處置を取りたり十四日傳令勤務中敵彈に中りて負傷起つこと能はさるに至れり乃背泥濘兵站病院に收容せられ尋て內地に後送せらる廿九年六月負傷の爲め兵役免除となる功七級金鵄勳章勳七

等の叙賜を拜す

○陸軍歩兵伍長志摩健二は同村の人同聯隊第二中隊に屬して出征す卅七年十月旅順盤龍廠南方高地敵砲臺破壞のため奇襲隊を編成し其中游泳の技能あるもの一個小隊を擢抜し海岸に進み敵陣地に肉薄前進中敵の猛烈なる砲火を受け我死傷相亞けるも幸して敵前百米突に迫る又中間に小川あり偵察の結果前進容易なる塲所を發見し敵砲陣地に突撃し全部破壞の任務を完ふせり十一月望砲臺攻撃の際前方五十米突に進む時に敵機關砲のために左上膊に微傷したるも前面地形及機關砲の備へあることを報告し前進方向を變更せられたり卅八年五月下士斥候として大石溝を出發し南山條子を捜査中敵兵約五千前進し來るを發見し直に本隊に報告して之を撃退せり卅九年一月詫間灣に凱旋す先是卅七年十月四日奇襲隊の賞詞を受け卅八年二月廿三日鉢巻山攻撃戚狀を受く戰功に依り功七級金鵄勳章勳七等の叙賜あり

○陸軍歩兵曹長増田政太郎は羽ノ浦村の人卅七年四月歩兵第十二聯隊補充大隊第二中隊に屬して出征し八月東鶏冠山盤龍山北砲臺の戰鬪に參加し十月負傷し十二月後送多度津に着す卅八年五月退院十一月第五中隊に編入尋て召集解除せらる卅七八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章勳七等の叙賜あり

○同上等兵高良田朝次郎は同村の人卅七年五月歩兵第四十三聯隊第十中隊に屬して出征し小孤山戰鬪中八月九日負傷し大阪普通寺両豫備病院に療養し九月退院す卅九年一月歸休四月一日戰功に依り功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章を賜ふ

○同伍長撫養朝太郎は同村の人同聯隊第十一中隊に屬して出征し各地に轉戰す卅八年四月十七日馬祥丹附近石山攻撃の際負傷す七月傷痍の爲め兵役を免せらる戰功に依り功七級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○同上等兵新庄宇五郎は同村の人卅七年四月同聯隊第六中隊に屬して出征し六月猪圏子溝附近の戰鬪を首として各地に轉戰し卅八年九月板子廟附近の戰鬪に終る卅九年一月凱旋し尋て現役滿期す功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○陸軍歩兵軍曹三枝藤次郎は羽の浦村の人卅七年六月同聯隊第四中隊に屬して出征し三春柳王家溝の守備及び猪圏子溝の戰鬪を首として七月卅日郭家子溝附近の戰鬪に及ひて負傷内地に後送せらる卅八年五月再出征して戰務に服し十一月復員解隊となる卅九年四月一日卅七八年戰役」の功に依り功七級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○軍人功績概歷

○陸軍砲兵伍長多田庄吉は同村の人卅七年五月野戰砲兵第十一聯隊第六中隊に屬

○軍人功績履歷

して出征す六月李家屯劍山附近等の戰鬪を首として卅八年九月小白銀河附近の戰鬪に屆る卅九年一月多度津に凱旋す叙賜前に同し

○陸軍砲兵曹長森德太郎は同村の人卅七年五月同聯隊に屬して出征し九月三日病に罹りて善通寺豫備病院に後送せらる十二月退院卅八年二月再出征す柳條口附近の戰鬪より各地に轉戰して十一月頭簗子に至り宿營す尋て多度津に凱旋せり十二月召集解除せらる

○陸軍歩兵軍曹庄野要次郎は羽ノ浦村の人卅七年八月野戰補充として出征す十月五日小孤山に於て旅順本防禦線攻圍軍に參加し尋て東鷄冠山の戰鬪に參加す卅八年一月金州大孤山鳳凰城を經て北進し卅九年終に奉天に至り尋て凱旋せり一月廿五日解除四月一日功七級金鵄勳章勳七等靑色桐葉章の叙賜あり

○陸軍砲兵伍長一樂豐吉は同村の人卅七年五月野戰砲兵第十一聯隊第一中隊に屬して出征す七月大石洞附近の戰鬪より遂に各地に轉戰中十月砲兵一等卒に進み累進卅九年一月伍長に至る十一月召集解除せらる先是四月一日卅七八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同歩兵一等卒岸本卯之八は澤谷村の人卅七年五月出征し八月十日大白山の戰鬪中負傷多度津に後送せらる十一月再出征し卅九年一月多度津に凱旋す一月召集解除せらる功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり

○陸軍歩兵軍曹船奥鶴次郎は椿村の人卅七年五月同聯隊第三中隊に屬して出征し六月蔡家屯兵站監部守備となり尋て猪圈子附近劍山大白山小孤山等の戰鬪に從事し進て旅順本防禦線攻圍軍に參加す八月廿一日脚氣病に罹り獵樹溝野戰病院に入り後轉して大阪天王寺豫備病院及善通寺豫備病院に入り九月廿三日事故退院す十二月軍曹に進む當時補充大隊本部に屬せり卅九年十二月現役滿期となる

○陸軍歩兵伍長平尾榮藏は椿村の人卅七年八月同聯隊第十二中隊に屬して出征し九月小孤山守備に任し十月鷄冠山附近の戰鬪を首として望臺瀋河城牧兵臺馬群丹苔什南山城子等に轉戰し卅九年一月多度津に凱旋す尋て召集解除せらる卅七八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章勳七等の叙賜を拜す

○同上等兵小島武次郎は同村の人卅七年五月出征し七月山柳川附近の戰鬪に參加し脚氣病に罹され第三野戰病院より內地に後送せらる十二月全治退院三十八年三月再出征し三十九年一月多度津に凱旋す功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり現役滿期

○陸軍歩兵上等兵樫原房市は同村の人卅七年五月出征し六月鶏冠山雙頂山等の戦闘に従事し轉戦卅八年三月六日に至り鉢巻山に於て負傷し後送廣島病院を経て善通寺豫備病院に入院す八月負傷に依り兵役を免せらる叙賜同前

○同伊美之助出征同上卅八年一月一日旅順攻撃戦に参加し青泥窪兵站病院より善通寺豫備病院に轉送せらる卅九年一月現役満期叙賜同前

○陸軍歩兵上等兵藤野又兵衛は坂野村の人卅七年五月出征し六月鶏冠山の戦闘に参加以来轉戦して八月九日小孤山の戦闘に至り負傷入院し卅八年九月又胸膜炎に罹り入院す卅九年二月滿期す功七級金鵄勲章勲八等の叙賜を拝す先是劍山大白山及小孤山の戦闘後部隊盛狀を頒ち與へらる

○同軍曹宮士田庄太郎は同村の人亦小孤山の戦闘中右顳顬部及眺擦過創を受く卅九年三月歩兵第四十三聯隊へ編入せられ卅七日召集解除せらる叙賜同上

○同柴田利藏は同村の人卅七年十月卅日東鶏冠山に於て貫通砲創弾片貫通創を受く卅九年三月召集解除せらる功七級金鵄勲章勲七等の叙賜あり

○陸軍歩兵少尉松田一郎は橘浦村の人卅八年四月出征す七月叙正八位九月病に罹り十月治癒す卅九年一月召集解除

○同一等卒柳坂佐市は桑野村の人卅七年六月出征し八月八日小孤山に於て負傷す卅八年三月五日又敵兵塹の攻撃に参加し歩兵第四十三聯隊第二大隊傳令を勤務す卅九年四月功七級金鵄勲章勲八等白色桐葉章の叙賜あり時に現　兵たり

○陸軍歩兵一等卒浦川重平は日野谷村の人歩兵第四十三聯隊第一大隊に屬して出征し戦功に依り卅八年四月三日鴨緑江軍司令官の感狀を頒ち與へらる以下皆同し

○同二等卒湯淺六郎は福井村の人○同輜重輸卒今津朝次郎は平島村の人○同歩兵一等卒一田善次郎は前同村の人○同高見虎八は前同村の人○同伍長米澤滿吉は前同村の人○同上等兵稻田多吉は寶田村の人○同二等卒阿部文吉は今津浦村の人○同伍長星元喜太郎は羽ノ浦村の人○同一等卒八尾增太郎は前同村の人○同二等卒近藤米吉は大野村の人○同輜重輸卒元木留次郎は前同村の人○同二等卒赤穗大藏は前同村の人○同後藤恒五郎は中野島村の人○同杉山春吉は橘浦村の人○同一等卒樫原鶴吉は前同村の人○同金山峯藏は前同村の人○同島尾喜平は前同村の人○同輜重輸卒湯淺類次は前同村の人○同一等卒松田兵助は鷲敷村の人○同軍曹近藤民五郎は長生村の人○同伍長武藤嘉藏は坂野村の人○同上等兵藤代梅太郎は椿村の人等なり

○陸軍歩兵一等卒黒木實藏は福井村の人歩兵第四十三聯隊第二大隊に屬して出征す戰功に依り卅七年八月十九日第三軍司令官の感狀を頒ち與へらる以下皆同し

○同井坂佐吉は前同村の人○同特務曹長車田伊三郎は平島村の人○同藤本忠次郎は今津浦村の人○同白井岑吉は前同村の人○同庄野和平は羽ノ浦村の人○同原清太郎は延野村の人○同上等兵山本鶴吉は桑野村の人○同上等兵勞井辰彌は中野島村の人○同伍長坂本文平は前同村の人○同上等兵島尾新吉は橘浦村の人○同沖野善吉は前同村の人○同橘清吉は前同村の人○同一等卒湯淺林太郎は前同村の人○同軍曹太田周次郎は見能林村の人○同久米市郎は椿村の人○同江本伊之吉は前同村の人○同上等兵大内八百吉は鴛敷村の人○同一等卒清田政右衛門は長生村の人○同園田常太郎は坂野村の人○同宮野竹二は前同村の人○同伍長島山傳五郎は前同村の人○同一等卒青山與吉は相生村の人○同武岡諦美吉は前同村の人等なり

○同砲兵上等兵野田艮太郎は日野谷村の人○同軍曹清瀬友太郎は加茂谷村の人共に野戰砲兵第十一聯隊第二中隊第一小隊に屬して出征す戰功に依り卅八年四月三日鴨綠江軍司令官の感狀を頒ち與へらる

○海軍三等水兵兼地直平は福井村の人○同一等信號兵田中椎吉は今津浦村の人共に海軍陸戰重砲隊に屬して出征す戰功に依り卅七年十二月廿九日滿州軍總司令官及卅八年一月十日第三軍司令官の感狀を頒ち與へらる

○陸軍砲兵曹長篠原增藏は平島村の人彈藥大隊に屬して出征す戰功に依り卅八年四月三日鴨綠江軍司令官の感狀を頒ち與へらる以下皆同し○同輜重輸卒西條作太は椿村の人等なり

村の人○同輜卒西條作太は椿村の人等なり

○同輜重輸卒陸山源四郎は平島村の人○同輜重兵第十一大隊に屬して出征す戰功に依り卅八年四月三日鴨綠江軍司令官の感狀を頒ち與へらる以下皆同し○同姥原喜作は羽ノ浦村の人○同福島健太郎は中野島村の人○同播岡悅太郎は前同村の人○同森本力松は橘浦村の人○同輜重兵上等兵德野淸平は鴛敷村の人○同西谷富士太郎は前同村の人○同古西榮作は前同村の人○同淸田熊之亟は長生村の人○同林宇平は前同村の人○同山川馬藏は前同村の人○同小川彌一郎は前同村の人○同岡鹿太郎は坂野村の人○同正木榮は前同村の人○同岡崎和三郎は前同村の人等なり

○海軍三等機關兵曹天川力太郎は平島村の人假裝巡洋艦信濃丸に屬して出征す戰

功に依り廿八年六月廿日聯合艦隊司令長官の感状を賜ふ

○海軍一等兵曹泉野大次郎は橘浦村の人第五驅逐隊に屬して出征す戰功に依り廿八年一月十二日聯合艦隊司令長官の感狀を賜ふ

○陸軍歩兵特務曹長濱田賢治は立江村の人第四十三聯隊第四中隊に屬して出征す戰功に依り廿八年四月三日鴨綠江軍司令官の感狀を賜ふ

○同砲兵軍曹林鶴吉は平島村の人野戰砲兵第十一聯隊第四中隊第四砲車長に屬して出征す戰功に依り廿八年三月十五日附第十一師團長及同年四月三日附鴨綠江軍司令官の感狀を賜ふ

○同歩兵上等兵前川仲藏は日野谷村の人第四十三聯隊第七中隊に屬して出征す戰功に依り廿九年一月廿四日第四十三聯隊第七中隊長の褒詞を賜ふ

○同一等卒窪口梅太郎は平島村の人にして出征中戰功に依り廿九年一月十三日歩兵大尉三谷與吉の謝狀を須ち與へらる以下皆同し○同二等卒開野桑七は前同村の人○同伍長北條正次は富岡町の人等なり

○同上等兵車田米吉は平島村の人○同一等卒宮城大介は桑野村の人共に第四十三聯隊奇襲隊に屬して出征す三十七年十月十八日第十一師團長の賞詞を須ち與へらる

○同一等卒塚桂一は今津浦村の人第四十三聯隊第十中隊に屬して出征す戰功に依り廿八年三月十五日第十一師團長の賞詞を賜ふ

○同上等兵田邊力太は加茂谷村の人第四十三聯隊第五中隊に屬して出征す戰功に依り廿八年三月十五日第十一師團長の賞詞を賜ふ

○同騎兵上等兵黒岩和助は桑野村の人第十一聯隊第三中隊に屬して出征す戰功に依り廿八年三月十五日第十一師團長の賞詞を賜ふ

○同歩兵一等卒中山本吉は中野島村の人第四十三聯隊第五中隊に屬して出征す戰功に依り第十一師團長の賞詞を賜ふ

○同輜重輸卒古川綱五郎は寶田村の人にして出征中戰功に依り廿八年十月三十一日第六補助輸卒隊長の賞詞を賜ふ

○同歩兵上等兵西善藏は桑野村の人にして出征中戰功に依り廿八年一月廿三日留守第十一師團長の賞詞を賜ふ

○同少尉伊勢團次郎は中野島村の人第四十三聯隊に屬して出征す戰功に依り廿八年一月二日第十一師團長の賞詞を賜ふ

○陸軍歩兵一等卒竹内治郎吉は椿村の人第四十三聯隊第十一中隊に屬して出征す戰功に依り卅七年七月十日第十一師團長の賞詞を賜ふ

○同一等卒田上喜美藏は今津浦村の人にして出征中戰功に依り卅七年十二月廿四日歩兵第十二聯隊補充大隊長の賞詞を賜ふ

○同砲兵上等兵兒島熊次郎は羽ノ浦村の人野戰砲兵第十一聯隊第四中隊に屬して出征す戰功に依り卅七年十二月廿三日第十一師團長の賞詞を賜ふ

海部郡

○陸軍歩兵特務曹長山岡槇次郎は海部郡の人卅七年五月詫間灣を發して征戰の途に就く六月劍山附近の攻守戰鬪に從ひ尋て大白山山川柳小孤山の戰鬪に參加す八月曹長に進み第一回旅順要塞總攻擊に參加し十月特務曹長に進み第二回旅順總攻擊に大孤山前に參加し十一月病に罹り善通寺豫備病院に收容せられ卅八年二月病に依り退役を命せらる

○同二等軍醫奥村轍は川東村士族にして卅七年四月第十一師團野戰病院に屬して出征し十二月病に罹り善通寺豫備病院に後送せらる卅八年一月同師團野戰病院附に復し四月二等軍醫に任せらる七月再大連灣に到り野戰病院に勤務す卅九年一月復員に附召集解除せられ四月一日戰功に依り勳六等金貳百圓の叙賜あり

○同三等軍醫安岡猶太郎は高知縣安藝郡野根村の人來りて宍喰村に寄留す卅八年三月從軍し七月罹病八家子舍營病院に收容せらる八月退院尋て英額邊門附近に勤務す卅九年一月多度津に凱旋し尋て召集解除せらる戰功に依り勳六等單光旭日章金貳百圓の叙賜あり

○同砲兵中尉吉田虎藏は宍喰村の人卅七年七月第十一師團第一補助輸卒隊に屬して出征す安東縣兵站部に於て勤務に從事し九月鳳凰城に於て輕便鐵道敷設に從事す十二月後備第一師團に屬して城廠より賽馬集に背進す卅八年十月同地を發し石門子兵站部に從屬し卅九年二月多度津に凱旋し三月召集解除せらる戰功に依り勳六等單光旭日章金四百圓の叙賜あり

○同歩兵特務曹長德山虎吉は宍喰村の人卅七年十二月歩兵第二十八聯隊に屬して出征し第四中隊に屬す卅八年二月大黄旗堡の戰鬪に參加し尋て轉戰して奉天北方北陵の敵を夜襲して其地を占領す左の感狀を受く

感狀　歩兵第廿八聯隊第四中隊陸軍歩兵特務曹長　德山虎吉

明治卅八年三月十日夜敵ヲ北陵ニ襲フニ當リ小隊長ヲ以テ率先敵ノ塹壕ニ突入シ接戰格鬪連ニ敵線ヲ破リ部下ヲ督勵シテ北領占領

ノ先登ヲ爲シタリ其動作勇敢功勝顯著ナリトス

明治三十八年三月十二日

第三軍司令官陸軍大將正三位勳一等功三級男爵　乃木希典

四月北進して龍王廟の戰鬪遼陽窩棚の攻擊等に參加し卅九年三月北海道室蘭に凱旋し尋て復員下令四月一日卅七八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章勳六等單光旭日章の叙賜を拜し八月三十日休職を命せらる

○陸軍歩兵中尉久保五郎は川西村士族にして夙に山口尋常中學を卒業し尋て東京に遊學し終に陸軍士官學校に入る卅七年六月歩兵第四十四聯隊附を以て第三軍司令部所在地を守備し尋て馬賊偵察の爲め老龍半島に出張し又花紅溝附近に戰鬪す亂泥橋劍山大白山龍頭大孤山の各地の攻守戰に參加し八月廿一日東鷄冠山北砲臺に於て負傷す九月任中尉卅八年三月叙從七位

○同少尉久保清太郎は海部郡の人卅八年一月歩兵第四十三聯隊第三大隊第十一中隊に屬し第一小隊長を以て出征し馬家城子附近の戰鬪に參加せしを首とし轉戰克く戰ふ殊に其二月廿二日午後より廿四日に亘れる戰鬪は奮戰勇鬪を極はめたり廿四日の戰狀左の如し

午前十時トモ覺シキ頃總攻擊ノ命令ハ傳ヘラレ又敵ノ本陣地タル鉢卷山攻擊ノ銃砲火門ハ一齊ニ開始セラレ敵陣地ハ砲煙彈雨ヲ以デ覆ハレタリ時々刻々彼我ノ交戰益激烈ヲ加ヘ山河爲ニ震動セントス。此時大隊長陸軍歩兵少佐近藤末四郎殿ノ招キニ應シ直接ノ命令ヲ受領シタリ則チ彼我ヲ隔ツル谷ノ中央ニシテ敵ノ右側前我隊ノ左前方約三百五十米突ノ所ニ孤立セル高地ヲ占領スヘシト。此命令ノ下ルヤ否部下小隊ヲ整正シ急進ノ令ヲ下シテ之ヲ引率シ該山ヲ疾驅降下シ部下ヲ勵麾シナカラ一氣ニ被命ノ高地ニ急登シ確實ニ之ヲ占領シ得タルヲ以テ直ニ射擊ヲ續行シ應戰シタリ此地敵陣地ニ最モ近ク相距ルコト僅カニ約二百米突加フルニ敵ノ右側ヲ射擊シ得ヘキ有利好適ノ地區ニアリシヲ以テ猛烈ナル銃放火ヲ敵ノ右側ニ集注シ對戰最モ力メタリシモ敵ノ頑強ナル抵抗逆火ノ爲部下兵員ノ殆ンド三分ノ二ハ死傷スルニ至リ英氣爲ニ衰ヘントスルヲ勵聲鼓舞シテ之ヲ維持シタリシカ機熟シテ本隊ノ突擊スルニ乘シテ之ヲ加援セントシテ挺身一二歩前進セシ其瞬間敵彈飛ヒ來テ山嶺ニ仆サレ右大腿上部貫通銃創兼骨折左大腿上部盲管創ヲ受ケテ又起ツ能ハサルニ至レリ。其夕親家甸子第一野戰病院ニ收容セラレ彈丸ヲ抽出ス。

久保少尉は此負傷の爲め遂に善通寺豫備病院に後送せられ十一月三十日傷痍に因り退役す現に正八位勳八等なり

○同特務曹長田中左太郎は川西村の人卅七年五月歩兵第四十三聯隊第二炊事係軍曹として出征し屢所屬を轉して各地の戰鬪に參加し竟に北進して奉天の南方田千戸屯に至り平和克復の期に及へり卅九年一月多度津に凱旋す

○陸軍三等軍醫古川彦二は中木頭村の人卅七年二月出征す三月叙正八位卅九年二月多度津に凱旋す出征中は所屬部隊勤務の外兵站病院及其衛生委員診斷等に從事す

○陸軍歩兵特務曹長藏本智は川上村平民にして卅七年九月補充召集に應し歩兵第四十三聯隊補充大隊第四中隊に入る卅八年三月出征し十一月多度津に凱旋す十二月召集解除せらる戰功に依り勳七等青色桐葉章金弐百五拾圓の叙賜あり

○陸軍歩兵一等卒碓井新次郎は川西村の人卅八年七月出征の途に就き九月李嶂窩堡に達して罹病十月善通寺豫備病院に收容せられ十二月事故退院

○同新居芳太郎は川西村の人卅八年一月後備歩兵第五十九聯隊第九中隊に屬し出征す奉天會戰撫順守備等の諸戰に參加し五月尚家河守備を以て終りとす十一月九龜に凱旋す戰役の功に依り勳七等瑞寶章金七拾圓の叙賜あり

○同砲兵輜卒畠山〆太郎は同村の人卅八年八月野戰砲兵第十一聯隊補充大隊第一中隊に屬して出征し遂に四粂子に至り十一月門司を經て詫間灣に凱旋す尋て召集解除となる卅九年四月勳八等瑞寶章金七拾圓の叙賜あり

○同輜重輜卒北川兵太郎は同村の人卅八年二月充員召集に應し輜重兵第十一大隊補充大隊に屬して出征し遂陽に至りて病に罹り善通寺豫備病院に入院す六月退院召集解除となる勳八等瑞寶章金七拾圓の叙賜あり

○同前野銀藏は同村の人同隊第一補助輜卒隊に屬して卅七年十月出征し安東縣に

着後湯山城鳳凰城を經て貴家堡子に至る爾後轉隊屢次卅九年一月南孤山兵站部司令部より寨馬集を經て草河城に移り遂に善通寺に凱旋す卅九年四月戰役の功に依り勳八等白色桐葉章金弐百圓の叙賜あり

○同升千太郎は鞆奥村の人卅八年四月充員召集に應し六月多度津を發し八月樺太島大泊港に上陸し戰務に從ふ同月下旬病を以てヨロサコフ兵站病院に入り覺に東京豫備病院を經て善通寺豫備病院に轉入す十一月退院召集解除せらる卅九年四月金參拾五圓を賜ふ

○同一等卒龜井重太郎は同村の人卅七年四月充員召集に應し五月出征す六月盛大溝に上陸し夀て劍山附近の戰鬪に參加す卅九年四月戰役の功に依り勳八等白色桐葉章金壹百圓の叙賜を拜す

○同工兵上等兵大津市太郎は同村の人召充員召集に應し五月出征す亂泥橋東鷄冠山附近に於て防禦工事電話架設外壕破壞等に從事し十一月二十六日東鷄冠山北砲臺攻撃中負傷入院し卅八年七月再門司を發して大連より上陸し戰務に就く九月鳳溪淋巴線瞥に罹りて後瀋州屯營病院に入院し十月又戰務に就く小塔子鐵嶺門架橋材料運搬に從事す卅九年二三月の交石佛寺軍橋撤收に從事して賞狀を附與せらる

三月多度津に凱旋し尋て召集解除となる四月戰役の功に依り勳八等白色桐葉章金百圓の叙賜あり

○陸軍工兵一等卒桂增太郎は同村の人世七年八月第四十三聯隊に屬して出征し旅順攻撃戰に參與し十月十一日負傷内地に歸還す世八年一月再出征し第二中隊に屬して清河城附近の戰闘に參與し延て馬群丹撫順城渾河等戰務に從事す六月二火羅河子附近輕便鐵道布設工事に從事し八月病に罹りて入院す世九年四月一日勳八等白色桐葉章及金百五拾圓の叙賜あり

○同長江慶二は同村の人補充召集に應し世七年十一月出征し東鷄冠山に於て戰務に從事す世八年七月第四軍後備混成第十一旅團獨立工兵中隊補充員として開原附近二臺子に於て架橋工事に從事し十一月多度津に歸還す叙賜同上

○陸軍歩兵一等卒多井宇之助は同村の人世八年二月出征して大狐頭勾東蓋什英額城年魚嶺等の諸戰に參加し世九年一月多度津に凱旋す叙賜同上

○同上等兵叶岡岩次郎は同村の人世七年五月出征し六月各地の守備任務に從事し猪圈子に戰ひ七月劍山六白山海魚島郭家溝の守備又は攻撃戰に參加す八月一戸堡壘に於て頭部腹部に砲彈破片裂過創を受け青泥窪病院に入院し世八年一月普通寺に後送せらる同月十八日退院二月再出征し二火羅附近の戰闘に參加し尋て英額邊門轉灣溝大石頭勾南山城子等に轉戰して十月に及へり世九年一月多度津に凱旋す勳八等白色桐葉章及金貳百圓の叙賜あり

○同濱田芳太郎は同村の人戰歷略同上世七年八月九日小孤山に於て負傷し遂に普通寺に後送せらる世八年一月一日附第三軍司令官の部隊感狀を頒與せらる世九年四月勳八等白色桐葉章金百五拾圓の叙賜を拜す

○同一等卒貝塚達之進は鞆奥村の人世七年四月廿五日充員召集に應し五月十四日病を以て解除せらる

○同花本庄吉は同村の人召集同前世八年十一月九日解除せらる戰功に依り勳八等白色桐葉章金八拾圓の叙賜あり

○陸軍工兵上等兵土橋柳吉は鞆奥村の人召集同前七月出征して大小孤山の戰闘中其戰務に從事し東鷄冠山馬群丹營盤附近等多くは架橋作業に從事し世八年十一月大嶺附近の戰務に從ふ世九年四月一日戰功に依り功七級金鷄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同歩兵伍長森下元太郎は鞆奥村の人世七年十二月充員召集に應し世八年二月世

七日より三月十四日に至る攀天附近の會戰に參加し尋て李千屯戸の守備撫順方面第一線勤務等に從事せり卅九年四月勳八等金百五拾圓を下賜せらる

○陸軍步兵上等兵川上松藏は同村の人卅七年六月出征して頭道溝猪圈子溝劍山等の諸戰に從事し尋て小孤山攤廠一戸堡墨望臺附近等に戰ふ卅九年二月煙臺守備兵となり尋て凱旋す功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり

○同天野勉吉は同村の人卅七年六月出征し十月十日病に罹り後送せらる卅八年二月戰列補充として出征し五月廿四日石頭溝附近の戰鬪を以て最後とす卅九年四月勳八等に叙し金貳百圓を賜ふ

○陸軍騎兵一等卒平井兵吉は鞆奥村の人卅八年八月出征し十一月關東總督隷下に屬す卅九年四月一日金五拾圓を賜ふ

○同砲兵一等卒久松儀之亟は鞆奥村の人卅八年五月出征して英額城小白河銀等の各地に戰ふ卅九年四月勳八等金八拾圓の叙賜あり

○同步兵上等兵小島祖父吉は同村の人卅八年六月出征す八月九日小孤山の戰鬪を終へて翌十日腳氣病に罹り終に內地に歸還す勳八等金百五拾圓の叙賜あり

○同一等卒出見德太郎は同村の人卅七年六月出征して各地に戰ひ七月劍山戰鬪後八月十二日腳氣病に罹り後送せらる勳八等金百五拾圓の叙賜あり

○陸軍砲兵一等卒濱茂利二は同村の人卅七年六月現役を以て出征し劍山附近の戰鬪に始まり卅八年九月六日四廂子北方高地附近の追擊戰に終る叙賜同前

○同步兵一等卒安田彌逸は同村の人卅七年九月大小孤山攻圍守備勤務より十二月十八日旅順北砲臺攻擊戰に參加し卅八年一月一日腳氣症に罹り旅順開城の快事を後にして內地に後送せらる勳八等金百圓の叙賜を拜す

○同輜重輸卒小濱龜藏は鞆奥村の人卅八年二月出征して柳樹屯に上陸し大石橋附近の戰鬪に參與す爾後數回の戰鬪或は滯在に日子を消して十一月多度津に凱旋し尋て解隊となる勳八等白色桐葉章金百五拾圓の叙賜あり

○同相川彌吉は同村の人卅七年六月出征して各地の守備馬匹の交換に從事す卅九年三月多度津に凱旋し尋て召集を解除せらる戰功に依り金五拾圓を賜ふ

○同島田重一郎は同村の人卅七年十月第一補助輸卒隊に補充の爲め戰地に向ふ爾後各地の戰務に從事して卅九年二月多度津に凱旋し解隊せらる卅七八年戰役の功に依り勳八等白色桐葉章及金貳百圓の叙賜あり

○陸軍步兵一等卒濱米太郎は鞆奥村の人卅七年六月鷄冠山雙頂山等に戰ひ尋て劍

山小孤山等の激戰を經て廿八年一月下旬山川柳附近の戰闘中足部負傷に依り歸還す後再出征し七月廿一日曲柳附近八月三日大石頭勾附近の戰闘に參加し了はんぬ功に依勳八等金弐百圓を下賜せらる

○陸軍歩兵一等卒築地政太郎は同村の人廿八年四月出征し十一月凱旋す其戰地に在るや多く守備の任務に從事す廿九年四月勳八等金七拾圓の叙賜あり

○同藤田太次郎は同村の人出征同前廿八年五月英額城附近の戰闘に參加し六月南山城子の戰闘に終はる勳八等金八拾圓の叙賜あり

○同上等兵初崎仁太郎は鞆奥村の人廿七年六月出征し頭道溝黄泥川劍山大白山小孤山等各地の戰闘に參加し八月十一日脚氣症に罹り內地に歸還し五月再出征し又戰闘に參加す廿九年四月勳八等に叙し金弐百圓を賜ふ

○陸軍三等看護長石見榮二郎は同村の人出征同前所經戰地亦略同前廿九年四月一日廿七八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり

○同歩兵上等兵長田安五郎は同村の人廿八年二月松山衛戍及俘虜警衛勤務に服す廿九年四月一日金五拾圓を下賜せらる

○同輜重輸卒里房吉は同村の人廿八年五月出征し十一月歸還す廿九年四月一日勳八等及金七拾圓を下賜せらる

○同歩兵一等卒初崎松太郎は同村の人廿八年四月出征し十月凱旋す金五拾圓下賜

○同谷水藤吉は同村の人廿七年八月八日負傷し第一國民兵に編入せらる戰役の功に依り勳八等金百五拾圓を下賜せらる

○陸軍輜重輸卒谷口友次郎は鞆奥村の人廿七年七月第十一師團第八補充輸卒隊に屬して出征し十一月依病歸還す十二月召集解除となり後金參拾五圓を賜ふ

○同歩兵一等卒天野政吉は鞆奥村の人廿七年八月出征し鞍山站首山堡楊城寨長嶺子附近の戰闘に參加し戰功に依り勳八等金百五拾圓を下賜せらる

○同渡り恒治は同村の人廿七年六月出征し小孤山の戰闘を終へ翌八月十日より同地守備中脚氣病に罹り內地に後送せらる廿八年四月再出征し遂に大石橋を守備す廿九年二月煙臺守備に轉す四月勳八等白色桐葉章金弐百圓の叙賜あり

○陸軍輜重兵二等卒島萬次郎は廿八年四月應召し十一月十三日開石附近の戰闘に參加し同月廿日鐵嶺附近に於て又戰闘に參加す後ち金五拾圓を賜ふ

○同歩兵一等卒赤松源太郎は日和佐村の人(以下同村に付省略す)廿七年九月出征し清泥窪に上陸し進て一戸堡墨附近の戰闘に參加し連戰廿八年三月三日に至り三龍

略に於て戰闘中負傷して第一野戰病院に入り五月十五日傷痍の爲め兵役を免除せられ七月歸鄉す勳八等白色桐葉章金貳百圓の叙賜あり

○陸軍工兵上等兵外磯和吉は卅七年六月出征し遼東張家屯に上陸し金州を經て南關嶺附近の戰闘に參加し病を獲て召集解除せらる卅八年四月再召集下命六月又出征し渾河架橋及ひ十月蓋花屯附近の架橋等に從事す卅九年一月多度津に凱旋す尋て召集解除せられ後勳七等青色桐葉章金八拾圓の叙賜あり

○陸軍歩兵一等卒濱口增吉は卅七年八月柳樹屯に上陸して直に鞍山站の戰闘に參加し連戰終に卅八年三月一日奉天の會戰に參加し同九日負傷廣島豫備病院に後送せらるる退院後第二中隊に編入せられしも十二月兵役を免除せらる卅九年四月一日功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同丸龍龍太郎は卅七年六月出征して劍山附近の戰闘に參加し大白山小孤山等の激戰を經て十二月十二日玉家屯西方高地の戰闘中病に罹り普通寺に還送せられ尋て歸鄉療養を許さる卅八年八月再出征し大石頭勾守備の任務に服す卅九年一月凱旋し四月一日勳八等白色桐葉章金貳百圓の叙賜あり

○同吉泉仙太郎は卅七年三月出征し十一月召集解除せらる勳八等瑞寶章金七拾圓の叙賜を拜す

○陸軍歩兵一等卒木村富太郎は卅七年九月後備歩兵第四十三聯隊に屬して出征し卅九年一月多度津に凱旋す征戰中第一線に勤務する二戰場戰功に依り勳八等白色桐葉章金壹百圓の叙賜あり

○同馬場岩吉戰歷同上卅九年一月召集解除勳章同上金八拾圓を賜ふ

○同中村文太郎は卅七年十一月出征し東鷄冠山攻撃竝盖占領戰に參加し尋て馬群丹狐頭溝大石頭溝等に轉戰し卅九年一月多度津に凱旋す同月卅日勳八等白色桐葉章金貳百圓を下賜せらる

○同濱崎馬太郎は卅七年十二月臨時召集に應し卅八年三月出征し十一月凱旋す戰功に依り勳八等瑞寶章金七拾圓の叙賜あり

○同上等兵湊牛太郎は卅七年八月出征し柳樹屯に上陸し尋て毛祁屯に舍營す鞍山站首山堡遼陽曹官寺長嶺子黄花甸等の各地に連戰して第一線二線の勤務に服し奉天附近の會戰に參加し卅八年十一月多度津に凱旋す尋て召集を解除せらる卅九年四月一日勳七等青色桐葉章金貳百圓の叙賜を拜す

○同二等卒平松治郎吉は卅七年八月大連灣に上陸して戰役に從ふこと同前召集解

除同前戰功に依り勳八等白色桐葉章及金百五拾圓の叙賜あり

○陸軍歩兵一等卒小野兵太郎は卅八年三月出征し十一月凱旋す勳八等瑞寶章金八拾圓を賜ふ

○同米田音藏戰歷叙賜同上

○同木村鶴吉は出征時期召集解除期叙賜等略同前

○同藤中新七は卅七年九月出征して營口に上陸し十月十二日より十五日に亘る三塊石山附近の戰鬪を首とし卅八年三月上旬奉天附近の會戰に至るまで各地に轉戰す卅九年一月召集解除せらる四月功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○陸軍歩兵上等兵大野嘉平は卅七年六月出征して直に戰務に服し八月九日に至り小孤山に於て負傷し八月內地に後送せらる卅八年三月又戰役に服し奉天の會戰に參加し同月三日又負傷す內地に還送せらる六月又出征し磨盤山西南高地に於て戰鬪し又大石頭勾及吳水站に轉戰す卅九年一月滿期解隊四月一日卅七八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり三度出征し二度負傷し終に凱旋せしもの大野上等兵の如きは本史中類例多しとせざるなり

○同一等卒大石角藏は卅七年十二月臨時召集に應召し卅八年十一月解隊戰功に依り勳八等瑞寶章金八拾圓を下賜せらる

○同中村芳太は卅七年六月出征し黃泥川大上屯附近の戰鬪を首とし八月小孤山附近の戰鬪に參加し負傷の爲め卅八年六月に至り兵役を免除せらる戰功に依り勳八等白色桐葉章金貳百圓の叙賜あり

○同上等兵新居清吉は出征前同時期にして小孤山の激戰を經て轉戰東鷄冠山北砲臺の戰鬪に參加し卅七年十月十八日附土屋第十一師團長の賞詞を頒與せらる延て卅八年三月一日馬群丹東北谷地に於て頭部貫通銃創を受け一度入院せしも四月十二日再び郎頭溝附近の戰鬪に參加し轉戰六月大石頭勾の戰鬪に參加せり卅九年一月召集解除せらる功七級金鵄勳章勳八等に叙せらる

○同片種吉は戰歷略同上にして勳八等白色桐葉章金百五拾圓の叙賜あり

○同山口榮太郎も亦同上にして卅八年十一月解隊勳章同上金貳百圓を賜ふ

○同山口利吉は卅八年五月大石頭溝の戰鬪英額城の守備小白銀河年魚嶺の偵察等に從事し尋て各地に轉戰し八月廿四日脚氣病に罹り白河子第四野戰病院に入り遂に內地に後送せられ十一月召集解除せらる勳章同上金百圓を賜ふ

○同一等卒東海惣太郎は卅七年八月出征し鞍山站首山堡遼陽奉天等の諸戰に參加

し卅八年十一月解隊となる功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり
○陸軍歩兵一等卒蛇目芳太郎は卅七年九月應召し十二月廿八日二龍山攻撃戦に參加し卅八年ラマンヂヤン山附近の戦闘より九月板子廟附近の戦闘に至るまで各地に轉戦せり卅九年一月解隊となり四月一日功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり
○同寺島治五郎は卅七年十二月應召し卅八年四月出征して英額邊門小白銀河大石頭勾麿盤山南山城子等の戦務に從事し八月病に罹り入院し遂に内地に後送せられ十一月召集解除せらる後勳八等白色桐葉章金百五拾圓の叙賜あり
○同大橋富次郎は戦歴同上にして終始戦務に從事す勳章同上金百圓を賜ふ
○同濵波金藏は卅七年十一月旅順包圍軍に參加し轉戦鉢卷山占領戦の際胸部貫通銃創を受け入院す後内地に還送せられ卅八年十一月召集解除となる卅九年四月一日勳八等に叙し白色桐葉章金百五拾圓を下賜せらる
○同武田龍太郎は卅七年六月出征し頭道溝猪圈子溝等に戦ひ大白山附近戦闘の際脛部貫通銃創の爲め青泥窪兵站病院に入院し遂に内地に還送せられ召集解除となる勳八等白色桐葉章金弐百圓の叙賜あり
○同濵田庄太郎は卅八年四月出征し蒼什二火羅間英額邊門板子庶等の戦闘に參加し卅九年一月凱旋し解隊となる勳章同上金八拾圓を賜ふ
○同入江政藏は卅七年八月出征し鞍山站首山堡等の戦闘に參加し八月卅一日負傷第三野戦病院に收容せらる治癒の後十月中旬三塊石山附近楊城塞西溝等の各戦闘に參加し卅八年十一月歸還解隊となる卅九年四月一日勳七等に叙し青色桐葉章及金八拾圓を下賜せらる
○同山戸淺吉は卅八年四月出征し蒼什英額邊門大石頭勾等の戦闘に參加し卅九年一月に至りて凱旋し尋て召集解除せらる勳八等白色桐葉章金百圓の叙賜あり
○同輜重輸卒松内瀧次郎は卅七年六月出征して旅順攻圍軍に從ひ戦務に從事す卅八年二月一日進軍中痢子窩に於て病に罹り遂に内地に後送せらる卅九年四月一日勳八等白色桐葉章金百圓の叙賜あり
○同榮爲三郎は卅七年八月出征し鞍山站首山堡遼陽奉天等の各戦役に從事し卅八年十二月凱旋し尋て解隊となる勳八等旭日章金弐百圓の叙賜あり
○同富永勝藏は卅七年五月出征し卅九年四月凱旋す勳八等瑞寶章金八拾圓を賜ふ
○同桝田熊三郎は卅七年十一月戦地に於て一等症に罹り青泥窪兵站病院に入り遂に召集解除せらる卅九年四月一日金參拾五圓を下賜せらる

○陸軍輜重輸卒賀木喜太郎は卅八年十月從軍し卅九年二月凱旋尋て召集解除となる賜金同上

○同藤中虎太郎は卅七年九月出征し卅九年四月凱旋す戰役の功に依り勳八等白色桐葉章金百圓を下賜せらる

○同清水力藏は卅七年五月出征し旅順攻圍軍に屬して各地の戰役に服す卅八年一月病に罹り內地に後送せらる卅九年四月勳八等旭日章金百五拾圓を下賜せらる

○同勝瀨秀彌は卅七年十月戰地に於て病に罹り內地に還送せられ十二月八日卅七年陸達第一二七號第四條末項に依り召集を解除せられ金參拾五圓を賜ふ

○陸軍步兵軍曹湊幸次郎は卅七年六月出征し旅順攻圍軍に屬して健鬪し白銀山北砲臺に於て鐵條網を破壞す卅九年一月凱旋し尋て現役滿期す勳七等に叙し靑色桐葉章及金貳百五　圓を賜ふ

○同一等卒名美直吉は卅七年八月出征して鞍山站の戰鬪を首とし各地に轉戰し卅八年三月奉天の會戰に參加せし後六月廿一日に至り病に罹り第六師團第三野戰病院に入り內地に後送せられ尋て召集解除となる勳八等白色桐葉章及金百五拾圓の叙賜あり

○同篠原龜太郎は同時出征し十月二日三塊石山の戰鬪中負傷し第二野戰病院を經て內地に還送せらる卅九年二月召集解除となり四月一日卅七八年戰役の功に依り勳七等靑色桐葉章金百圓の叙賜あり

○同大黑嘉次郎は卅七年六月出征し三椿柳石家溝等の戰鬪に參加し各地に轉戰して七月四日劍山戰鬪の際負傷す內地に還送せられ終に歸鄉を命せらる戰役の功に依り勳八等白色桐葉章及金貳百圓の叙賜あり

○同二等卒外磯八太郎は卅八年三月應召し十月病に依り召集を解除せらる卅九年四月一日金參拾五圓を下賜せらる

○陸軍工兵一等卒沼島小市郎は卅七年八月以降臺灣守備隊に屬して勤務に服し卅九年一月現役滿期す卅九年四月一日金五拾圓を下賜せらる

○同旭岩次郎同上にて同上の叙賜を拜受す

○陸軍砲兵二等卒四宮豐太郎は卅八年二月出征し柳條口附近の戰鬪に參加せし以來各地に轉戰し五月一日四方堡に於て駐軍中病に罹りて奉天兵站病院に入院し十月召集を解除せらる卅九年四月一日瑞寶章並に金八拾圓を賜ふ

○陸軍步兵上等兵山本鶴吉は卅七年六月出征し黃泥川大上屯附近の戰鬪に參加し

八月九日小孤山に於て下顎刺創の爲め青泥窪兵站病院に入院し八月內地に後送せらる卅八年七月再出征して第三軍に屬し戰務に服す三月凱旋し尋て解隊となる勳八等に叙し旭日章及金貳百圓の叙賜あり

○陸軍歩兵一等卒和佐金太郎は卅八年二月應召し卅九年三月病に罹りて內地に後送せられ解隊となる四月一日瑞寶章を賜ふ

○陸軍砲兵一等卒和佐幸太郎は卅七年五月出征して七月大石洞附近及大孤山附近の戰鬪に參加し旅順攻圍軍に屬すること半歲尋て海河城馬群丹等の戰鬪に參加し三月二日負傷入院す十一月內地に歸還し尋て解隊となる勳八等旭日章金貳百圓を賜ふ

○陸軍歩兵一等卒羽山半平は卅七年九月應召し卅八年八月戰役に從事し卅九年一月凱旋の後召集解除せらる勳八等瑞寶章金七拾圓を下賜せらる

○同西九幸吉は卅八年三月奉天附近の戰鬪馬群丹の攻撃等を首として各地に轉戰し十一月凱凱解散す卅九年四月勳八等旭日章金貳百圓の叙賜あり

○陸軍砲兵一等卒中村岩吉は卅七年七月出征し旅順攻圍軍に屬して各地の戰鬪に參加す卅八年八月年魚嶺の戰鬪に際し熱病に罹り八家子金營病院に入院す十二月內地に歸還し卅九年一月滿期解散叙勳同上及金百五拾圓を賜ふ

○同橋本德太郎は卅七年六月出征し戰歷同上卅八年九月熱病に罹り永陵兵站病院に入る十二月召集を解除せらる卅九年四月一日叙賜同上

○陸軍歩兵一等卒森米吉は卅七年六月出征し猪圈子劍山大白山等の諸戰に參加し九月一日脚氣病に罹り青泥窪兵站病院より遂に內地に後送せらる卅九年三月召集解除となり四月一日勳八等旭日章及金貳百圓の叙賜あり

○同上等兵平岡尉太郎は川東村の人(以下同村に付き省略す)卅七年五月出征して直に戰役に服し八月廿四日一戶堡墨守備中左眼に銃創を受け野戰病院に入り遂に內地に後送せらる卅八年二月退院して又第四十三聯隊第二中隊に編入せられしも九月十日に至り傷痍の爲め兵役を免除せらる戰功に依り功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同野戰砲兵一等卒木本市太郎は卅七年八月出征し九月一日より卅八年一月一卅日まで旅順包圍軍に參加し尋て鴨綠江軍に編入せらる卅九年二月善通寺に凱旋し召集解除となる十月廿五日勳八等瑞寶章金八拾圓の叙賜あり

○陸軍輜重輸卒奥原伊勢藏は卅七年九月出征し遼陽方面に在りて戰務に服し卅八

年一月十七日脚氣病に罹り同地兵站病院に收容せられ後ち內地に歸還す傷痍の爲め召集解除せらる卅九年十一月勳八等瑞寶章金八拾圓を賜ふ

○陸軍工兵一等卒鶴和辰太郎は工兵第十一大隊補充隊に屬して卅八年四月出征の途に上れが五月より七月に至るの間英領城附近の戰務に從事し尊て平和克復に及へり卅九年一月善通寺に凱旋す四月一日勳八等瑞寶章並金七拾圓を賜ふ

○陸軍砲兵一等卒濱川熊太郎は卅七年五月出征し旅順要塞攻圍戰より卅八年九月奉天府附近の戰圍に至るまで終始戰場に在り卅九年一月現役滿期す勳八等白色桐葉章並に金貳百圓を下賜せらる

○野戰砲兵輜卒大濱近藏は所經戰地署同上にして卅八年五月九日大石頭溝附近の戰鬪中腸胃加答兒病に罹り善通寺豫備病院に後送せらる十月三日退院尊て召集解除となる卅九年十月廿四日勳八等白色桐葉章並金百圓の叙賜あり

○同上等兵大石宇次郎は卅七年六月出征し張家屯三官廟に上陸し八月九日太白山北麓無名村に前進し滯陣中病を獲て野戰病院に入り內地に後送せられ尊て爲めに召集解除となり卅九年十月廿四日勳八等瑞寶章金七拾圓を賜ふ

○陸軍步兵一等卒川綠金藏は卅八年二月出征して柳樹屯に上陸し病に依り金州兵站病院に入る九月召集を解除せらる卅九年十月廿五日金參拾五圓を賜ふ

○同二等卒吉宇役藏は同時出征して大孤山鳳凰城賽馬集等を經て馬群丹の攻擊戰に參加し病に罹り撫順兵站病院に入る五月內地に後送せられ十月召集解除せらる卅九年五月廿五日勳八等瑞寶章金八拾圓の叙賜を拜受す

○陸軍步兵軍曹北川祖賀藏は出征時期同前三月馬群丹撫順營盤等の諸戰を經て病に罹り第十一師團野戰病院に入り善通寺豫備病院に後送せらる七月召集解除十月廿五日勳七等青色桐葉章並金百八拾圓を賜ふ

○同上兵吉田安太郎は卅八年八月出征して戰務に服し十一月多度津に凱旋す卅九年四月一日勳八等瑞寶章並金八拾圓を下賜せらる

○陸軍砲兵軍曹栗林喜三郎は卅七年十一月應召し卅八年十月召集を解除せらる其他の事歷詳かならす

○陸軍步兵一等卒田中喜之藏は步兵第四十三聯隊第六中隊に屬して出征し旅順攻圍軍に參加し連戰望臺附近に至り戰鬪中負傷す遂に後送せられたるは卅八年一月なり三月補充員を以て再出征し同年十一月多度津に凱旋す卅九年十一月現役歸休四月一日功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○陸軍歩兵軍曹新田清吉は牟岐村の人卅七年八月出征して鞍山站首山堡遼陽爾餘の戰鬪に參加し卅八年一月南長嶺山勝山附近の戰鬪に際し第一線勤務に服す三月十二日奉天戰鬪の參加を最終とす戰功に依り功七級金鵄勳章勳七等の叙賜あり

○同伍長代田長太郎は卅七年六月十三日始て頭道溝附近の戰鬪に參加し轉戰七月廿七日大白山の戰鬪中負傷內地に後送せらる功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり

○同一等卒平岡市太郎は戰歷同上にして八月八日小孤山に於て負傷し內地に後送せられ卅八年七月廿六日附負傷兵役を免除せらる卅九年四月一日叙賜同上

○陸軍砲兵上等兵島村兵太郎は同上にして卅七年八月廿一日第一回旅順攻擊中負傷內地に後送せらる卅八年一月再出征して清河城馬群丹撫順等の各戰鬪に參加して凱旋せり叙賜同上

○陸軍歩兵上等兵橋本市太郎戰歷同上卅八年三月三日鉢卷山に於て負傷叙賜同上

○同一等卒楠本長太郎出征同時期卅八年七月劔山に於て負傷後再出征す叙賜同上

○同桝田平太郎は卅七年十二月出征し東鷄冠山及北砲臺に戰ひ尋て卅八年一月望臺占領戰に參加す三月馬群丹の戰鬪より十月大石頭溝の守備に至るの間常に戰務に服せり卅九年四月一日卅七八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり

○同岡田重吉は卅七年八月出征し十一月より翌卅八年一月一日まて堡壘を守備し即日望臺に戰ひ尋て哈叭清河城救兵臺馬群丹撫順蒼什二大羅英額邊門板子店沙河等の諸戰に參加して卅八年十月十四日に及へり叙賜同上

○同上等兵堀貞吉は卅七年八月出征し遼陽長嶺子及南長嶺子孤家子千家窪子前貢花何奉天附近の諸戰に參加して凱旋せり叙賜同上

○同上田豐太郎は出征略同時期にして太白山夜戰の際負傷內地に後送せらる卅八年二月再出征して又年魚嶺小白銀河南山城子大石頭勾附近の戰鬪に參加し遂に同地守備兵となる凱旋の後功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり

○同丸田清吉は卅七年六月出征し七月劍山大白山及小劍山の戰鬪に參加し尋て小孤山旅順本防禦線第二回總攻擊等に參加し卅八年一月二日又同塞を攻擊し開城の後傳家樓子鉢卷山馬群丹撫順東蒼什小白銀河大石頭勾等に轉戰し九月病に罹りて內地に後送せらる卅七八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり

○同軍曹大前文藏は戰歷同上に依り功七級金鵄勳章勳七等の叙賜あり

○同上等兵古戸藤太は卅七年八月十一日より大小孤山の守備及盤廠南方高地攻擊

軍の奇襲隊となり又第三回旅順攻撃戦に參加し閧へて廿八年一月望臺占領戰二月清河城進撃軍に參加し負傷入院す四月二日復隊し尊て猿頭勾英額遊門附近大石頭勾磨盤山南山城子附近の戰鬪偵察等に從事し遂に大石頭勾の守備を以て終る叙賜同上

○陸軍歩兵上等兵大竹庄吉は廿七年六月出征して歪頭山の偵察鋭山附近の戰鬪及北進終に前者と戰歷畧同し廿九年四月一日功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり

○同出島鹿吉は出征時期同前にして廿七年七月下旬太白山附近戰鬪の際負傷內地に後送せられ十二月再出征し廿八年二月下旬清河城附近にて追撃の際又負傷內地に後送せらる八月三たび出征し十月海城附近の守備に服す叙賜同前

○同山村國藏は廿七年六月頭道溝附近の戰鬪を首として猪圈子劍山太白山小孤山等に轉戰し廿八年南長嶺山孤家子千金子前黃花甸拳天等の諸戰に參加し屢第一二線勤務に服す叙賜同前

○同軍曹長田幾郎は廿七年九月旅順攻圍軍に參加し小孤山東鷄冠山望臺北麓二龍山松樹山一戶堡壘等の戰鬪及助攻に從事し廿八年二月哈叭嶺附近清河城ファンヤ

ン嶺救兵臺北蒼什英額城南山城子板子庙附近の各地に轉戰す廿九年四月一日廿七八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章勳七等の叙賜あり

○同上等兵松阪豐吉は戰歷畧同上功七級金鵄勳章勳七等の叙賜あり

○同大豐重太郎戰歷略同上叙賜亦同上

○同伍長岡崎照太郎は前半の戰歷略同上にして廿八年一月一日望臺占領戰に參與し負傷內地に後送せらる七月傷痍の爲め兵役を免除せらる廿九年四月一日廿七八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章勳七等の叙賜あり

○同軍曹小松省吾は廿七年六月二十六日猪圈子溝附近の戰鬪中負傷の爲め內地に後送せられ遂に兵役免除となる戰役の功に依り勳七等金參百圓を賜ふ

○陸軍工兵一等卒古江金藏は廿七年五月出征し張家屯防禦工事に從事せしを首として亂泥橋劍山老座山大白山大小孤山旅順要塞攻撃作業等の任務に服し十月廿三日負傷內地に後送せらる廿八年二月再出征し撫順附近二火羅蒼什附近の各架橋作業或は二火羅入家子間輕便鐵道敷設工事等に從事す功に依り廿九年四月一日功六級勳八等並金貳百圓の叙賜あり

○同歩兵二等卒碁石房太郎は廿七年九月應召し翌年二月廿三四兩日清河城に於て

○軍人功績履歷

突撃の際負傷して内地に還送せられ四月三日附の部隊賊状を受く七月傷痍のため兵役を免除せらる戦功に依り勲八等金百圓の叙賜あり

○陸軍歩兵特務曹長山岡槇次郎は廿七八年の戦役に参加し旅順要塞攻撃に従事す廿九年四月一日功に依り勲七等白色桐葉章金参百圓を賜ふ

○同上等兵牧原虎太郎は廿七年五月出征し六月より剣山小孤山等に戦ふて八月八日負傷し後送後兵役を免除せらる廿九年四月一日叙勲同上金弐百圓を賜ふ

○同大星石蔵は出征同期にして廿七年九月病に罹りて後送せられ十月退院即日兵役を免除せらる叙勲同上金百五拾圓を賜ふ

○同等一卒棚田利吉は前同上にして叙賜亦同上

○同二等卒清原庄太郎は廿七年十一月出征し廿八年一月旅順要塞攻撃に参加し尋て鴨綠江軍に参加し二月廿四日鉢巻山に於て負傷す終に善通寺に後送せられ十二月退院同時に兵役を免除せらる勲八等白色桐葉章金百圓の叙賜あり

○陸軍砲兵軍曹上田銀蔵は廿七年八月第十一旅團第八補助輸卒隊に屬して出征し九月四日青泥窪に上陸して揚陸搭載勤務に服す廿九年四月凱旋す戦役の功に依り勲七等青色桐葉章並金弐百五拾圓の叙賜あり

○同市川清治郎は廿七年五月出征して剣山旅順要塞攻撃戦に参加し十一月廿七日負傷内地に後送せらる廿八年一月退院廿九年一月召集解隊せらる廿七八年戦役の功に依り勲七等青色桐葉章並金参百圓の叙賜あり

○同濱西助太郎は廿七年十月出征し旅順攻圍軍に屬し尋て鴨綠江軍に参加す終に廿八年八月廿四日盾子北方高地追撃戦に至りて止む廿九年一月凱旋し四月一日功七級金鵄勲章勲七等青色桐葉章の叙賜あり

○陸軍歩兵一等卒永井里吉は廿七年七月後備歩兵第四十三聯隊に屬して出征し直に戦務に服せしが九月十二日沙河附近及摺鉢山戦闘の際負傷内地に後送せらる廿八年一月再出征し三月營盤附近の戦闘に終る十一月凱旋し尋て召集解除せらる功七級金鵄勲章勲八等白色桐葉章の叙賜あり

○同歩兵一等卒杉谷榮吉は廿七年五月出征し六月頭道溝猪圈子溝等に戦ひ尋て七月黄泥川大上屯太白山廓家溝等に轉戦し八月十一日病を以て善通寺豫備病院に入り十一月十五日退院す十二月再出征し清河城ファンヤン嶺救兵臺英額城孤山子等の戦闘を經て英額邊門東方守備戦に参加す廿九年一月廿四日凱旋し廿六日召集解除せらる四月一日功七級金鵄勲章勲八等白色桐葉章の叙賜あり

○軍人功績履歷

○陸軍歩兵一等卒清水兼太郎は出征時期同上卅八年一月一日決死隊に入り望臺の激戦に參加し負傷して善通寺豫備病院に後送せらる此月三日第十一師團長の賞詞を受く二月再出征し三月梨花浦に上陸し病を獲て又内地に後送せらる八月全治出征す大連に上陸し北進して英額城に至る卅九年一月凱旋し四月一日同上の叙賜あり

○陸軍砲兵一等卒兼市彌三郎は前同期出征戰歴略は同し叙賜亦同上

○同歩兵上等兵船附定吉は同上にして太白山戰鬪後八月六日病に罹り内地に後送せらる卅八年八月再出征し十月一日又罹病後送せらる卅九年二月十四日退院即日召集解除せらる四月一日戰役の功に依り勳八等白色桐葉章並金百五拾圓の叙賜あり

○陸軍砲兵一等卒〆垣兵吉は卅七年九月出征して旅順攻圍軍に參加し十月病を以て後送せらる卅八年五月再出征し安東縣に上陸して各地に戰ひ卅九年一月一日凱旋す四月一日勳八等に叙し白色桐葉章並金八拾圓を下賜せらる

○同歩兵一等卒東山藤平は卅七年十一月廿三日出征し旅順の攻撃に參加し尋て卅八年一月廿五日鴨綠江軍に加はり水洞子厚家樓子鉢卷山撫順二火羅英額城大石頭句南山城子曲柳川の各所に轉戰し卅九年一月凱旋す叙勳同上金百圓を賜ふ

○同磯野伴治は九月出征し卅八年一月五日病を以て後送せらる叙勳同上金百圓を賜ふ

○同新田力藏は卅七年五月出征して旅順攻圍軍に加はり八月八日小孤山の戰鬪に於て負傷の爲め内地に後送せらる十二月退院再征戰に從ひ十二月哈叭嶺清河城老國嶺子二火羅山英額城孤家子の各處に轉戰す卅九年一月凱旋し四月一日卅七八年戰役の功に依り勳八等白色桐葉章並金弐百圓の叙賜を拜す

○同平杉米藏は卅七年六月出征して鴨綠江軍柳樹屯に上陸し奉天戰に參加し平和克復に至る十二月内地に凱旋せり先是明治廿七八年の戰役に從事し戰功に依り勳八等瑞寶章金卅圓の叙賜を拜受し今回復又卅七八年戰役の功に依りて勳七等青色桐葉章金百圓を賜ふ

○同春川初太郎は卅八年三月出征して戰務に服し十一月凱旋す卅九年四月一日戰功に依り勳八等瑞寶章金八拾圓の叙賜あり

○同東田岩三郎は卅八年八月出征し十一月十二日病を以て善通寺豫備病院に後送せられ卅九年一月召集解除四月一日勳八等瑞寶章金七拾圓の叙賜あり

○同西出儀太郎は卅八年二月出征し四月猿頭勾英額邊門小白銀河大石頭勾南山城子等に轉戰す卅九年一月凱旋し勳八等白色桐葉章金百圓の叙賜を拜す

○陸軍歩兵一等卒春石壽太郎は卅七年八月廿六日鞍山站の戰鬪を首とし延て首山堡の戰鬪に參加中九月一日負傷入院卅八年三月奉天の會戰に參加す十二月凱旋叙賜前同上

○陸軍工兵一等卒高倉安太郎は卅七年九月出征し十月三十日旅順要塞北山面攻撃對壘作業に從事す三十日吉永砲台攻撃戰の際負傷して善通寺に後送せらる卅八年五月退院再出征す又戰務に從事し四月廿九日渾河架橋作業に終る尋て卅九年一月病に依り後送せらる二月退院尋て內地に後送せらる仝治退院の後召集解除四月一日勳八等白色桐葉章金八拾圓の叙賜あり

○陸軍砲兵一等卒佐古喜太郎は廿七八年の役既に戰功を奏して金貳拾五圓を下賜せられ卅七年五月張家屯に上陸し七月雙頭山八月山川柳附近に戰ひ廿二日病に罹りて內地に後送せらる卅八年七月又出征して戰務に服し卅九年二月凱旋し召集を解除せらる勳八等白色桐葉章金百五拾圓の叙賜あり

○陸軍歩兵一等卒山本市治郎は卅八年二月韓國鎭南浦に上陸し北進して猩頭勾英額城孤家子大石頭溝を經て曲柳川の戰鬪に參加し卅九年一月病を以て內地に後送せらる同月三日退院卽日召集解除せらる叙賜同上金八拾圓を下賜せらる

○同住田友吉卅七年八月二日靑泥窪に上陸し北進戰務に從ふ卅九年一月凱旋し尋て召集を解除せらる四月一日戰功に依り金五拾圓を下賜せらる

○陸軍歩兵上等兵小川牛太郎は卅七年八月出征し營口に上陸して十月三塊石山に戰ひ遂に楊城塞西溝等に轉戰し奉天附近の會戰に參加す卅九年三月凱旋して召集解除せられ四月一日勳八等白色桐葉章並金貳百圓を下賜せらる

○同小林貞吉は歩兵第四十三聯隊に屬して出征し卅七年五月廿九日王家屯に上陸し六月廿六日以降黃泥川大上屯劍山老座山小孤山等に轉戰して遂に其年を終る卅八年二月滸河城の戰鬪を首として馬群丹年魚嶺大石頭勾六官巷臭水甸子等の戰鬪を以て終る卅九年四月一日勳八等白色桐葉章並金貳百圓の叙賜あり

○陸軍歩兵一等卒勝浦熊吉戰歷上半同上卅七年七月廿七日太白山の戰鬪中負傷內地に後送せられ日ならすして治癒し再出征して撫順方面を守備す卅九年四月一日叙勳同上並年百五拾圓を下賜せらる

○同登由太郎戰歷同上但負傷のことなく凱旋す叙賜亦同上

○陸軍歩兵上等兵山西鐵太郎は卅七年十二月一日現役兵を以て應召し歩兵第四十三聯隊に屬して內地に勤務す卅九年四月一日戰役の功に依り金參拾五圓を賜ふ

○陸軍歩兵上等兵岡本小佐市は同聯隊に屬して出征し戰功に依り勳八等白色桐葉章並金八拾五圓を下賜せらる

○陸軍歩兵一等卒齋藤虎太郎は廿八年四月同聯隊に屬して出征し柳樹屯に上陸して北進各地に轉戰す十月凱旋して召集解除せらる勳八等瑞寶章金八拾圓を賜ふ

○同藤本宇三郎は同年三月同聯隊に屬して南尖柳に上陸し四月猴頭勾五月年魚嶺小白銀河大石頭溝に戰ひ六月南城子附近の戰闘に終る廿九年一月凱旋し尋て召集を解除せらる勳八等白色桐葉章並金百圓の叙賜あり

○同松賀源吉同聯隊に屬して出征し廿七年十一月青泥窪に上陸し旅順攻圍軍に參加し尋て第三軍を脫して鴨綠江軍に加はり清河城の戰闘に參加し廿八年一月廿四日負傷內地に後送せらる八月十六日再出征し大連灣に上陸し李石寨附近に進む廿九年一月凱旋し四月一日同上の叙勳並金百五拾圓を下賜せらる

○同坂本百太郎は同聯隊に屬して廿七年十一月出征す青泥窪に上陸して旅順攻圍軍に參加し尋て鴨綠江軍に入る廿八年一月水洞子傅家樓子等に戰ひ鉢卷山に於て負傷入院せしは同月廿三日のことなり三月廿日退院し四月再從軍し二火羅の戰闘に參加し英額城大石頭溝南山城子曲柳川等の戰闘に從事し十二月六日病に依り善通寺に後送せらる同月退院召集解除せらる廿九年四月一日廿七八年戰役の功に依り勳八等白色桐葉章並金貳百圓の叙賜あり

○同西川梶太郎は近衛歩兵第一聯隊に屬して廿七年三月出征し韓國鎭南浦に上陸し鳳凰城に向ふて進軍中鴨綠江に於て開戰し五月進みて清國岫巖に戰ひ尋て樣子嶺東新方大西溝等に轉戰し八月廿六日負傷內地に後送せらる東京澁谷病院に於て治療十月一日退院す廿八年二月再出征し柳樹屯に上陸し第二軍に屬して戰務に服し十二月凱旋す現役滿期解隊せらる廿九年四月一日同上の叙賜あり

○同樫原力藏は廿八年一月後備歩兵第五十九聯隊に屬して出征し鴨綠江軍に編入せられ奉天の會戰に參加す十一月凱旋し召集を解除せらる先是明治廿七八年の役には十二聯隊に屬して既に清國大西溝崔家房等に戰ひ凱旋の後功を以て金貳拾五圓を下賜せらる這回の戰功に依り勳八等白色桐葉章並金八拾圓の叙賜を拜せり

○同龜谷鉄藏は廿四年の入營者にして廿七八年の役には第十二聯隊に屬して出征

し戰務に從事する若干日にして病の爲め後送せらる廿八年十二月一日戰功に依り金貳拾五圓を下賜せらる日露の役廿七年八月後備歩兵第十二聯隊に屬して出征し九月六日營口に上陸し同月十五日病に依り丸龜病院に後送せらる十一月廿四日退院卽日召集を解除せらる

○陸軍歩兵一等卒井坂丑太は廿七年十月青泥窪に上陸し旅順攻圍戰に參加し廿八年一月病の爲め丸龜に後送せらる五月再出征し安東縣に上陸す六月南山城子八月大石頭勾等の戰闘に參加し年魚嶺各附近の戰闘に參加し廿九年一月凱旋す四月一日廿七八年戰役の功に依り勳八等白色桐葉章並金八拾圓の叙賜あり

○同久保宇三郎は同年十一月出征して戰務に服し廿八年一月廿五日鴨綠江軍に轉して各地の戰闘に參加し三月一日スイチヤリンに於て戰闘中銃創を受け入院す四月退院五月再出征し安東縣に上陸す六月南山城子八月大石頭勾等の戰闘に參加し廿九年一月凱旋し召集を解除せらる叙勳同上並金貳百圓を賜ふ

○同清水米藏は歩兵第四十三聯隊に屬して出征し廿七年十月三塊石山楊城塞西溝等に戰ひ廿八年三月奉天の會戰に參加し同月九日負傷直ちに普通寺臨時病院に後送せらる五月退院し八月十七日再出征して戰務に服し十一月凱旋し召集解除せら

る戰功に依り叙勳同上金百圓を賜ふ

○同益田利吉は廿七年十二月應召後備歩兵第五十九聯隊に入り廿八年一月柳樹屯より北進して撫順に至り營盤の戰闘に參加し十一月凱旋す叙賜同上

○同山西金五郎は廿八年四月應召歩兵第四十三聯隊に入り戰役に從事す戰功に依り勳八等瑞寶章及金七拾圓を下賜せらる

○陸軍砲兵一等卒永田彦三郎は廿七年十一月後備野戰砲兵隊に召集せられ廿八年二月柳樹屯に上陸し北進遂に大檢樹崔家堡等の戰闘に參加し十一月凱旋す爰に日清の役從軍して金貳拾五圓を下賜せられ這回の戰功には勳八等白色桐葉章金八拾圓の叙賜を拜せり

○同樫谷松藏は砲兵第十一聯隊に屬して出征し廿八年八月大連より上陸し黃衣嶺其他の各地に戰闘す現役兵として所屬隊に凱旋す

○陸軍歩兵一等卒東山惣太郎は廿七年十二月一日應徵歩兵第四十三聯隊に入りて出征す凱旋の後勳八等白色桐葉章並金百圓の叙賜あり

○同木場勝太郎應徵同上內地に勤務す後戰役の功に依り金五拾圓を賜ふ

○陸軍工兵一等卒中原福三郎同上應徵同上出征の戰功に依り廿九年四月一日勳八

等瑞寶章並金七拾圓を下賜せられ現役を以て凱旋す

○陸軍歩兵二等卒森兼重太郎は履歴賜金等木場一等卒に同し

○陸軍輜重輸卒宮崎利吉は輜重兵第十一大隊に屬して卅七年十月出征し安東縣に上陸し北進營盤附近に至るまて任務に從事す卅八年十一月凱旋す卅九年四月一日戰功に依り勳八等白色桐葉章並金百圓を下賜せらる

○同上村勸太郎は卅八年四月應召第十一師團に入り第四糧食縱列に編入せられ六月盤大澳に上陸し旅順方面の勤務に任し後ち鴨綠江軍に加はり八家子方面に至り輸送勤務に從事中八月一日病に依り後送せらる同月十七日退院同日召集を解除せらる前同時同樣の叙賜あり

○同栗林又治郎は卅七年八月出征し柳樹屯に上陸し北進奉天附近に至り勤務に服し十一月凱旋して召集解除となる前同時同樣の叙賜あり

○同木村治太郎卅七年十月出征し卅八年十二月凱旋召集解除となる叙賜同上

○同影山兼太郎は卅八年二月應召輜重兵第十一大隊に編入せられ三月柳樹屯に上陸し城廠に至り常に任務に服す卅九年二月凱旋し尋て召集を解除せらる卅九年四月一日戰役の功に依り勳八等瑞寶章並金七拾圓を下賜せらる

○同笹忠藏は卅七年五月第十一師團第四糧食縱列に編入せられて出征し大孤山附近に勤務中病を以て八月廿八日善通寺に後送せられ十二月退院同日召集を解除せらる叙賜同上

○同二見富太卅八年七月八日樺太島大泊に上陸し官舍建築工事の任務に從事し十二月凱旋して召集を解除せらる叙賜同上

○同藤井幸吉は卅八年二月出征し四月廿九日病の爲め善通寺豫備病院に後送せられ六月廿四日退院卽日召集解除となる卅九年四月一日金五拾圓を下賜せらる

○同林田伊三郎は卅八年八月出征し翌年二月凱旋し召集解除せらる賜金同上

○同砲兵輸卒志茂田多賀吉は同時出征し十一月凱旋し召集解除となる賜金同上

○陸軍看護卒富野春泰は卅八年九月歩兵第四十三聯隊に編入せられ似島檢疫事務所に於て任務に從事し卅九年三月召集解除となる卅九年四月一日勳八等に叙し瑞寶章並金七拾圓を下賜せらる

○陸軍輜重輸卒青木忠太郎は卅七年五月盤大澳に上陸し北進して大石頭溝に至り戰線に於て輸送勤務に從事し卅九年一月凱旋す尋て召集を解除せらる卅七八年戰役の功に依り勳八等白色桐葉章並金八拾圓の叙賜あり

○陸軍砲兵二等卒二見甚太郎は卅八年五月應召し野戰砲兵第十一聯隊に屬して戰務に從事し十月召集解除となる功を以て金參拾五圓を下賜せらる

○同杉谷兵吉は同年三月召集に應し八月解除せらる賜金亦前に同し

○陸軍歩兵二等卒小川龜太郎は卅八年七月出征して北部滿洲の戰務に從ひ十一月凱旋して召集解除せらる戰功に依り金五拾圓を賜ふ

○陸軍輜重輸卒濱原馬吉は卅七年十月輜重兵第十一大隊に屬して青泥窪に上陸し北進して撫順に至り輸送勤務に從事す卅九年一月凱旋す尋て召集解除せらる四月一日戰役の功に依り勳八等瑞寶章金七拾圓の叙賜あり

○同中野慶吉從軍時期凱旋後召集解除凡同時叙賜亦同上

○同入江幸太郎は同年九月從軍し北部滿洲に於て任務に服す凱旋後叙賜同上

○同岡友次郎は第十一師團第五補助輸卒隊に編入せられ卅七年五月從軍して安東縣に上陸し進て東山城に至る病を以て善通寺に後送せられ十月一日退院同時に召集解除となる戰功に依り金參拾五圓を下賜せらる

○同大持友吉は卅七年八月從軍して青泥窪に上陸し北進して輸送任務に從事す卅八年八月十三日病に依り善通寺に後送せらる九月五日退院即日召集解除せらる勳八等瑞寶章並金八拾圓の叙賜あり

○小原正太郎は同年十二月出征し上陸地点亦同上進みて鉄嶺に至る卅九年二月凱旋し尋て召集解除となる叙賜同上

○陸軍砲兵輸卒野村留吉は卅七年六月第十一師團彈藥大隊に屬して張家屯に上陸し戰線に就きて軍務に從事す八月廿一日病の爲め善通寺豫備病院に後送せらる九月廿日退院卅八年八月八日再出征して大連に上陸し直に鐵嶺に向ふて勤務に服す十一月凱旋して召集解除となる卅九年四月一日卅七八年戰役の功に依り勳八等白色桐葉章並金百圓の叙賜あり

○陸軍輜重輸卒香內兵藏は卅七年七月一日從軍し同八日南尖子に上陸し安東縣に於て輸送勤務中同廿五日病を以て後送せられ十月召集解除せらる後金五拾圓を賜ふ

○同山本千太郎は戰歷罹病等畧同上賜金亦同し

○同原勝藏は卅七年七月樺太島大泊に上陸し倉庫官舍築造工事に從事し十二月凱旋し召集解除となる勳八等瑞寶章金八拾圓を下賜せらる

○同中原彦太郎は卅八年四月出征し卅九年四月凱旋す同月金五拾圓を下賜せらる

○同東道增藏は卅七年十一月出征して戰務に從事中卅八年七月に至り病の爲め善

通寺に後送せられ十月退院召集解除せらる勳八等白色桐葉章金八拾圓の叙賜あり

○陸軍輜重輸卒坂本要藏卅七年六月出征し卅八年十一月凱旋し召集解除せらる叙賜同上

○同富野榮は卅七年十月應召出征す叙勳同上金百圓を賜ふ

○陸軍歩兵二等卒篠崎八治郎は同時出征八月十日內地に後送尋て召集解除

左の數名は原稿材料備寇に失し兵種其他共明かならず特く原稿のまゝを左に列記す

○第二國民兵歩兵小田寛太郎は卅八年八月應召十月召集解除せらる

○同栗林柏藏は卅八年九月應召十一月召集解除せらる

○同谷口銀藏は卅八年八月應召十月召集解除せらる

○同横山久吉は卅八年九月應召十一月召集解除せらる

○同中久辨吉は卅八年八月應召十月召集解除せらる

○同坂本平治郎は卅八年八月應召十月召集解除せらる

○同樫口熊太郎は卅八年九月應召十一月召集解除せらる

○同原田圓太郎は卅八年八月應召十月召集解除せらる

○同小坂由太郎は卅八年八月應召十月召集解除せらる

○陸軍歩兵上等兵北口治太郎は川西村の人卅七年七月出征し大連に上陸して毛祁屯を經て海城守備を勤務す卅八年一月南長嶺山附近第一線勤務に從事し尋て勝山附近に於て同上又江湖屯に砲兵隊援護の任務に從事し尋て奉天附近の戰闘に參加す卅八年十一月腰寨子を發して多度津に凱旋す卅七八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○陸軍砲兵一等卒北村米次郎は卅七年十月野戰砲兵第十一聯隊に屬して青泥窪に上陸し第六中隊に轉して第二回旅順本防禦線攻撃に參加すること二回十一月東鷄冠山中腹敵兵壕奪取戰に參加し十二月卅一日より卅八年一月二日の天明に至る二月二日病に罹り入院五月廿六日第一中隊に轉し八月定員超過に依り召集を解除せらる卅七八年戰役の功に依り勳八等瑞寶章並金八拾圓の叙賜あり

○同小賀音吉は戰歷上半同上にして旅順陷落後第三軍に屬し各地に轉戰し竟に大石頭溝の戰闘に終る卅九年一月凱旋し尋て召集を解除せらる叙賜同上

○同上等兵花下喜四郎は卅七年六月野戰砲兵第十一聯隊に屬して出征し張家屯に上陸し金州を經て王家溝に着し劍山の戰闘に參加し尋て太白山大石洞の各戰闘に參加し卅八年一月十三日鴨綠江軍に加はり清河城馬群丹撫順等の戰闘に從事す卅

九年一月詫間灣に凱旋す勳八等白色桐葉章金貳百圓の叙賜あり

○陸軍歩兵上等兵川西虎吉は卅七年五月出征して歪頭山の偵察劍山守備兵等に參加し尋て太白山の戰鬪八月八日小孤山の攻撃に參加中負傷第三野戰病院に入り終に内地に後送せらる卅七年八月二十日附第十一師團長の賞詞を受く卅九年四月一日卅七八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○陸軍輜重輸卒北川又吉は卅七年九月出征し遼陽に於て戰務に從事し卅八年三月第一建築班に分遣卅九年一月凱旋して召集を解除せらる四月一日卅七八年戰役の功に依り勳八等白色桐葉章並金貳百圓の叙賜あり

○陸軍歩兵一等卒谷島吉は卅七年八月柳樹屯に上陸し鞍山站首山堡遼陽沙河等の戰鬪及守備を勤務し十月十四日東山口二千米突高地突撃の際負傷して第一野戰病院に收容せられ轉て遼陽青泥窪の各病院を經て廣島病院に後送せられ後ち善通寺豫備病院に轉院して七月兵役を免除せらる叙勳同上金百圓を下賜せらる

○同西本角平は出征同期卅七年十月沙河の戰鬪に參加中負傷して竟に内地に後送せられ卅八年一月再出征し二月廿三日鉢巻山攻撃の際又負傷して鳳凰城兵站病院に入り卅九年一月廿二日内地に歸還し召集解除せらる叙勳同上金貳百圓を賜ふ

○同南谷松藏は卅八年三月青泥窪に上陸し英額城孤山子四廟子牟魚嶺等に轉戰し撫順兵站部を守備す卅九年一月凱旋召集解除せらる叙勳同上金八拾圓を賜ふ

○同南谷源太郎戰歷略同上叙勳次同上並金百五拾圓を賜ふ

○同片岡音吉卅八年七月大連に上陸し北進して紀家窩堡に至り警戒任務に服す卅九年一月李祥窩堡を出發し奉天城守備の任を受く卅九年一月凱旋して召集を解除せらる四月一日卅七八年戰役の功に依り勳八等瑞寶章を賜ふ

○同林富藏は卅八年三月出征し北進して五月五日英額邊門城の戰鬪に參加し尋て大石頭溝南城子等に轉戰し大石頭溝附近第一線守備の任務に服す卅九年一月凱旋し召集解除となる卅七八年戰役の功に依り勳八等白色桐葉章金八拾圓の叙賜あり

○同井谷鶴藏は卅七年八月柳樹屯に上陸し十月野戰砲兵援護の任に服し尋て長岑附近奉天附近に轉戰し卅八年十一月凱旋し召集解除となる叙賜同上

○同上等兵中西由太郎は出發同時期奉天會戰に續きて玉家大堡附近に於て第一線支隊支援隊となり永陵附近に駐軍す卅八年十一月多度津に凱旋し召集解除せらる勳七等青色桐葉章金百圓の叙賜あり

○陸軍輜重輸卒堀川役藏は卅八年三月遼陽に到着し戰務に從事す卅九年六月凱旋

して召集を解除せらる戰功に依り勳八等白色桐葉章金百五拾圓の叙賜あり

○陸軍輜重輸卒吉川網藏は前同樣にして同一の叙賜あり

○同栗林春藏は卅七年十二月第一補助輸卒隊補充に編入せられて從軍し青泥窪に上陸して遼陽を經て奉天附近の戰鬪に參加す此れより營盤永陵等を經て四月九日後備步兵第十九聯隊臨時機關砲隊に編入せられ三家子附近の戰鬪に參加す此れより營盤永陵等年二月臨時機關砲隊に編入せられ三家子附近の戰鬪に參加す此れより營盤永陵等軍南孤山兵站司令部に轉し道路改築架橋工事糧秣輸送等に從事す卅九年二月凱旋して召集解除せらる叙賜同上

○陸軍步兵一等卒畠山友太郎は卅七年九月應召して後備步兵第四十四聯隊第四中隊に編入せられ善通寺を發して松山に至り同地俘虜收容所守備の任務に服す卅八年四月伊豫高濱港を發して韓國元山津に至り五月五日咸興北背を經て十九日谷口嚴に至る尙北進して鏡城許古院を通過し南部金亘里王城洞附近に戰鬪して八月に及へり九月二日芭田に於て戰鬪し遂に竹裴洞を經て古豐山兵站部守備の任務に服す十一月九日高濱に上陸し朝倉兵營に歸還して召集を解除せらる卅九年四月一日卅七八年戰役の功に依り勳八等瑞寶章並金七拾圓の叙賜あり

○陸軍步兵上等兵岡澤左代松は卅七年五月出征し張家屯に上陸して各地の戰鬪に參加し小孤山の激戰を經て九月六日脚氣病に罹り終に善通寺に後送せらる卅八年一月退院し二月再從軍す北進して各地に轉戰し英額城に至る卅九年一月凱旋し叙勳同上金貳百圓を賜ふ

○同一等卒太田光藏は卅七年十二月出征し韓國鎭南浦に上陸し北進して各地の戰鬪に參加し大石頭溝の守備に終る卅九年一月凱旋し功に依り叙勳同上賜金百五拾圓を賜ふ

○同北川守二は卅八年二月出征し戰歷略同上凱旋期亦同上叙勳同上金百圓を賜ふ

○同龜非照太郎は卅七年七月出征し八月卅一日首山堡に於て負傷し內地に後送せらる卅八年十月復員に付召集解除せらる勳八等白色桐葉章金八拾圓の叙賜あり

○陸軍輜重輸卒平道祖一郎は卅七年十月輜重兵第十一大隊補充隊に編入せられ城廠兵站病院に勤務中卅八年四月卅八日病に罹り內地に後送せらる六月退院し尋て召集を解除せらる叙勳同上金百五拾圓を賜ふ

○同鈴木要太郎は卅七年六月服家屯に上陸し各地に在りて糧秣輸送に從事中九月十二日病を以て第二野戰病院に收容せられ遂に善通寺豫備病院に還送せらる十

一月退院召集解除せらる勳八等瑞寶章金七拾圓の叙賜あり

○陸軍工兵一等卒谷本髙太郎は卅七年五月工兵第十一大隊第三中隊に屬して從軍し各地の戰線に列して軍務に從事す旅順第一回總攻撃に始まり英額城防禦工事架橋作業に終る卅九年一月凱旋す勳八等白色桐葉章金貳百圓の叙賜あり

○同砲兵輜卒谷山孫太郎は第十一師團彈藥大隊第一砲兵彈藥縱列に屬して前同時期出征す劍山附近の戰鬪に始まり卅八年五月大石頭溝附近の戰鬪に參加の後流行性感冒に罹り奉天兵站病院に入る戰功に依り叙勳同上賜金百五拾圓を賜ふ

○同一等卒吉川祖吉は卅八年四月野戰砲兵第十一聯隊第四中隊に屬して出征し北進して曲柳川附近魚嶺附近の戰鬪に參加し卅九年一月凱旋し尋て召集を解除せらる勳八等瑞寶章金八拾圓の叙賜あり

○陸軍輜重輜卒谷山島藏は卅八年三月大連に上陸して直に遼陽に進み鐵嶺に至り任務に服す卅九年二月遼陽に在りて建築作業に從事す四月一日卅七八年戰役の功に依り勳八等白色桐葉章並金百圓の叙賜あり

○同北口愛藏は卅七年十月輜重兵第十一大隊に屬して從軍し鳳凰城に於て第二師團後備工兵第一中隊に屬し輕便鐵道敷設等の任務に從事す卅八年一月四平嶺に於て動務中病に罹り城廠兵站病院に收容せられ尋て內地に歸還す五月退院召集解除となる叙賜同上

○同板東早吉は卅七年五月從軍して戰務に服し八月廿五日病を得て善通寺豫備病院に後送せらる卅八年七月第十一師團後備混成第十一旅團第一糧食縱列に屬して再從軍し遼陽奉天鐵嶺等に於て動務に服し卅九年二月凱旋す叙賜同上

○同久保忠次郎は卅七年十二月青泥窪に到着し卅八年三月奉天附近の戰鬪任務に從事し遂に進て老國嶺に至り休戰となる卅九年一月凱旋して召集解除せらる卅七八年戰役の功に依り勳八等瑞寶章並に金七拾圓の叙賜あり

○陸軍步兵一等卒平岡慶藏は卅七年八月第四十三聯隊第二中隊に屬して出征し卅八年十一月凱旋す多くは旅順方面の戰鬪に從事せり四月一日卅七八年戰役の功に依り勳八等白色桐葉章並金貳百圓の叙賜あり

○同山本見代藏は卅八年三月六日大連に上陸して遼陽に至り大石橋に分遣せられ戰務に服し卅九年二月凱旋召集を解除せらる叙勳同上賜金百圓を賜ふ

○陸軍砲兵輜卒寺岡谷五郎は卅八年四月第十二師團彈藥隊第二彈藥縱列に編入せられて從軍す北進法庫門范水窩棚等に至り戰務に服す卅九年二月多度津に凱旋し

四月戰功に依り勳八等瑞寶章並金七拾圓の叙賜あり

○陸軍歩兵上等兵近藤豐太郎は卅八年一月出征し三龍峪撫順等の轉戰に參加し四月四日鮑家屯に宿營す六月廿九日脚氣病に罹り善通寺豫備病院に後送十二月退院尋て召集解除せらる卅九年四月一日卅七八年戰役の功に依り勳八等白色桐葉章金貳百圓の叙賜あり

○同軍曹和田省一は上木頭村の人卅七年五月出征し六月鷄冠山劍山等に戰鬪し七月五日任軍曹廿六日より太白山附近及郭家溝小孤山等に轉戰し尋て同地守備の任務に服す八月十七日脚氣症に罹り第一野戰病院に入り又同地に後送せらる卅八年三月德島聯隊區司令部附となり四月十五日任曹長卅九年四月一日勳七等青色桐葉章並金參百圓の叙賜あり尋て德島聯隊區附を免せらる

○同上等兵前原半太郎は卅七年四月出征す戰歷前半同上九月脚氣症に罹り青泥窪兵站病院に於て療養竟に內地に後送せらる卅八年四月十日退院五月再出征し安東縣に上陸し遂に進て小白銀河バンズ廟附近の戰鬪に參加し卅九年一月凱旋す勳八等白色桐葉章金貳百圓の叙賜あり

○同日裏吉平は戰歷略同上にして卅七年十二月十三日旅順要塞攻擊參加中脚氣病に罹り內地に後送せらる卅八年八月第四十三聯隊第四中隊に編入せられ十一月に至り召集解除せらる四月勳八等白色桐葉章金貳百圓の叙賜あり

○陸軍砲兵輜卒陰田恒治郎は卅七年五月野戰砲兵第十一大隊第五中隊に屬して出征し六月鉅山太白山の戰鬪八月小孤山鷄冠山中腹散兵壕の奪取戰等に參加し終に卅八年一月に至れり同年二月鴨綠江軍に編入せられ清河城馬群丹撫順大小白銀河英額邊門附近に轉戰し卅九年一月凱旋す叙勳同上並金百圓の叙賜あり

○同一等卒小狛茂八は卅八年後備野戰砲兵第一中隊に屬して出征し柳樹屯に上陸の後柳條口新臺子大庄家銀絲堡等の戰鬪に參加し三月十一日奉天北門に於て警急舍營其他の戰務に從事して十一月に至る同月廿六日多度津に凱旋して召集解除となる戰功を以て勳七等青色桐葉章金百五拾圓の叙賜あり

○陸軍歩兵一等卒小狛友藏は卅八年一月第五十九聯隊第一中隊に屬して出征又前半戰歷同上三月馬群丹撫順范河左岸營盤附近等の守備及戰鬪に從事し十一月多度津に凱旋して召集解除となる勳八等白色桐葉章金百五拾圓の叙賜あり

○同小波永藏は戰歷叙賜等總て同上

○同井村利喜太は卅七年五月廿八日盛大澳に上陸し黃泥川大上屯等の戰鬪より第

三回旅順總攻撃に參加して卅八年一月に至り望臺激戰の後同月廿八日脚氣病に罹り内地に後送せらる二月廿一日退院し三月廿四日再出征して柳樹屯に上陸し後備歩兵第四十三聯隊第二中隊に編入せらる十一月多度津に凱旋す叙勳同上賜金百圓

○陸軍歩兵一等卒平川正矩は卅七年八月歩兵第四十三聯隊補兵大隊第三中隊に屬して出征し青泥窪に上陸して旅順攻圍軍に參加し連戰年を踰へ卅八年一月廿三日清河城附近の戰鬪中負傷大石橋兵站病院に入り三月廿一日退院して大狐頭東沓什英額城附近等に轉戰し秀子甸子の戰鬪に終る叙勳同上賜金百五拾圓を賜ふ

○陸軍砲兵上等兵近藤晉吾は卅七年十一月青泥窪に上陸して戰鬪に從事し卅八年二月廿七日馬群丹に於て戰鬪中負傷入院し四月十四日退院又戰務に服し八月卅一日曲柳線附近の戰鬪中骨折に依り入院し十二月兵役を免除せらる卅九年四月一日卅七八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同新田義利は卅七年六月出征して同上の戰地に從軍し七月廿日病に罹り入院し九月廿三日退院戰務に服す卅八年三月三日奉天攻撃の際負傷第一野戰病院に入りて内地に後送せらる六月又出征して大石頭溝附近の戰鬪に終る叙賜同上

○陸軍輜重輸卒關口仁平は卅八年二月柳樹屯に上陸して奉天營盤季家屯等の戰務に服し十一月凱旋解隊せらる勳八等白色桐葉章並金八拾圓の叙賜あり

○陸軍歩兵一等卒濱高丑太郎は三岐田村の人卅八年一月後備歩兵第五十九聯隊第八中隊に屬して出征し十一月多度津に凱旋し復員に付召集解除せらる勳七等青色桐葉章金八拾圓の叙賜あり

○同喜井平太郎は歷圍叙賜同前

○同上等兵中崎利三郎は卅七年九月後備歩兵第四十三聯隊第八中隊に屬して出征し尋て同聯隊第一中隊に編入せらる卅九年一月多度津に凱旋し復員に付召集解除せらる戰役の功に依り勳八等白色桐葉章金貳百圓の叙賜あり

○同一等卒幸木喜市は卅七年七月右同隊に屬して出征し十月脚氣病にて遼陽兵站病院に入る尋て大連兵站病院を經て善通寺豫備病院に轉院す十二月事故退院し再同聯隊第四中隊に編入せられて出征し凱旋に至るまで勤務す

○同工兵一等卒山内庄太郎は卅七年五月工兵第十一大隊に屬して出征し卅八年二月病に依り覲子窩患者收容所に入り全治退院し本隊に復歸す卅九年一月託間灣に凱旋し復員に付召集解除せらる戰功に依り勳七等瑞寶章金七拾圓の叙賜あり

○同砲兵一等卒若松忠藏は卅八年五月野戰砲兵第十一聯隊補充大隊に屬して出征

し卅九年一月多度津に凱旋し召集解除戰功に依り勳八等瑞寶章金八拾圓の叙賜あり

○陸軍輜重輸卒富田文次郎は卅七年六月第四十三聯隊第二大隊に屬して出征し卅八年十一月多度津に凱旋し召集解除戰功に依り勳八等白色桐葉章金八拾圓の叙賜あり

○同歩兵一等卒船越長太郎は同時同聯隊補充大隊に屬して出征し九月脚氣病に罹り遼陽兵站病院に入る尋て廣島豫備病院を經て善通寺豫備病院に轉院す十二月全治退院し再後備歩兵第五十九聯隊第八中隊に編入せられて出征す卅八年十一月多度津に凱旋し復員に付召集解除戰功に依り勳八等白色桐葉章金貳百圓の叙賜あり

○同砲兵一等卒東根六藏は卅七年四月第十一師團彈藥大隊に屬して出征し卅九年十一月託間灣に凱旋し召集解除功に依り勳八等白色桐葉章金百五拾圓の叙賜あり

○同輜重輸卒谷口音吉は卅七年四月第十一師團第一糧食隊に屬して出征し卅八年七月病に依り二道河子患者收容所に入る尋て廣島豫備病院を經て善通寺豫備病院に轉院退院して召集解除せらる戰功に依り勳八等白色桐葉章金百五拾圓の叙賜あり

○陸軍歩兵軍曹由岐中村太郎は卅七年十二月後備歩兵第五十九聯隊に屬して出征し柳樹屯に上陸し鴨綠江軍に編入せられ奉天附近の會戰馬群丹三龍峪の攻撃戰撫順范家附近の戰闘に參加し蓋什兵站守備に服す卅八年十月多度津に凱旋し召集解除せらる卅九年四月一日卅七八年戰役の功に依り勳章同上金貳百圓を下賜せらる

○同砲兵一等卒大谷音吉は卅七年四月第十一師團彈藥大隊に屬して出征し八月脚氣病に依り張嶺子定立病院に入る尋て青泥窪兵站病院を經て善通寺豫備病院に轉院す十月全治退院し再補充大隊第二中隊に編入せられて出征し卅九年一月多度津に凱旋し召集解除せらる戰功に依り勳八等白色桐葉章金百圓の叙賜あり

○同山内芳藏は卅七年四月野戰砲兵第十一聯隊に屬して出征し卅九年一月多度津に凱旋し復員に付召集解除せらる功に依り勳八等白色桐葉章金貳百圓の叙賜あり

○同歩兵一等卒山下亞藏は卅七年六月後備歩兵第二十二聯隊第五中隊に屬して出征し柳樹屯に上陸して奉天附近の會戰に際し負傷第一野戰病院に入る尋て善通寺豫備病院に轉院す全治退院再前隊に編入せられて出征し高濱に凱旋し復員に付召集解除せらる功に依り勳八等白色桐葉章金貳百圓の叙賜あり

○同伍長湊長藏は卅七年四月第四十三聯隊第十中隊に屬して出征し卅九年一月多

度津に凱旋し召集解除せらる功七級金鵄勲章勲七等青色桐葉章の叙賜あり

○陸軍歩兵上等兵井筒今太郎は同聯隊第三中隊に屬して右同時出征し脚氣病にて青泥窪兵站病院に入る尋て善通寺豫備病院に轉院す全治退院し後再同聯隊第七中隊に編入せられ出征す廿九年四月勲八等白色桐葉章金百圓の叙賜あり

○同馬淵丈太郎は同聯隊第六中隊に屬して右同時出征し廿八年二月足痛に依り覺に善通寺豫備病院に入院す全治退院再歩兵第六十二聯隊に編入出征す廿九年三月多度津に凱旋し召集解除戰功に依り功七級金鵄勲章勲八等白色桐葉章の叙賜あり

○同森本宇太郎は同時同聯隊補充大隊に編入五月病に依り召集解除せらる十二月充員を以て歩兵第五十九聯隊に屬して出征し廿八年十一月多度津に凱旋し復員に付召集解除せらる功に依り勲八等白色桐葉章金百五拾圓を賜ふ

○同幡重兵一等卒小林吉三郎は廿七年四月第十一師團第二糧食隊に屬して出征し廿九年一月託間灣に凱旋し召集解除せらる勲八等白色桐葉章金貳百圓の叙賜あり

○同歩兵一等卒大西林吉は同時第四十三聯隊第一中隊に屬して出征し九月脚氣病に依り善通寺豫備病院に入院す十二月事故退院して召集解除せらる勲八等白色桐葉章金百五拾圓の叙賜あり

○同上等兵悦田庄太郎は同時前同隊に屬して出征し小孤山攻撃の際負傷し善通寺豫備病院に入院す十一月退院補充大隊第二中隊に編入廿九年一月召集解除叙賜同上

○同砲兵上等兵元木益治は廿七年四月第十一師團野戰砲兵第十一聯隊に屬して出征し廿九年一月多度津に凱旋し召集解除勲八等白色桐葉章金貳百圓の叙賜あり

○陸軍歩兵上等兵城木增吉は第四十三聯隊第九中隊に屬して出征し廿七年五月より八月まで戰務に從事中同月十九日脚氣病に罹り第一野戰病院に入り覺に內地に後送せらる十二月退院同聯隊第四中隊に屬して再出征し廿八年一月第九中隊に轉し烏帽子山附近の戰鬪に參加し負傷す又內地に還送せらる六月事故退院し第五中隊に編入せられ十一月復員に付召集解除せらる勲八等白色桐葉章金貳百圓を賜ふ

○同一等卒朝海國松は第四十三聯隊第八中隊に屬して出征し十月病に依り善通寺豫備病院に入院す廿八年二月治癒退院し再出征し廿九年一月多度津に凱旋し復員に付召集解除せらる勲八等白色桐葉章金百五拾圓の叙賜あり

○同橋本伊太郎は廿七年四月歩兵第四十三聯隊第十一中隊に屬して出征し十月病に依り善通寺豫備病院に後送十二月召集解除勲八等白色桐葉章金貳百圓の叙賜あ

り

○陸軍輜重輸卒森岡傳吉は卅七年四月第四十三聯隊第一大隊に屬して出征し卅九年一月詫間灣に凱旋す召集解除勳八等白色桐葉章金八拾圓の叙賜あり

○同橋本豐吉は卅七年四月第四十三聯隊第十一大隊補充中隊に屬して出征し卅九年一月詫間灣に凱旋し召集解除せらる勳八等白色桐葉章金百圓の叙賜あり

○同一等卒藤岡伊太郎は同時同聯隊に屬して出征し八月小孤山の戰鬪中負傷し覺に內地に後送せらる十一月退院同聯隊第四中隊に屬して再出征し卅八年三月奉天附近の戰鬪中又負傷して內地に遞送せられ退院す卅九年一月召集解除せらる四月戰功に依り勳八等白色桐葉章金百圓の叙賜あり

○同一等卒朝海力松は卅七年四月第四十三聯隊補充大隊第三中隊に屬して出征し卅九年一月召集解除せらる勳八等白色桐葉章金八拾圓の叙賜あり

○同上等兵室崎千太郎は卅八年七月臺灣守備第十一大隊第二中隊より出征し卅九年三月多度津に凱旋す召集解除戰功に依り勳八等瑞寶章金七拾圓の叙賜あり

○同若井伊太は閱歷同上功に依り勳八等瑞寶章金八拾圓の叙賜あり

○同軍曹增田利之助は閱歷同上勳八等瑞寶章金百五拾圓の叙賜あり

○同一等卒小林源吉は閱歷同上勳八等瑞寶章金七拾圓の叙賜あり

○同砲兵輜重輸卒濱田米太郎は卅七年四月第十一師團彈藥大隊第一砲兵彈藥縱列に屬して出征し卅九年一月凱旋す召集解除勳八等白色桐葉章金百五拾圓の叙賜あり

○同土佐治三郎は卅七年四月野戰砲兵第十一聯隊に屬して出征し八月脚氣病に依り大阪豫備病院に後送せらる十月全治退院十一月再出征し卅九年一月多度津に凱旋す復員に付召集解除せらる戰功に依り勳八等白色桐葉章金百圓の叙賜あり

○同工兵一等卒湊善太平は卅七年二月出征し工兵第十一大隊補充隊に復歸す卅九年一月復員に付現役滿期四月一日戰功に依り金五拾圓を賜ふ

○同步兵上等兵松浦梅吉は卅七年四月出征し卅九年一月多度津に凱旋し現役滿期戰功に依り功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同輜重輸卒木里彌之吉は卅七年六月第十一師團輜重兵第十一大隊補充中隊に屬して出征し十一月召集解除せらる

○同步兵上等兵朝海友吉は卅七年五月步兵第四十三聯隊第十一中隊に屬して出征し卅九年一月召集解除せらる勳八等白色桐葉章金百五拾圓の叙賜あり

○陸軍歩兵一等卒別宮松平は卅七年四月出征し卅八年一月脚氣病に依り大孤山野戰病院より善通寺豫備病院に轉院す全治退院第四十三聯隊補充大隊第二中隊に屬して再出征し四月前同隊第五中隊に編入十一月多度津に凱旋す卅九年復員に付現役滿期勳八等白色桐葉章金百圓の叙賜あり

○同砲兵一等卒藤代安次郎は卅七年五月野戰砲兵第十一聯隊に屬して出征し九月病に依り背泥窪兵站病院を經て善通寺豫備病院に轉院す卅一月全治退院し前同聯隊第二中隊に編入せられ十二月再出征す又第四中隊に轉し卅九年一月詫間灣に凱旋す復員に付召集解除せらる戰功に依り勳八等白色桐葉章金貳百圓の叙賜あり

○同工兵上等兵岩橋榮太郎は卅七年四月工兵第十一大隊第一中隊に屬して出征し盛大奥に上陸し老座山附近大小孤山の戰闘に參加し東鷄冠山砲臺突撃及鉄條網破壞中右脛部を負傷し野戰病院に入る尋て廣島豫備病院を經て善通寺豫備病院に轉院す卅八年三月全治退院し七月小倉工兵第十四聯隊に轉して又出征し卅九年三月滿期解隊せらる戰功に依り功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同輜重輸卒金田福藏は卅七年六月第十一師團第二粗食縱列に屬して出征し卅九年一月多度津に凱旋し召集解除せらる戰功に依り勳八等白色桐葉章金貳百圓の叙賜あり

○同島長太郎は卅七年五月野戰第十一師團架橋縱列に屬して出征し卅九年一月白方港に凱旋し復員に付召集解除せらる戰功に依り勳八等白色桐葉章金八拾圓を賜はる

○同看護卒清水周次は卅八年五月第三軍兵站監部要員として出征し六月病に依り第二軍鐵嶺兵站病院に入る尋て善通寺豫備病院に轉院し卅九年一月全治退院し復員に付召集解除せらる金五拾圓を賜はる

○同砲兵輸卒吉成圀次は卅八年四月野戰砲兵第十一聯隊に屬して出征し八月第三砲兵彈藥縱列に編入卅九年一月詫間灣に凱旋し復員に付解隊金五拾圓を賜ふ

○陸軍歩兵一等卒濱田岩藏は卅七年四月第四十三聯隊に屬して出征し十一月旅順要塞總攻撃に際し負傷善通寺豫備病院に後送せらる卅八年五月事故退院し前同聯隊第二中隊に編入十一月召集解除勳八等白色桐葉章金百圓の叙賜あり

○同輜重輸卒池田鶴吉は卅七年十月輜重兵第十一大隊補充中隊に屬して出征し第一師團架橋縱列に編入せられ戰務に服す卅九年一月詫間灣に凱旋す尋て召集解除

せらる勳八等瑞寶章金八拾圓を賜ふ

○陸軍歩兵一等卒勢喜役藏は卅七年八月第四十三聯隊に屬して出征し小孤山戰鬪の際負傷龍屯野戰病院に入院し九月善通寺豫備病院へ轉入十一月事故退院同聯隊補充大隊第二中隊へ編入せられ卅八年二月再出征し後備第四十三聯隊第二中隊へ編入せられ戰務に服す十一月召集解除せらる戰功に依り勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同砲兵一等卒吉野圓吉は卅七年七月野戰砲兵第十一聯隊第二中隊に屬して出征し野戰砲兵第一聯隊へ編入せられ戰務に服す卅九年一月多度津に凱旋す尋て復員に付召集解除せらる勳八等白色桐葉章金百五拾圓の叙賜あり

○同工兵一等卒山田和藏は卅七年七月第十一師團後備工兵第一中隊に屬して出征し卅八年十一月多度津に凱旋す尋て復員に付召集解除せらる戰功に依り叙賜同上

○同輜重輸卒平野爲吉は卅七年八月第十一師團第八補助輸卒隊に屬して出征し九月青泥窪上陸直に戰務に服す卅九年四月詫間灣に凱旋す尋て召集解除せらる

○同土內利之助は閥歷同上勳八等白色桐葉章及金百圓の叙賜あり

○同藤岡又吉は閥歷同上勳八等瑞寶章金七拾圓の叙賜あり

○同坂田安吉は閥歷同上勳八等白色桐葉章金百圓の叙賜あり

○同向井增吉は卅七年九月第十一師團第九補助輸卒隊に屬して出征す閥歷同上卅八年一月多度津に凱旋す勳八等瑞寶章金八拾圓の叙賜あり

○同一等卒大西庄藏は卅七年八月第四十三聯隊補充大隊第四中隊に屬して出征し同聯隊第十一中隊に編入せられ戰務に服す卅九年一月多度津に凱旋す召集解除勳八等白色桐葉章金貳百圓の叙賜あり

○同谷本豐太郎は卅七年十一月同聯隊同大隊第一中隊に屬して出征し同聯隊第四中隊へ編入せられ戰務に服す卅九年一月凱旋す召集解除叙賜皆同上

○同津田源次郎は閥歷叙勳同上並金百五拾圓を賜ふ

○同坂東繁三郎は卅八年二月應召第四十三聯隊補充大隊第四中隊へ編入せられ八月第六中隊へ轉入す卅九年一月復員に付召集解除せらる功に依り勳八等白色桐葉章及金參拾五圓を賜ふ

○同坂井賴一は同時出征し大連に上陸す後備同聯隊第五中隊へ轉入し戰務に服す十一月多度津に凱旋す召集解除戰功に依り金五拾圓を賜ふ

○同坂本淺太郎は同時出征し青泥窪に上陸し同聯隊第十一中隊へ轉入し戰務に服

す卅九年一月凱旋及召集解除同上勳八等瑞寶章金七拾圓を賜ふ

○陸軍歩兵一等卒生田春吉は卅八年八月第六十二聯隊第十一中隊に屬して出征し大連に上陸し直に戰務に服す卅九年四月多度津に凱旋尋て復員に付召集解除せら る勳八等瑞寶章金七拾圓の叙賜あり

○同千村万吉は閲歴叙賜同上但賜金なし

○同濱野丹五郎は閲歴叙勳同上

○陸軍砲兵一等卒谷脇孫太郎は卅七年四月野戰砲兵第十一聯隊補充大隊に屬して出征し青泥窪に上陸し戰務に服す卅九年一月召集解除勳八等瑞寶章の叙賜あり

○同高田幾太郎は卅七年十一月野戰砲兵第十一聯隊第二中隊に屬して出征す卅九年一月白方に凱旋し召集解除せらる勳八等白色桐葉章金百圓の叙賜あり

○陸軍砲兵二等卒楠本金藏は卅八年四月野戰砲兵第十一聯隊補充大隊に入隊し勤務に服す十月召集解除せらる戰功に依り勳八等白色桐葉章及金參拾五圓を賜ふ

○陸軍輜重輸卒榊房吉は卅七年八月第十一師團第八補助輸卒隊に屬して出征し青泥窪に上陸し戰務に服す卅九年四月召集解除勳八等白色桐葉章金百圓の叙賜あり

○同橋本正吉閲歴叙賜同上

○同原田次郎吉は卅七年九月輜重兵第十一大隊第九補助輸卒隊に屬して出征し青泥窪に上陸して戰務に服す卅八年某月病を獲て歸鄉療養を許され六月に至り過員に付召集を解除せらる卅九年四月一日勳八等瑞寶章金八拾圓の叙賜あり

○同福田房吉は卅七年八月第十一師團第八補助輸卒隊に屬して出征し十一月病に罹り青泥窪兵站病院を經て普通寺豫備病院に後送せらる同月退院尋て召集解除せらる戰功に依り勳八等白色桐葉章及金參拾五圓を賜ふ

○同宮本市太郎は同時出征し戰務に服す卅九年二月多度津に凱旋す尋て召集解除せらる勳八等瑞寶章金七拾圓の叙賜あり

○陸軍歩兵一等卒井筒長之助は卅七年九月後備歩兵第四十三聯隊第七中隊に屬して出征し戰務に服す卅八年十一月凱旋す尋て召集解除せらる勳八等白色桐葉章並金百五拾圓の叙賜あり

○同坂本重吉は卅七年十一月第四十三聯隊補充大隊第三中隊に屬して出征し戰務に服す卅八年十一月多度津に凱旋す召集解除勳八等白色桐葉章金八拾圓の叙賜あり

○同津田駛斗松は卅七年十一月後備歩兵第四十三聯隊第八中隊に屬して出征し戰務に服す卅九年一月多度津に凱旋し尋て召集解除せらる叙勳同上並金百五拾圓を

賜ふ

○陸軍歩兵一等卒和泉義雄は卅八年四月後備歩兵第四十三聯隊第四中隊に屬して出征し戰務に服す十月高濱に凱旋す戰功に依り叙勳同上並金八拾圓を賜ふ

○同川尻留吉は同時出征し元山津に上陸し各處に轉戰す十一月朝倉本堂に凱旋す叙賜同上

○同別宮勘太郎は卅七年十一月同聯隊第七中隊に屬して出征し青泥窪に上陸し直に戰務に服す卅八年十一月召集解除せらる勳八等白色桐葉章金八拾圓の叙賜あり

○同湊菊太郎は同時出征し青泥窪に上陸し直に戰務に服す卅八年十一月多度津に凱旋す尋て復員に付召集解除せらる叙勳同上並金百圓を賜ふ

○同張間文次郎は同時出征す閲歴及凱旋召集解除同上叙勳同上並金八拾圓を賜ふ

○同蒲生安太郎は同年月野戰砲兵第十一聯隊補充大隊第二中隊に屬して出征す閲歴同上卅九年一月白方に凱旋す尋て召集解除せらる叙勳同上並金百圓を賜ふ

○陸軍輜重輸卒別宮音三郎は卅八年六月第十一師團第七補助輸卒隊に屬して出征し「サガレン島」「ナレイ」に上陸し戰務に服す十月青森に凱旋す卅九年四月復員に付召集解除せらる戰功に依り勳八等白色桐葉章及金五拾圓を賜ふ

○陸軍歩兵一等卒中崎文吉は同年四月後備歩兵第五十九聯隊第四中隊に屬して出征し安東縣に上陸し直に戰務に服す十一月多度津に凱旋し召集解除金五拾圓を賜ふ

○同林本彌平は卅八年三月第四十三聯隊第一中隊に屬して出征し南尖に上陸し直に戰務に服す七月詫間灣に凱旋す尋て召集解除勳八等白色桐葉章及金五拾圓の叙賜あり

○同柳川役太郎は同年同月同聯隊に屬して出征し各地に轉戰す卅九年一月詫間灣に凱旋す尋て復員に付召集解除せらる叙賜同上

○同竹內菊太郎は同年四月後備歩兵第五十九聯隊第十中隊に屬して出征し安東縣に上陸し直に戰務に服す十一月多度津に凱旋す尋て召集解除勳八等瑞寶章金七拾圓の叙賜あり

○同板見豐太郎は同年三月第四十三聯隊第六中隊に屬して出征し南尖に上陸し戰務に服す卅九年一月多度津に凱旋す勳八等白色桐葉章金百五拾圓の叙賜あり

○同坂本磯吉は卅七年十二月補充召集に應し卅八年三月第四十三聯隊第五中隊に屬して出征し卅九年一月復員に付召集解除せらる四月勳八等に叙し白色桐葉章並

金百圓を下賜せらる

○陸軍歩兵一等卒松本朝次郎は卅八年二月歩兵第四十三聯隊第十一中隊に屬して出征し鎭南浦上陸直に戰務に服す卅九年一月多度津に凱旋す尋て復員に付召集解除せらる戰功に依り叙勳同上並金百五拾圓を賜ふ

○同楠本文次郎は同年三月同隊に屬して出征し龍巖浦に上陸し直に戰務に服す凱旋及召集解除同上戰功に依り勳八等白色桐葉章金八拾圓の叙賜あり

○同中野善吉は同年月後備歩兵第四十三聯隊第六中隊に屬して出征し柳樹屯に上陸し直に戰務に服す十一月多度津に凱旋す尋て復員に付召集解除勳八等瑞寶章金八拾圓の叙賜あり

○同黒田政晴は同年同月同上に屬して出征し大連に上陸し直に戰務に服す凱旋及召集解除同上叙賜亦同上

○同増井清太郎は同年月歩兵第四十三聯隊第五中隊に屬して出征し南尖浦に上陸し直に戰務に服す卅九年一月多度津に凱旋す尋て復員に付召集解除せらる勳八等由色桐葉章金百五拾圓の叙賜あり

○陸軍砲兵輜卒森田宗太郎は卅八年三月野戰砲兵第十一聯隊第一中隊に屬して出征し梨花浦に上陸し直に戰務に服す卅九年一月多度津に凱旋す尋て召集解除せらる勳八等瑞寶章金七拾圓の叙賜あり

○陸軍工兵一等卒村上國之は同年五月野戰電信隊に屬して出征し安東縣に上陸し直に戰務に服す卅九年一月詫間灣に凱旋す尋て復員に付召集解除せらる勳八等白色桐葉章金八拾圓の叙賜あり

○陸軍歩兵一等卒卯賀藤吉は卅七年九月歩兵第四十三聯隊補充大隊第二中隊に屬して出征し營口に上陸し第五中隊に轉し十二月內地に歸還し尋て又出征す卅九年一月詫間灣に凱旋し尋て召集解除せらる勳八等白色桐葉章金貳百圓を賜ふ

○同坂井倉太郎は出征時期同上金八拾圓を下賜せらる

○同山本新吉又出征時期同上卅七年二月病の爲め第一野戰病院に入り終に內地に後送せらる卅八年二月再出征し大連に上陸す十一月多度津に凱旋し尋て召集解除となる叙勳同上金百圓を下賜せらる

○同松浦嘉一は同時應召し卅九年一月召集解除となる金五拾圓を下賜せらる

○同奥田德太郎は卅七年九月應召し十一月青泥窪に上陸し卅八年九月後備混成第十一旅團臨時機關砲隊に轉す十月前隊に復し尋て凱旋して召集解除せらる卅七八

○軍人功績履歷

年戰役の功に依り勳八等白色桐葉章並金百圓を下賜せらる

○陸軍歩兵一等卒井筒龜四郎は卅七年十一月出征し終に馬群丹に至り卅八年五月十五日負傷同地病院より善通寺に後送せられ五月十八日退院し八月再從軍し大連灣に上陸して戰役に就く卅九年一月凱旋し召集解除となる叙勳同上金弐百圓を賜ふ

○同土佐清太郎は卅七年九月應召して出征し卅九年一月凱旋す同月復員に付召集を解除せらる叙勳同上金百圓を下賜せらる

○陸軍工兵二等卒張間芳太郎は卅八年五月出征して安東縣に上陸し戰役に就く卅九年一月復員に付召集解除となる勳八等瑞寶章金七拾圓の叙賜あり

○陸軍砲兵二等卒加納政吉は卅八年四月野戰砲兵第十一聯隊補充大隊第三中隊に屬して出征す五月同隊を解散して野戰砲兵第十一聯隊補充大隊第二中隊と改稱せられ同隊に所屬して戰務に服す十月召集解除せらる金參拾五圓を下賜せらる

○陸軍歩兵一等卒佐野菊太郎は歩兵第四十三聯隊補充大隊第六中隊に屬して卅八年三月出征し戰務に從事す卅九年一月凱旋す勳八等金百圓を賜ふ十一月歸鄉す

○陸軍憲兵上等兵岩淺辰藏は卅七年七月韓國に出張して任務に從事す韓民の暴徒鎭定及偵察に最も努力せり後ち勳八等白色桐葉章並金八拾圓の叙賜あり

○陸軍砲兵輜卒瀧本彌三吉は卅八年八月應召野戰砲兵第十一聯隊補充大隊第二中隊に編入せらる十月召集解除功に依り勳八等白色桐葉章及金參拾五圓を賜ふ

○同角田政吉は卅八年四月應召野戰砲兵第十一聯隊補充大隊に屬して出征し七月彈藥縱列に轉す十一月復員に付召集解除せらる勳八等瑞寶章金七拾圓を賜ふ

○同輜重輜卒花木春吉は卅八年二月第九補助輜卒隊に屬して出征し戰務に服す卅九年一月多度津に凱旋す尋て召集解除せらる勳八等白色桐葉章金百五拾圓を賜ふ

○同濱勘太郎は卅八年六月第十一師團第十七補助輜卒隊に屬して出征し戰務に服す十月凱旋す卅九年四月復員に付召集解除せらる勳八等瑞寶章金七拾圓を賜ふ

○同松本半次郎は卅八年六月同上に屬して出征し戰務に服す十月凱旋す卅九年四月復員に付召集解除せらる功に依り勳八等白色桐葉章及金五拾圓を賜ふ

○同加藤政七は卅八年八月第十六師團輜重兵第十六大隊第一糧食縱列に屬して出征し大連に上陸し戰務に服す卅九年二月多度津に凱旋す尋て召集解除せらる金參拾五圓を下賜せらる

○同賀川菊松は卅八年六月第十一師團第十七補助輜卒隊に屬して出征し戰務に服す十月凱旋す卅九年四月復員に付召集解除せらる金五拾圓下賜せらる

○陸軍輜重輸卒板東彌十郎は卅八年八月歩兵第六十二聯隊第三大隊に屬して出征し大連に上陸し戰務に服す卅九年三月多度津に凱旋す尋て召集解除せらる功に依り勳八等白色桐葉章及金五拾圓を賜ふ

○同川崎芳吉は卅八年六月第十一師團第十七補助輸卒隊に屬して出征し戰務に服す九月凱旋す卅九年四月復員に付召集解除せらる功に依り勳八等白色桐葉章及金五拾圓を賜ふ

○同中野虎藏は同年同月同上に屬して出征し戰務に服す卅九年十月凱旋す尋て復員に付召集解除せらる功に依り勳八等白色桐葉章及金五拾圓を賜ふ

○陸軍砲兵一等卒町中多喜藏は卅七年五月野戰砲兵第十一聯隊第五中隊に屬して出征し旅順要塞攻擊及滿河城馬群丹英額城旅順等の戰圍に參與す卅九年一月凱旋す戰功に依り功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○陸軍步兵一等卒數度竹藏は宍喰村の人卅七年五月出征し黃泥川大上屯劍山老座山山川柳小孤山爽板咀附近に戰ひ負傷して第十一師團野戰病院に入りしは十月五日の事なり尋て內地に後送せられ十二月退院卅八年一月再出征し英額城大石頭勾ファンシャン嶺馬群丹等各地の攻守戰に參與し卅九年一月多度津に凱旋し尋て召

集解除せらる功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章を賜ふ

○同戎谷八百吉は卅七年九月出征し旅順要塞第二回本攻擊及北砲臺攻擊及守備の任務に服す卅八年二月病に罹り善通寺豫備病院に後送せらる八月再出征し十一月多度津に凱旋す尋て召集を解除せらる勳八等白色桐葉章金百圓の叙賜あり

○陸軍輜重輸卒濱脇春吉は卅七年九月出征し卅九年三月に至るの間青泥窪に在りて海上勤務に服す四月凱旋して召集解除せらる勳八等瑞寶章金八拾圓を賜ふ

○同森下注連吉は卅七年十月出征し青泥窪に上陸して戰務に服し卅八年三月より卅九年二月まで遼陽に於て戰地陸軍建築部第四建築班及大連建築本部の建築作業に從事す卅九年二月凱旋召集解除せらる勳八等白色桐葉章金貳百圓を賜ふ

○陸軍砲兵一等卒田中馬吉は卅七年六月より卅八年一月まで劍山東鷄冠山等の各地の戰圍に參加し同年六月廿五日に至り過員の爲め召集を解除せらる卅八年七月再び召集に應し入營し八月多度津を發して出征し戰務に服す十一月復員に付召集解除せらる卅九年四月一日勳八等白色桐葉章及金貳百圓の叙賜を拜す

○陸軍步兵一等卒戎谷德太郎は卅七年十月より卅八年三月まで三塊石山楊城塞西溝長嶺子哈家堡後臺孤家子奉天等各地の戰圍に從事す卅八年十一月召集解除せら

る卅九年四月一日勳八等白色桐葉章及金百五拾圓の叙賜を拜す

○陸軍輜重輸卒戎谷勝太郎は卅八年三月より卅九年一月まて溫道河子撫順其他各地の糧秣輸送に從事す卅九年一月召集解除せらる勳八等瑞寶章及金七拾圓を賜ふ

○同山下長藏は卅八年二月出征し戰務に服す三月病に依り義州兵站病院に入院し四月善通寺豫備病院へ後送五月退院同月依病召集解除せらる

○同宮本文次郎は卅七年十二月出征し養馬集本隊に屬し電信架設に從事す卅八年二月後備步兵第十三聯隊臨時機關砲隊へ分遣同廿日より三月まて樣子嶺萬里堡馬格山等名地の戰鬪に從事す五月南孤山兵站司令部に屬し道路改築架橋工事糧秣輸送等の勤務に服す卅九年一月草河城なる本隊へ復歸し二月善通寺に凱旋す尋て召集解除せらる四月一日勳八等白色桐葉章及金百圓を賜ふ

○同戎谷種吉は卅八年二月出征し三月より六月まて八家子蒼竹間の糧秣輸送に從事す六月病に依り八家子仝營病院へ入院七月善通寺豫備病院に入院し八月退院尋て召集解除せらる卅九年四月一日金五拾圓を賜ふ

○陸軍步兵一等卒川上國藏は卅八年五月出征し小白銀河年魚嶺曲柳川六官老觀嘉嶺田千屯に於て戰鬪及偵察の勤務に服す卅九年一月召集解除せらる四月一日勳八等白色桐葉章及金五拾圓の叙賜を拜す

○陸軍輜重輸卒岩國榮吉は卅七年十一月補充召集第十一師團輜重兵第十一大隊補充中隊に編入卅八年五月に至り召集解除せらる卅九年四月一日金參拾五圓を賜ふ

○同粟田初太郎は卅七年六月出征し八月病に依り凌水河子第一野戰病院に入院す尋て善通寺豫備病院に移り十一月不堪戰役召集解除せらる卅八年七月再第十一師團後備混成第十一旅團第一糧食縱列に應召十一月廿日召集解除金五拾圓を賜ふ

○同美馬百二は卅七年六月出征し卅八年十二月まて三十里堡臭水屯三道溝凌水家子李家屯黃泥川大上屯王子店山川柳大白山大孤山養馬集清家城三龍峪馬群丹蔡家堡子撫順前得古營盤南蒼什黑石木下章完二狄洛油伏洛八家子太瓢屯等に於て戰務に從事す卅九年一月多度津に凱旋す尋て召集解除せらる勳八等並金百五拾圓を賜ふ

○陸軍步兵一等卒宮本岩吉は卅七年五月出征し卅八年一月まて劍山小平島小孤山旅順本防禦線王家屯西方高地東鷄冠山北砲臺塁塁等の戰務に從事す卅八年二月眼病に罹り大孤山兵站病院に入院し三月九龍豫備病院第四分院に移り四月退院八月再出征し卅九年三月まて奉天省分水嶺大石橋蠔壺等に於て守備に服す同月多度津

に凱旋す尋て現役滿期解隊四月一日勳八等金貳百圓の叙賜あり

○陸軍歩兵上等兵生垣乙吉は卅七年五月出征し劍山猪圈子溝大白山山川柳小孤山等の戰闘に參加し負傷第三野戰病院に入院し九月善通寺豫備病院第二分院に移る十一月退院再出征し卅八年十月まて旅順本防禦線大孤山鳳凰城小高力營子傍家樓子西北高地馬群丹撫順瓜兒屯營盤沓什八家子南張木火羅大石頭溝小白銀河年魚嶺秀水店子等にて戰闘偵察守備の諸勤務に服す卅九年一月多度津に凱旋す尋て召集解除せらる功七級金鵄勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同伍長米田祖父五郎は卅七年四月出征し除家屯西沙河口三椿柳王家溝猪圈子溝劍山凌水家子高洞大白山漁海島郭家溝小孤山等の戰闘及守備に服す卅八年十月營盤撫順奉天等に於て鈴木兵站司令部に屬し各部隊の宿營設備に從事す卅九年三月凱旋す尋て召集解除せらる勳八等並金貳百圓を賜ふ

○同工兵伍長伊丹宇之助は卅七年五月出征し卅八年十二月まて旅順要塞攻撃作業及東鷄冠山奉天渾河城馬群丹撫順等の戰闘に參加し營盤二道河子八家子渾河等の架橋作業に從事す卅九年一月多度津に凱旋す尋て召集解除せらる叙賜同上

○同歩兵一等卒中島久吉は同時出征し頭道溝黄泥川大上屯山東高地大孤山小孤山旅順本防禦線内鷄冠山等に於て戰闘守備に服す卅八年八月より卅九年三月まて小分水大石橋壓臺等に於て守備に服す同月凱旋尋て召集解除せらる叙賜同上

○同上等兵谷岡惠吉は同時出征し劍山大孤山小孤山旅順本防禦線雙子山一戸堡壘城廠小高力營子三道河三龍峪「スイチヤリン」沓什英額邊門孤家子大石頭溝南山城子等に於て戰務に服す卅九年一月凱旋尋て召集解除せらる功七級金鵄勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同一等卒大黒貞吉は戰歷畧同上卅八年十一月多度津に凱旋す尋て召集解除せらる卅九年四月一日勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同上等兵丸岡爲吉は同上卅九年一月多度津凱旋尋て召集解除せらる四月一日叙勳同上並金貳百圓の叙賜を拜す

○同伍長生垣庄吉は卅七年四月出征し八月小孤山に於て負傷第三野戰病院に入り九月善通寺豫備病院に後送せらる十一月召集解除卅九年四月一日功七級金鵄勳八等勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○同一等卒小南善次郎は同時出征し各地の戰闘に參加す卅八年一月脚氣病に罹り戰地病院に入院し六月善通寺豫備病院に後送せらる七月召集解除勳八等白色桐葉

章金百五拾圓の叙賜あり

○陸軍歩兵一等卒佐野儀太郎は卅七年出征し遼陽煙臺沙河奉天の戰闘に參加す卅八年十一月召集解除叙勳同上並金百圓を賜ふ

○同軍曹吉野市太郎は卅七年四月出征して鳳凰城三龍峪撫順范河馬牛泉堡倉家屯二道房鮑家屯家城子營盤等の戰闘及前哨守備に服す卅八年十一月召集解除せらる勳七等青色桐葉章金參百圓の叙賜あり

○同伍長朝賀佐太郎は卅八年三月出征して六官巷大石頭溝秀水何子六家子等の戰務に服す卅九年一月病により撫順分院に入院す二月善通寺豫備病院に後送尋て召集解除せらる勳八等瑞寶章金八拾圓を賜ふ

○同上等兵芝巢吉は卅七年六月出征し首山堡遼陽東鷄冠山其他の戰闘を經て竟に馬群丹英額邊門福家杏年魚嶺等の戰闘及守備に服す卅九年一月凱旋す尋て召集解除勳八等白色桐葉章金百五拾圓を賜ふ

○陸軍輜重兵一等卒近藤與三郎は卅七年六月從征し青泥窪遼陽鳳凰城塞馬集營盤奉天等に於て戰務に服し同年二月召集解除せらる叙賜同上

○陸軍歩兵一等卒上田淺次郎は同時出征して鞍山店首山堡遼陽奉天等の戰闘に參加し卅八年十一月召集解除せらる勳七等青色桐葉章金百五拾圓の叙賜あり

○同中島德藏は卅七年八月出征し鞍山店首山堡遼陽三塊石山楊城塞西溝奉天城廠撫順營盤塔灣等の戰闘及守備に服す卅八年十一月召集解除勳八等瑞寶章金八拾圓を賜ふ

○陸軍一等看護長佐藤幸雄は卅七年六月旅順方面撫順大瓢屯遼陽營盤奉天等の戰闘及守備の勤務に服す卅八年二月召集解除功七級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○陸軍輜重輸卒大黒彌藏は卅七年四月出征し七月病に罹り青泥窪兵站病院に入り八月九龍豫備病院に移さる十月病氣に依り召集解除戰役の功に依り金五拾圓を賜ふ

○陸軍砲兵一等卒渡部兼藏は卅八年五月召集卅九年一月召集解除賜金同上

○同片岡松次郎は卅七年十二月出征し奉天華子峪馬群丹撫順營盤李子戶屯馬前塞子八家子等の戰闘及守備に參加し卅八年十一月凱旋召集解除せらる勳八等白色桐葉章金百圓の叙賜あり

○同新田龜太郎は卅七年十二月出征し卅八年二月奉天馬群丹撫順營盤永陵等に戰

ひ十一月召集解除卅九年四月一日叙勲同上並金百五拾圓を賜ふ

○陸軍砲兵一等卒前田鹿太郎は戰歿同上卅八年三月病に罹り逝子峪に殘留尋て全治復隊十一月召集解除勲七等青色桐葉章金八拾圓の叙賜あり

○同森久吉は戰歿同上卅八年十一月多度津に凱旋す尋て召集解除勲七等青色桐葉章の叙賜を拜す

○同青山伊之吉は卅八年二月松山衛戍及俘虜警衛に從事す十月召集解除金五拾圓を賜ふ

○同廣田金太郎は同上

○陸軍歩兵上等兵佐野兵太郎は卅七年四月出征し奉家屯猪圏子溝劍山大白山郭家溝小孤山一戸堡壘水洞子傳家樓子鉢巻山三髻峪撫順二大羅英額城轉灣溝石頭溝南山城子曲柳川等の戰鬪及守備に服す卅八年十月疾に罹り英額城野戰病院に入り十一月善通寺豫備病院に後送せらる卅九年二月事故退院尋て召集解除功七級金鵄勲章勲八等白色桐葉章の叙賜あり

○同一等卒森慶藏は同年九月出征し翌年三月海鼠山戰鬪の際負傷溝壑第六師團野戰病院に入院し尋て善通寺豫備病院に後送せらる五月退院卅九年一月兵役免除勲

八等金八拾圓を賜ふ

○同河内喜一は卅七年十一月出征し十二月負傷す第二野戰病院を經て善通寺豫備病院に後送せらる卅八年四月退院十一月負傷に依り兵役免除せらる卅九年四月一日勲八等白色桐葉章金百圓の叙賜あり

○同上田和藏は卅七年四月出征し黄泥川大上屯北河老座山山川柳小孤山鉢巻山等の戰鬪に參加し卅八年三月五百牛泉の戰鬪中負傷安東縣兵站病院に入り四月善通寺豫備病院に後送せらる六月退院十一月兵役を免除せらる叙勲同上並金貳百圓を賜ふ

○同戒谷繁太郎は同時出征し小孤山前雙子山戰鬪の際負　青泥窪　站病院を經て善通寺豫備病院に入院す卅八年二月依負傷兵役を免除せらる叙賜同上

○同石本馬藏は同時出征し八月小孤山に於て負傷竟に善通寺豫備病院に後送せらる卅八年五月兵役免除勲八等白色桐葉章金百五拾圓の叙賜あり

○同谷澤林藏は卅七年六月出征して鞍山店首山堡遼陽三塊石山楊城塞及西溝附近の戰圍に參加し十月十四日負傷し第十一師團第二野戰病院を經て善通寺豫備病院に後送せられ尋て兵役を免除せらる勲七等青色桐葉章並金百五拾圓を賜ふ

○陸軍歩兵一等卒升谷長次郎は廿七年八月出征し旅順攻圍軍に屬して各地に戰闘す廿八年三月假頭山附近に於て負傷し第二野戰病院に於て療養の後兵役を免除せらる廿九年四月一日勳八等に叙し白色桐葉章並金貳百圓を賜ふ

○陸軍工兵上等兵長尾照吉は廿七年十二月出征し營陽邊門塞馬集附近に於て戰務に服す廿八年五月分水嶺に於て疾に罹り塞馬集兵站病院を經て善通寺豫備病院に後送せられ尋て兵役を免除せらる叙勳同上並金八拾圓を賜ふ

○陸軍歩兵上等兵西尾馬太郎は廿七年五月出征し旅順攻圍軍に參加し廿八年三月三家子に於て關節僂麻質斯症に罹り善通寺豫備病院に後送せらる廿九年十月兵役を免除せらる勳八等並金貳百圓を賜ふ

○陸軍砲兵二等卒西山役藏は廿八年五月第十一聯隊第二中隊に編入せられ八月過員召集解除せらる廿九年四月金參拾五圓を賜ふ

○陸軍輜重輸卒多田由太は廿八年八月出征し金家屯八寶屯小塔子東河夾心馬峰溝三家子奉天等に於て戰務に服す廿九年二月多度津に凱旋し召集解除金五拾圓を賜ふ

○同田井矢は廿八年六月應召し一旦召集解除せられしも七月再應召して歩兵第十二聯隊に入り屢轉隊の後八月病に罹り入院し九月召集解除せらる金廿五圓を賜ふ

○陸軍歩兵一等卒山下丑次郎は廿八年三月出征し柳樹屯に上陸し直ちに戰務に服す十一月多度津に歸還し召集解除せらる勳八等並に金八拾圓を賜ふ

○同二等卒長瀨由太郎は廿八年四月出征し安東縣に上陸し疾に罹り榮滯兵站病院に入院し七月善通寺豫備病院に轉院す十二月退院召集解除金參拾五圓を賜ふ

○同一等卒戸田楠太郎は同時出征し撫順附近東蚊什兵站守備に服す十一月多度津に凱旋し召集解除勳八等並金七拾圓を賜ふ

○陸軍輜重輸卒上田四郎吉は廿八年二月出征し遼陽に於て戰務に服す廿九年二月多度津に凱旋し召集解除叙勳同上並金百五拾圓を賜ふ

○同海部惠吉は廿七年四月出征し大連石佛寺後孤家子小房身雙樹子遼陽鐵嶺等の戰務に服す廿九年二月多度津に凱旋し尋て召集解除四月勳八等並金七拾圓を賜ふ

○同砲兵二等卒松下寬太郎は廿八年三月應召野戰砲兵第十一聯隊第三中隊に編入五月第二中隊に轉す八月召集解除せらる廿九年四月一日金參拾五圓を賜ふ

○同米田正一は廿八年三月應召八月過員召集解除せらる金參拾五圓を賜ふ

○同吉田政吉は廿八年二月應召同聯隊第一中隊に編入六月過員召集解除せらる同

○陸軍歩兵一等卒丸岡禎二は卅八年八月出征し板子庵附近の戰鬪に參加す卅九年一月多度津に凱旋す尋て召集解除金八拾圓を賜ふ

○同袋露芳藏は同時出征し撫順兵站司令部守備に服す同時凱旋金五拾圓を賜ふ

○同高木信太郎は卅八年三月出征し柳樹屯に於て戰務に服す十一月多度津に凱旋す尋て召集解除せらる金八拾圓を賜ふ

○同海部善一は同時出征し印頭溝年魚嶺小白銀河大石頭溝南山城子等の戰鬪及偵察守備に服す同時凱旋召集解除勳八等並金百圓を賜ふ

○同俵谷德太郎は同時出征し同時凱旋召集解除勳八等並金七拾圓を賜ふ

○同花山萬二は卅八年四月出征し朝鮮元山津に於て戰務に服す十一月高濱に凱旋す尋て召集解除勳八等並金八拾圓を賜ふ

○同小南美季藏は同時出征す閱歷同上十一月召集解除せらる叙賜同上

○同森武藏は卅七年八月出征し十月三塊石山附近の戰鬪中負傷第一野戰病院に入り十一月普通寺豫備病院に後送せらる十二月退院卅八年一月再征して小高力子營子三道河三龍峪英額城孤家子大石頭南山城子大石頭溝李石塞等に於て戰鬪及守備に服す卅九年一月多度津に凱旋し尋て召集解除せらる勳八等並金貳百圓を賜ふ

○陸軍歩兵一等卒野田理一は卅七年十一月出征し卅八年三月奉天會戰に參加す八月疾に罹り開原兵站病院に入院す尋て普通寺豫備病院に移る十一月退院卅九年一月召集解除せらる勳八等並金貳百圓を賜ふ

○陸軍工兵一等卒笹川松藏は卅七年十二月出征し東鷄冠山旅順要塞貔子窩大孤山鳳凰城奉天清河城馬群丹撫順營盤二道河子八家子運河等に於て戰鬪及勤務に服す卅九年一月多度津に凱旋し尋て召集解除せらる勳八等並金百圓を賜ふ

○陸軍輜重輸卒金本留吉は卅八年八月出征し金家屯小塔子大房身等に於て戰務に服す卅九年二月多度津に凱旋す尋て召集解除せらる金五拾圓を賜ふ

○陸軍歩兵一等卒戎谷熊太郎は卅七年出征し旅順本防禦線攻圍並三龍峪撫順木英額城大石頭溝南山城子曲柳川盪廠南方高地三寶屯等の戰鬪及守備に服す卅九年一月召集解除功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章を賜ふ

○同川田馬吉は卅八年六月出征し大石頭勾附近に於て戰鬪及守備に服す卅九年一月多度津に凱旋す尋て召集解除せらる勳八等並金八拾圓を賜ふ

○同中西仲藏は卅七年九月出征し青泥窪に上陸して直に大孤山前旅順要塞攻圍線

の守備に參加し尋て東鷄冠山北砲臺二龍山望臺等の諸戰に參加して卅八年一月に至り病を以て青泥窪兵站病院に入り遂に善通寺豫備病院に後送せらる十一月廿五日召集を解除せらる卅九年四月一日勳八等に叙し金百五拾圓を賜ふ

○陸軍砲兵輜卒佐藤長二は卅八年五月應召第十一師團野戰砲兵第十一聯隊補充大隊第一中隊に入り八月病に依り召集解除せらる卅九年四月一日金參拾五圓を賜ふ

○同歩兵一等卒戎谷祖父吉は卅八年八月大連灣に上陸し後備第四十三聯隊第六中隊に屬して戰務に服し十一月多度津に凱旋す召集解除勳八等並金七拾圓を賜ふ

○同戎谷長藏は卅七年十一月出征し十二月一戸砲臺戰鬪中負傷第一野病戰院に入り卅八年一月廣島を經て善通寺豫備病院に入院す三月退院再征し柳樹屯に上陸し戰務に服す十一月多度津に凱旋し召集解除せらる勳八等並金百圓を賜ふ

○陸軍輜重輜卒石井長太郎は卅七年八月出征し十一月疾に罹り青泥窪兵站病院に入院し尋て善通寺豫備病院に入る十二月依病召集解除金參拾五圓を賜ふ

○陸軍砲兵二等卒元木米藏は卅八年五月應召野戰砲兵第十一聯隊補充大隊第四中隊に入り七月第一中隊に轉隊九月依病召集解除せらる賜金同上

○同輜重輜卒樽井作太郎は卅七年七月出征し九月疾に罹り甜水店兵站病院に收容せられ十月善通寺豫備病院に移り十一月依病召集解除勳八等金八拾圓を賜ふ

○同工兵一等卒井口熊吉は卅八年二月出征し三月病に罹り營盤定立病院に入り竟に善通寺豫備病院に移る七月退院十月復員召集解除勳八等並金七拾圓を賜ふ

○同輜重輜卒小南淺次郎は同時從軍撫順千金堡溫道河子前得古營盤高麗營子南蓉什黑石子豆腐屯二道河八家子等の戰務に服す十月疾に罹り八家子舍營病院へ入り竟に善通寺豫備病院に移る後退院尋て召集解除叙賜同上

○陸軍歩兵一等卒森彌之吉は卅七年十二月補充員を以て第四十三聯隊に入り卅八年三月出征し五月三日胸膜炎に罹り善通寺に後送せられ八月退院卅九年一月召集解除せらる勳八等白色桐葉章金八拾圓の叙賜あり

○陸軍歩兵一等卒濱口增吉は日和佐村平民にして卅七八年戰役の功に依り功七級金鷄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同多々川虎吉は同上に依り功七級金鷄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○同軍曹野口金藏は同上に依り功六級金鷄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○同德永利吉は同上に依り功七級金鷄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○同上等兵左海茂三郎は同上に依り功七級金鷄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

先是卅七年八月十九日乃木第三軍司令官の感状を預ち與へらる

○陸軍歩兵一等卒土佐佐藤吉は阿部村平民にして卅七八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○陸軍工兵上等兵菊野宗次郎は同上に依り同上の叙賜あり

○同歩兵一等卒福岡留藏は淺川村平民にして同上に依り同上の叙賜あり

○同上等兵須賀菊太郎は同上に依り同上の叙賜あり

○同一等卒川野福藏は同上に依り同上の叙賜あり

○同軍曹鄕川長藏は同上に依り功七級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○陸軍歩兵一等卒西山祖父松は川東村平民にして卅七八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同伍長吉田恒次郎は同上に依り功七級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○同上等兵乃一由藏は同上に依り功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同軍曹乃一熊藏は同上に依り功七級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○同上等兵前川長太郎は同上に依り功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○陸軍砲兵上等兵鍛冶田行藏は同上に依り同上の叙賜あり

○同一等卒森下米藏は同上に依り同上叙賜あり

○同歩兵一等卒川西政吉は三岐田村平民にして卅七八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同上等兵久保田傳藏は下木頭村平民にして同上に依り功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○同軍曹福井幾郎は一本岐村平民にして卅七八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章勳七等青色桐葉章の叙賜あり

○陸軍砲兵上等兵新田伊三太は中木頭村平民にして同上に依り功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章の叙賜あり

○陸軍歩兵一等卒與谷福太郎は川上村平民にして同上に依り同上の叙賜あり

○同軍曹岡田淺藏は川東村の人卅七年十一月應召し十二月軍曹に進み卅八年十一月召集解除せらる

○同一等卒丸本庄藏は同年十二月應召卅八年三月疾の爲め歸鄕を許され六月復隊十一月召集解除せらる

○同乃一牛之亟は同年十二月應召卅八年一月出征して柳樹屯に上陸し十一月多度

津に凱旋す尋て復員に付解除せらる

○陸軍歩兵一等卒山下島吉は同年十二月應召廿八年三月出征して同所に上陸し十一月多度津に凱旋す尋て復員に付解除せらる

○同長江萬次郎は同年四月應召七月出征して八月同所に上陸し廿八年十一月多度津に凱旋す尋て復員に付召集解除せらる

○同乃一仁平は同年十二月應召廿八年四月出征して九月一等卒に進む十一月召集解除せらる

○同乃一早藏は同年九月應召同月出征して廿八年三月負傷し内地に後送せらる善通寺豫備病院に入院す後退院し七月再ひ出征し十一月多度津に凱旋す尋て召集解除せらる

○同板東良藏は廿七年十二月應召廿八年三月出征して柳樹屯に上陸し十月一等卒に進み十一月多度津に凱旋す尋て復員に付召集解除せらる

○同新居由太郎は同年六月應召七月出征して八月二等卒に進む廿八年三月負傷し十一月召集解除せらる

○同川内德藏は同年四月應召八月出征して柳樹屯に上陸し廿八年十一月多度津に凱旋す尋て召集解除せらる

○同田中貞吉は同年六月出征し張家屯に上陸し戰務に從事中十一月に至り脚氣病に罹りて善通寺豫備病院に收容せられ尋て召集解除せらる廿八年八月又補充召集に應し再出征して大連に上陸し十一月多度津に凱旋し直に召集解除せらる

○同輜重輸卒中上五郎吉は廿八年八月應召十一月召集解除せらる

名西郡

○陸軍歩兵上等兵鎌田俊藏は入田村の人廿七年五月現役を以て出征し六月第四十三聯隊に屬して黄泥川大上屯附近の戰鬪に參加せしを首とし劍山山柳川小孤山等の各激戰に從事し遂に廿八年一月二日旅順要塞の陷落に遭逢せり廿七年十月十八日附土屋第十一師團長の奇襲隊に與へられたる賞詞を頒與せらるる後鴨綠江軍に編入せられて又各地に轉戰し北進して大石頭勾を守備し廿九年二月凱旋して解散せらる廿七八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章勳八等白色桐葉章を賜ふ

○同伍長木村嘉十郎は右同時出征し又旅順攻圍戰及鴨綠江軍に參加して各地に轉戰し廿八年三月任伍長廿九年一月凱旋す叙同級勳七等青色桐葉章を賜ふ

○陸軍憲兵少佐石井樞藏は石井村の人廿七年二月清國駐屯軍憲兵長より函館憲兵

分隊長に轉任す時に露國艦隊津輕海峽に來航せしを以て警戒及市民の鎭撫安堵に力む同月十四日には函館要塞地帶内に戒嚴令を布かれたるを以て敵國に通するの疑ひあるものゝ信書電報檢閲の勤務に當る十八日には敵の間諜たる嫌疑ある澤克已以下露國人「アレキサンドル、デレヒー」等卅八名を要塞地帶外に退去せしむるの要あることを報告して實行せらる八月第七師團憲兵長に轉し旭川舍營地警戒の勤務に從ふ十月戰地に出征の爲め旭川を發し青森大阪を經て大連に上陸す十一月旅順總攻擊に參加し二〇三高地攻擊戰に參加す此れより各地の戰鬪に參加し又俘虜受領委員となりて旅順陷落後の俘虜收容事務に從事す卅八年二月黄泥窪を發して阿司牛莱不街達子堡姚家屯其他各地附近の戰鬪に參加し五月終に法庫門を經て康平に舍營す同月卅日叙勳四等賜瑞寶章六月間諜康平縣知縣段鴻壽外二十二名を逮捕す九月任少佐十月叙從六位卅九年二月鐵爐堡を發し奉天柳樹屯を經て室蘭に凱旋し旭川に歸營す卅七八年戰役の功に依り旭日小綬章及金貳千圓を賜ふ

○陸軍砲兵上等兵大黑辰藏は卅八年四月三日附川村鴨綠江軍司令官より第十一師團彈藥大隊に對し授與したる感狀を頒與せられしことの外記事なし

○陸軍步兵中尉河崎和一は浦庄村平民にして卅五年二月將校試驗に及第卅六年三月任少尉六月叙正八位卅七年八月野戰步兵第十二聯隊に屬して出征し青泥窪に上陸して旅順包圍戰に參加し十一月廿三日東鷄冠山瘤山陣地に於て負傷し竟に善通寺豫備病院に後送せらる十二月退院第十二聯隊補充大隊に編入せられ同大隊長の賞詞を受く卅八年二月再出征して韓國鎭南浦に上陸して北進す任中尉四月叙從七位五月英額城附近の前哨及戰鬪に從事し卅九年一月凱旋召集解除

○同特務曹長松本秀藏は卅七年五月出征し六月旅順攻圍軍に屬して猪圈子以下各諸戰に參加し八月廿三日病に罹り善通寺豫備病院に於て療養す九月退院第四十三聯隊補充大隊第一中隊に編入せらる十二月任曹長卅八年十一月多度津に凱旋す卅九年四月一日功七級金鵄勳章勳七等青色桐葉章を賜ふ

○陸軍砲兵中尉加藤宗太郎は高原村士族にして卅七年八月出征し野戰砲兵第十一聯隊に屬して旅順包圍戰に參加し卅八年九月年魚嶺の戰鬪に終る是年八月任中尉十月叙從七位卅九年一月凱旋召集解除せらる卅九年四月一日勳六等單光旭日章の叙賜あり

○同少尉遠藤龍作は臺灣守備隊より轉して征露の役に服せしは卅八年五月にして同月英額城の攻擊に參加す以下戰歷同上

○陸軍三等軍醫吉田隆平は高原村平民にして卅八年七月大阪豫備病院に配屬せられ十二月十七日まで内地に勤務す

○同手塚正胤は卅八年八月大連に上陸し卅九年三月鐵嶺に至りて凱旋し召集解除せらる卅八年十月叙正八位

○同二等軍醫原田富雄は卅七年七月任三等軍醫大阪豫備病院に勤務す八月出征して青泥窪に上陸し同地兵站病院に勤務す九月叙正八位卅八年十一月任二等軍醫十一月叙從七位卅九年二月金澤に凱旋して召集解除せらる

○陸軍歩兵特務曹長稻井周藏は第四十三聯隊第六中隊に屬して内地の勤務に從事し卅八年二月出征して韓國鎭南浦に上陸し五月病に罹りて營盤病院に收容せられ竟に善通寺に歸還す十月退役す勳六等單光旭日章を賜ふ

○陸軍工兵軍曹多積正一郎は藍畑村平民にして卅七八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章勳七等に叙せらる

○陸軍歩兵伍長相原儀太郎は入田村平民にして同上に依り同上の叙賜あり

○陸軍砲兵伍長中原佐市は藍畑村平民にして同上に依り功七級金鵄勳章勳八等に叙せらる

○陸軍歩兵一等卒坂野勝藏は鬼龍野村平民にして同上に依り同上の叙賜あり

○同軍曹阿部芳次郎は石井村平民にして同上に依り功七級金鵄勳章勳七等の叙賜あり

○同上等兵河野武平は石井村平民にして同上に依り功七級金鵄勳章勳七等の叙賜あり

○同佐藤滿太郎は高川原村平民にして同上に依り同上の叙賜あり

○同伍長佐藤梅太郎は高川原村平民にして同上に依り同上の叙賜あり

○同一等卒楢井熊藏は高志村平民(以下同し省く)にして同上に依り同上の叙賜あり

○陸軍砲兵上等兵井内龍平は卅七八年戰役の功に依り同上の叙賜あり

○陸軍歩兵上等兵三好權七は同上に依り同上の叙賜あり

○同一等卒武市恒藏は同上に依り同上の叙賜あり

○同北野萬次は藍畑村平民にして同上に依り同上の叙賜あり

○同原田保平は藍畑村平民にして同上に依り同上の叙賜あり

○同北島政五郎は浦庄村平民にして同上に依り功七級金鵄勳章勳八等の叙賜あり

○同上等兵森西由次郎は神領村平民にして同上に依り同上の叙賜あり